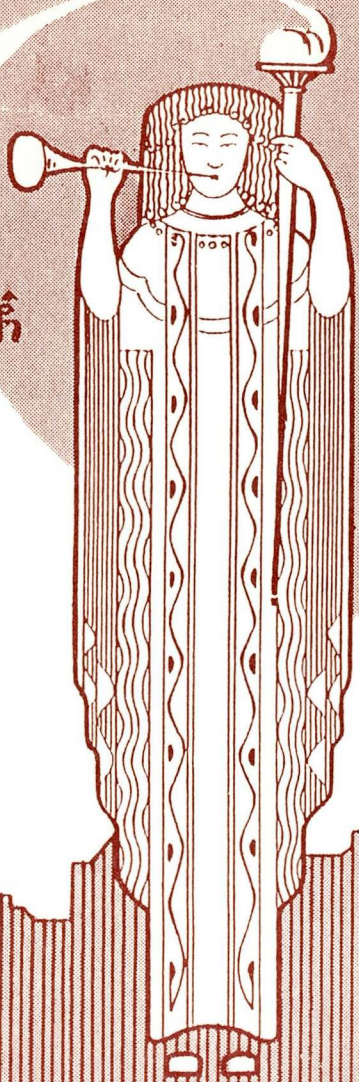
日本建築協會雜誌

大正六年九月十日（第三種郵便物認可）
大正八年四月廿五日（毎月一回廿五日発行）



第二輯　第四號

大正八年四月二十五日

日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ置ク地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラムト希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ノ詮衡ヲ經テ例會ニ於テ之ヲ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ贊成シ事業ヲ援助スル者ヲ賛助員トス

賛助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽賛助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身賛助員―金百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別賛助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通賛助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

賛助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身賛助員タラムトスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別賛助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通賛助員タラムト欲スル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有ス

會員ハ會內ニ於ケル其言行ニ付會外ニ於テ責ニ任ゼザルコトヲ得

名譽賛助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムベシ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚シ又ハ行爲アリト認メラルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ニ脫會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求ノ又ハ其債務ヲ免カルルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名

四　理事　六名

會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會務ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選擧ス但會頭副會頭ハ名譽賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

後員ノ任期ハ貳年トス

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主　記　一名

二　計　一名

三　編　輯　三名

四　編　輯　若干名

五　書　記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トスコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應ジ例會ノ決議ニ依リ各部委員會ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ囑託委員トスコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ每月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催スヲ但理事會ハ必要ト認ムルトキ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ豫告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラス

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行フ事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究

二　調査研究報告ノ發表

三　建築ニ關スル重要事項ノ建議決議擧案ノ實行促進

四　會誌ノ發刊

五　建築ニ關スル圖書ノ刊行

六　建築ニ關スル講演會ノ開催

七　建築ニ關スル展覽會ノ公開

八　建築ニ關スル視察

九　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

十　理想的建築ノ計畫

十一　其他建築ニ關スル有益ナル事項

第二十條　會員ハ會費年額金拾貳圓ヲ本會ニ據出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ會百圓以上ヲ出ス者ハ爾後前項ノ會費ヲ免ス

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スベシ

特別賛助員ハ特別賛助費年額金六圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助費年額金參圓ヲ本會ニ前納スベシ

但六期以內ニノ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金賛助費其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

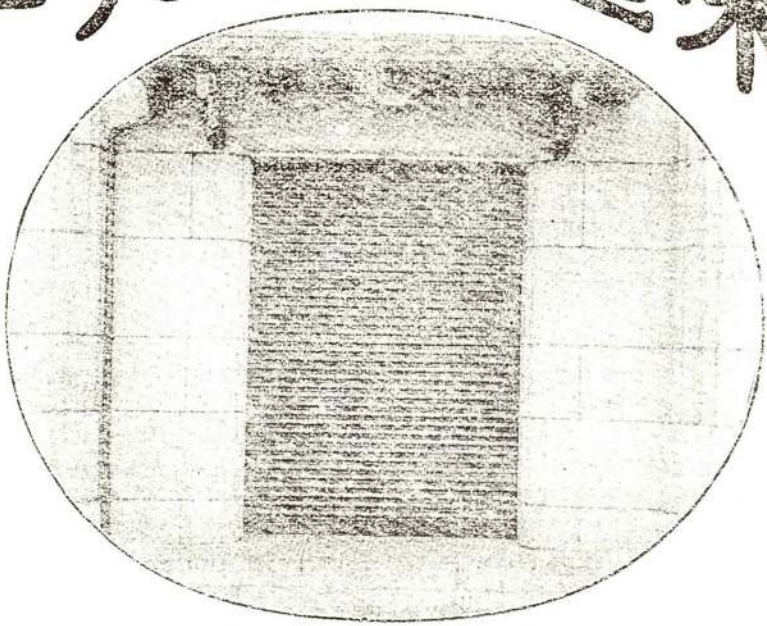
第二十二條　本會ノ財產債權債務及每月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

本會ノ財產債權債務及每年ノ收支ハ理事會ノ決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

榮進式速開捲上防火戸



開閉の簡易　戸を開くには極めて輕く捲上げ得可く戸を閉すには一々把手を以て捲降すを要せず唯把手面の小蓋を反轉すれば適當の標準速度を以て自働降下す

速度の加減　把手面に包容せる速度調整機には加減弁あるを以て前記標準速度を或る範圍内に於て隨意に變更することを得るの便あり

防火力と體裁　戸鈑は波狀型を付せる狹き軟鋼鈑を巧に接續したるものにして容易に摩耗腐蝕することなく防火力優秀にして外觀亦豊麗なり

構造の堅實　各部分の機構堅牢なるを以て日常の取扱ひ輕滑至便にして工合極めて宜し

取付の簡便　如何樣なる種類の建物如何樣なる構造の窓出入口等にも取付簡單にして又把手圖は隨所に設くることを得るの便あり

最近御用命を蒙りたる建物の二三を擧ぐれば

東京貯藏銀行赤坂支店　山田弗百〇五銀行
同　株式取引所　松江日本銀行支店
同　田中鑛山株式會社　下關鈴木商店
同　北三井家寶庫　門司日本銀行西部支店
同　澁野邸　博多共保生命支店
橫濱正金銀行支店　熊本日本銀行支店
同　澁澤商店　同第一銀行支店
大阪三品取引所　鹿兒島第百四十七銀行
同　藤田組營業所　富山高岡銀行支店
同　第三銀行堂島支店　京城內國通運倉庫
神戸繪淵紡績營業所　同大同生命支店

價格　假額は戸の大小形狀等により其坪當り單價に隨分相違有之又御設計により覆蓋其他特植の設備を要する場合も有之候間御豫算の都度御手數乍ら寸法御申越の上見積方被仰付度候

東京市神田區新石町五番地
（電話神田一七五〇番）
合資會社　榮進社

日本建築協會雜誌 第貳輯 第四號

目次

口繪 大阪城（三色版）
口東京市街の現狀（其十一、其十二、其十三、其十四、其十五、其十六）

△都市兩法案の通過 …… 會員 片岡安 …… 一
△東京大改造論(四) …… 會員 片岡安 …… 二
△消防瑣談 …… 大阪府警察部消防課長警視 福原金吾 …… 一三
△倫敦に於ける住居問題委員會の報告(下) …… 會員 S T生譯 …… 一九
△都市計畫に就て …… 大阪市區改正部長工學博士 直木倫太郎 …… 二三
△建築樣式の意義を論ず（二） …… 會員 波江悌夫 …… 二八
△都市と建築 …… 二三
口東京市營住居と其一例 …… 東京市技師工學士 福田重義談 …… 三三
口都市學理的完成の必要 …… 法學博士男爵 阪谷芳郎談 …… 三八
口都市の細民住宅 …… 都市協會幹事 藤原俊雄談 …… 四三

△名流の住宅觀……四八
□家を建つ可き場合と建てなくてよい場合……棚橋絢子談……四八
□理想的の家は住み心地のよい家……山脇房子談……五二
△現代社會觀(四)……郊外生……五六
□我市の中央公會堂は如何に使用されつゝありや……特別賛助員……伊藤清造……六三
△京都古建築觀(八)……會員……谷民藏……七一
△臺灣營林局の事業に就て(三)……會員……溪月生……七七
△建築材料委員會に望む……會員……N T生……八一
△「テームス」河(中)……八四
△時報……
□故名譽賛助員辰野金吾氏
△會報……九八
△編輯たより……一〇三

附錄

△現行伯林建築條例……一二頁

尾州檜及桷材ノ代用

臺灣檜特賣

乾燥挽立材
及原材

品質優等、安價ニシテ洋館雜作、日本家、並ニ建具、指物用、

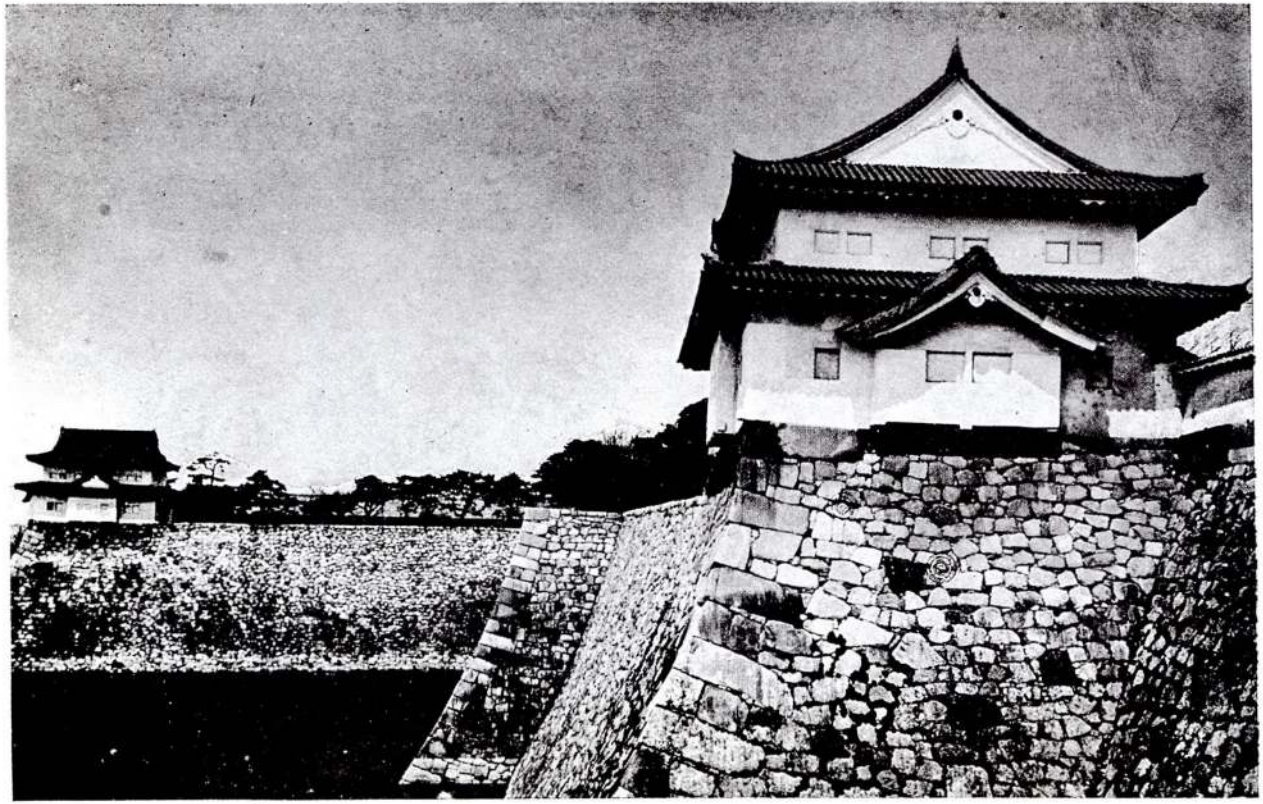
內地產建築材及米松各種

池谷

木材製材部

電話南一四九〇、西四〇三二

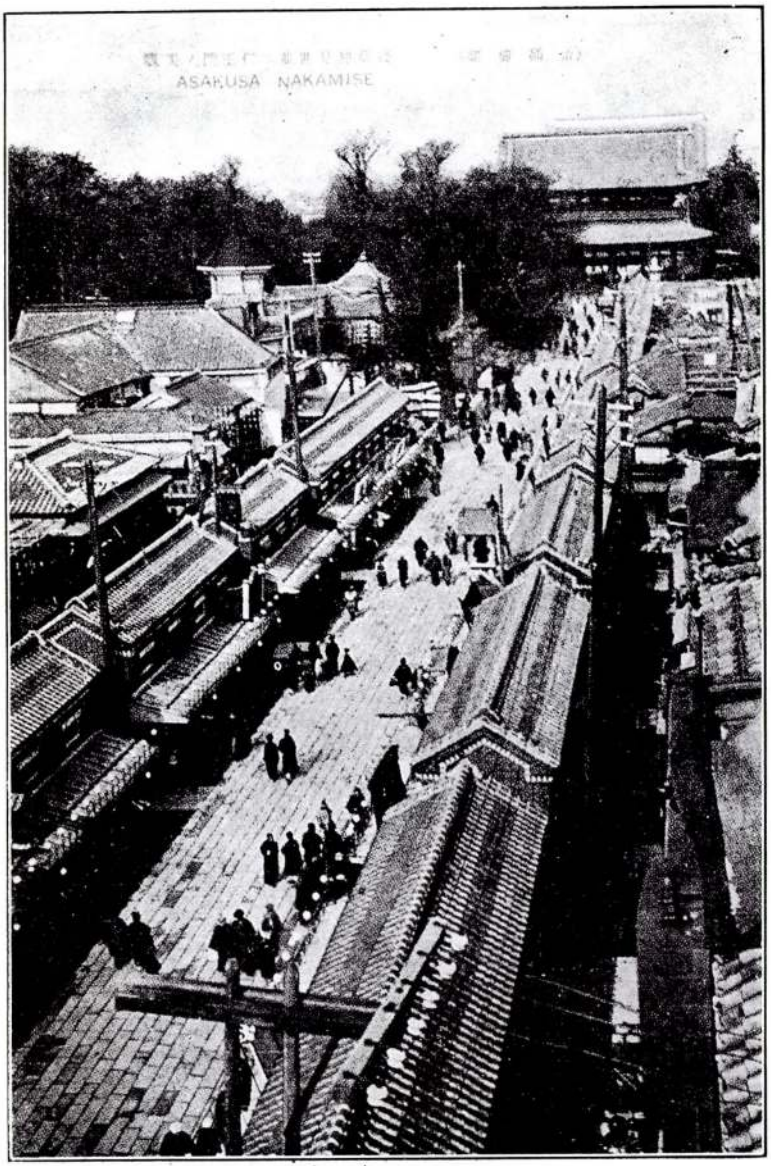
大阪市南區今宮町十三間川



大手門前より見たる大阪城

大阪(栗田製版印刷)

東京市街の現狀（其十一）



淺草仲見世並に仁王門

東京市街の現狀（其十二）

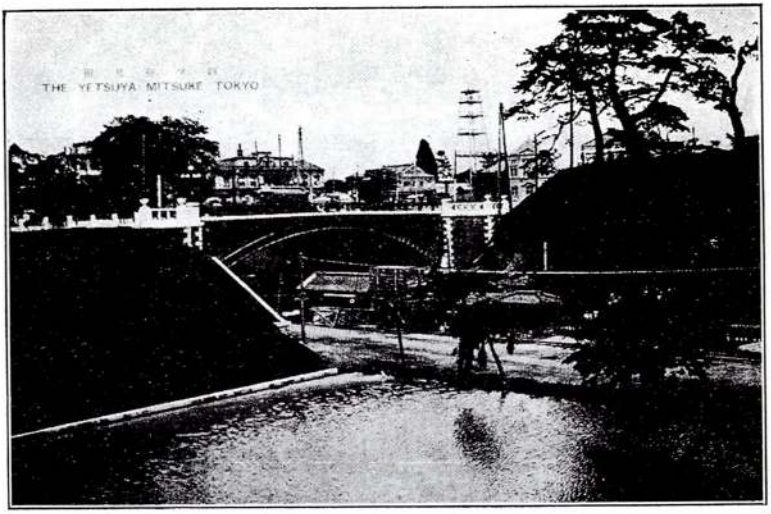


廣小路より上野公園及び不忍池畔附近

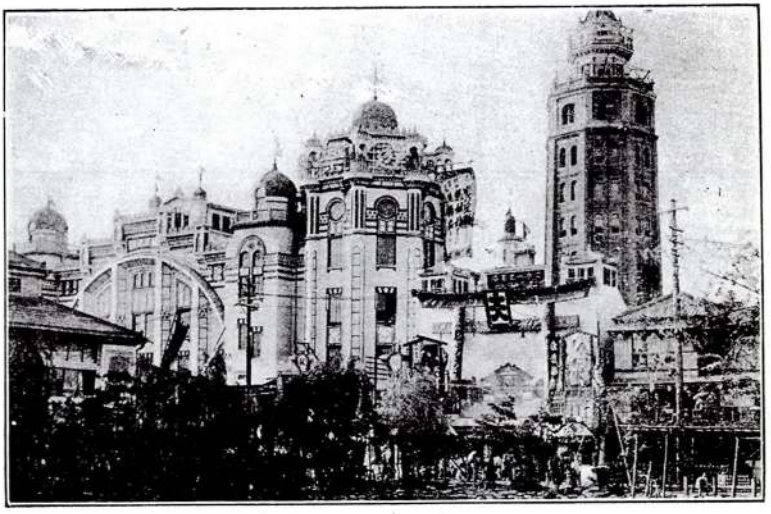


日本橋附近

東京市街の現狀（其十四）

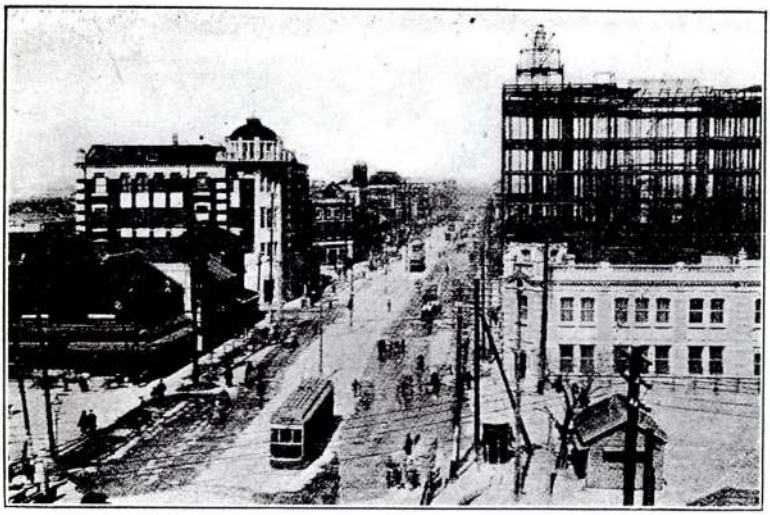


附見谷ッ四

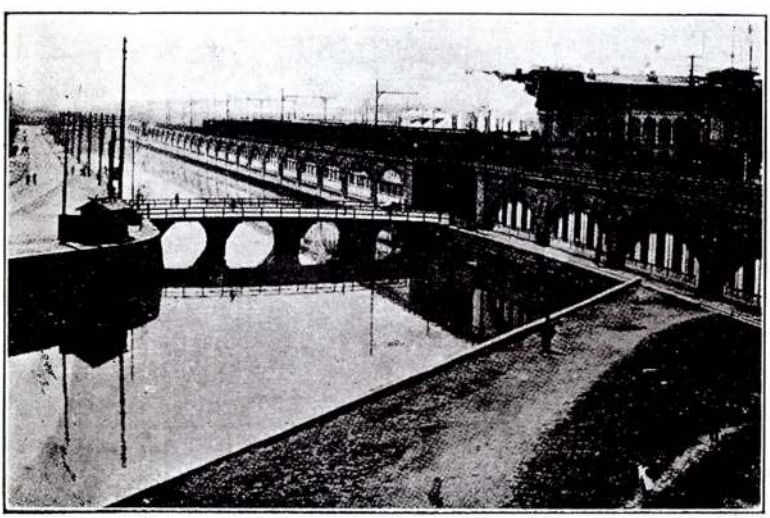


淺草公園内の一部

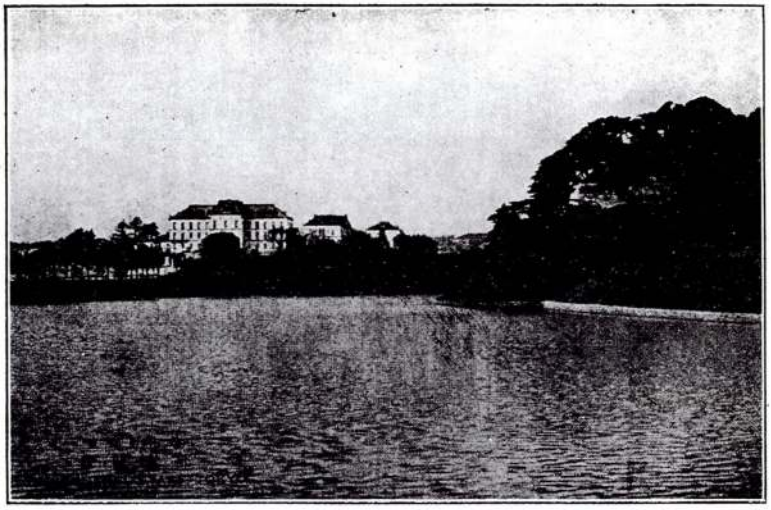
東京市街の現狀（其十五）



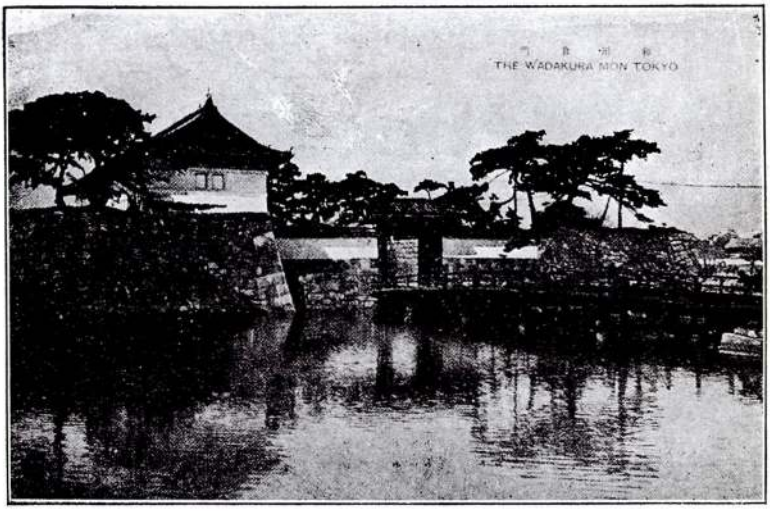
日本橋附近



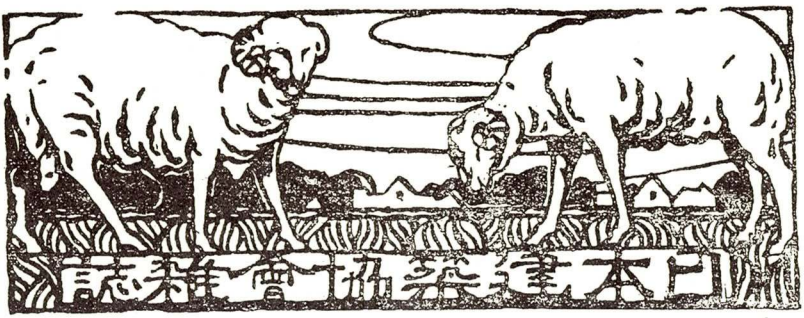
帝國ホテル並に高架鐵道



櫻田門より見たる參謀本部



和田倉門



都市兩法案の通過

都市改善の根本法たる都市計畫法及び市街地建築物法は本期議會に於て無事に通過し、不日勅令を以て發布されんとするに至れり。從來我國の都市改善に關する法律は東京市に於ける市區改正條例以外には絶へて之れ有るを見ず、昨年に至り東京以外の五大都市に其條例を適用するの法案は確定せしこと雖も、其内容に於て時代の進歩に適合せざるを憾こせり。今回成立せる都市計畫法は充分完全のものと認むるを得ざるも其著しき缺點は除かれ大体に於て新時代の要求に添ふものたるを失はず。市街地建築物法の成立に到つては、今日に迫ぶまで全然其存在を缺き、大小の都市各自其建築物の亂雜不秩序に惱みつゝありし際、特に其重大なる價値を認めざるを得ず。吾人は今後右兩大法典の命令及其適當なる運用に藉りて、我都市改善の一日も早く實現されんことを期待するものなり。



東京市大改造論（四）

會員　片岡安

一　總　說
二　交通狀態より見たる計畫
三　衞生及風紀論
四　經濟上の觀察
五　都市美觀
六　結　論

二、交通狀態より見たる計畫（其三）

〔二〕街路系統

街路系統の現狀　我東京市の街路が世界の大都市中罕に觀る程の亂雜不秩序を極めて居ることは敢て吾人の呶々するを要せないのである。維新以來殊に明治二十一年の市區改正條例發布以來其甚

しき缺陷は漸次改善されて來たのであるけれども、其計畫及手段は主として現狀處理に重きを置き餘り將來を慮らざりし結果、竟に今日の狀態を現出するようになつたのである。之を古今東西の都市發達の徑路に鑑るに、我東京市の維新前の狀況は必ずしも不都合のものではなかつたのである。其當時は江戸城を中心として諸大名の屋敷、旗本及諸士族の邸屋を配置し、周圍には其消費上の利便を圖る一般商工の店舖が順序よく計畫されて居たのである。其配置は本城及西丸を廻りて外濠内に直屬の武家屋敷を置き、外濠の外廓地帶には紀伊、尾張及水戸の三家をそれ〳〵數箇所に分ちて配置し、伊井掃部、松平安藝、松平越前、内藤駿河の屋敷を更に飛將の如くに外廓地帶に散據せしめ、一般の各藩を其間に適當に配置したる狀況は、恰も、我國の全版圖を江戸に縮圖したかの趣があつたのである。殊に著しき特徵は佛寺の配置にして江戸市街の外廓地帶一圓に散據し、莫大なる面積を占有して居つたことは、恰も、現代の工業都市の外廓地帶に各種の製造工場が蝟集して、廣大なる地積を占有すると異ならぬのである。

故に維新前の江戸の地圖を覽る時は、全市街殆んど大名屋敷及士族屋敷を以て充たされ、僅かに日本橋大通り（新橋萬世橋に至る）を中央として其左右三四町の幅を地帶とし、其處に一般商舖が經營されたに過ぎないことを發見する。其他には奥州街道、東海道、青梅街道、及本所深川の運河筋に沿ひ一般民家の經營されたのもあつたけれども其數は僅少なものであつた。斯る狀況であつたから、其市街系統は大体に於て放射線狀を成し、而も其部分部分に就ては犬牙交錯の已むを得ざる形式となつたのである。又同時に路幅も普通の場合は四間を標準とし三間二間の幅員の場所多く、

大通りは八間を採用したに過ぎなかつた。其當時の交通狀態から見れば其位の程度で十分であつたと見るを至當とする。之を平安及平城の井然たる都市計畫と比すれば文明の都市としての價値は全く零であるが、戰國時代の防禦を中心とする都市としては盡し到れり盡せりと言ふ程精緻の計畫であると見得るのである。（平安及平城の都市計畫に就ては本誌第一輯第十號所載『都市計畫より見たる遷都』の小論參照ありたし）

明治維新の時此の江戸城を以て一時皇居と定められ、續て永久の帝都と定められたのであるが、時代の變遷と世情の推移は、漸次に舊江戸の改造を促し、舊大名屋敷を始め武家旗本の屋敷等は大部分破壞され、新時代の要求する諸官衙、學校、病院及兵營等の建設より民間の會社、店舖等の改善に至るまで可成り迅速に運ばれた。又同時に街路幅員の擴築の必要を感じ、遂に明治二十一年市區改正條例は發布されて着々街路の擴築が斷行されたのである。東京市區改正委員會は其條例發布の當時より最近に至るまで前後三十年間に約三千萬圓を費して現在の我東京市の街路系統を造り上げたのである。然るに其系統たるや大体に於て統一を欠きたる散漫の形式を脫する能はず、其中心地域と外廓との連絡惡きは地區の整理を深く考へざりし爲めかと思はれる。殊に交通激增の現代都市の趨勢に適應する能はざるの狀態は吾人の最も遺憾とするところであつて、之を英京倫敦の街路系統に比較して尙及ばざるものあるを發見するのである。英京倫敦の街路系統が中古以來自然の趨勢に打まかせて其急激なる膨脹を取扱ひ來りし爲め、其街路系統の亂雜不秩序は殆んど改善の餘地なきに至らんとして居るのである。彼に在つては今や市の中心地域には路面軌道を禁止し、乘合自


北
西
東
南
御城
西御丸
練兵場
維新前
江戸大繪圖
凡例
寺院
神社
町家
武家
萬延元庚申年改版
須原屋蔵版ニ據ル

働車と地下鐵道にて漸く其交通混亂を整理しつゝあるに見ても、其街路が全く行詰りの狀態にあるを想像し得るのである。我東京市は木造建築の都市にして其街路擴築も容易く斷行され來りしに、惜むべきかな其擴築の際唯現狀處理に拘泥したる爲め倫敦市の窮狀に近き狀態に陷つたのである。

東京市の街路は國道、縣道及里道の三種より成立し、各其管理を異にし殊に官內省に屬する部分の介在するなど可成り復雜な組織になつて居るのである。又私道の存在は大都市內部の混亂を益々助成して來た傾向が著しいのである。今期議會を通過したる道路法と都市計畫法は此等の不便を芟除するに適合したものである故、將來は法制上又管理上からの街路改良及取締は着々效果を擧げ得ることであらふと思はれる。現在東京市內(行政區)の道路(街路)の面積は、貳百五拾七萬八千百六拾六坪、其延長五拾參萬一千五百拾四間にして、平均の幅員四間八分三厘である。其內譯を擧ぐれば、

		延長	坪數
國道	(幅三間以上)	一六、八七七間	一九九、三六六坪
縣道	(幅二間以上)	四、一四八	六〇、四七九
里道	(幅一間以上)	五〇七、五三三	……二、三一八、三二一
同	(幅一間未滿)	二、九五六	
合計		五三一、五一四	二、五七八、一六六

(第十五回東京市統計年表ニヨル)

にして、之を東京市の全面積貳千參百四拾六萬八千百〇八坪に割當つる時は僅かに一割一分弱に當るに過ぎない。若し之を大阪市の其比例が八分八厘弱なるに比すれば稍餘裕あるものと見做し得るけれども、現代の歐米都市が其街路の爲に提供しつゝある面積の比較的廣大なるに比する時は如何にも其貧弱狹少なるに驚かざるを得ないのである。殊に其系統不秩序にして將來我東京市の發展に伴ふ交通を處理し得ざるものなるに於ては、益其不充分にして餘裕少きを認めねばならぬのである。

街路系統改良の方針　從來我東京市區改正委員會に依つて實施されし改良は凡そ左の大体方針を基礎としたものらしく思はれる。

一、從來の大通りを一等道路として路幅を擴げ、多少の屈曲を匡正すること

一、市の中心地域を遠かるに從ひて漸次其等級を低下し路幅を縮少して之を一等道路に連續せしめること

而して其道路の等級は左の如く決定した

一等道路	第一類	幅	貳拾間
同	第二類	幅	拾五間
二等道路		幅	拾貳間
三等道路		幅	拾　間
四等道路		幅	八　間

五等道路　　幅六間

東京市は以上の單純なる基礎の下に從來の市區改正を斷行して來たのであるから、現在の如き行詰れる狀態を現出したのも當然である。倫敦の交通委員が一九〇五年に發表した彼の街路擴築方針によれば左の如き姑息のものであつて我東京市區改正委員會の態度と餘り差のなきも滑稽である。しかし倫敦の如き永久的建築より構成さるゝ都市の中樞區域を擴築することの困難と、我東京市の街路擴築の困難とは比較にならぬのであるから、彼の交通委員の不徹底な態度を引例して我東京市區改正委員會の誤り來れる方針を辯護する譯にはゆかない。

	幅員
廣小路	百四十呎（二十三間三分）
一等道路	百　呎（十六間六分）
二等道路	八十呎（十三間三分）
三等道路	六十呎（十　間）
四等道路	四十呎……五十呎（六間六分乃至八間三分）

大都市の街路幅員と其系統の適否とは可成り重大なる問題にして、唯從來の街路を擴築した位では到底眞實の目的を達し得られないのである。巴里が約五十年前其當時の市長オースマンの改良計畫により、大改造を斷行し來りし如き著しき實例は多く之を見ざれども、歐米の大都市は最近三四十年間就も其街路系統の改良を企てざるものはなかつたのである。其方針は千差萬別それ〳〵其趣を異にするが、大體に於て中古の形式を脫却して現代の經濟的發展に利便ならしめんと企てたのは

事實である。而して其經營の經過に稽へ又實際の要求より見るに、何れも其急激なる交通量の增加に對して批難なきものは少いのである。我東京市の市區改正委員會が採り來りし方針の如きは其著しき一例と見られる。

我東京市の人口が增加しつゝある狀況と其地域の擴大すべき運命と及之に伴ふ交通量の激增とは最早既定の係數として見れば、吾人の我東京市現在の街路系統の改良と其幅員の擴築に對する態度は斷然決定的のものであらねばならぬのである。唯一時的の直覺觀や現狀處理を以て之を取扱つてはならぬ、宜しく一大方針を確立し、凡ての改良計畫を其方針によりて樹立するを要する。其方針とは如何なるものであるか、左に其大要を述べて見たい。

今後我東京市內の交通狀態は如何なる比例に激增するやを推定するに、先づ鐵道により市內停車場に乘降するものは、明治四十年度には一日平均四萬六千七百人なりしものが十年後の大正五年度には其數約三倍に近き十一萬六千人となつたことや、又市內電車の一日平均乘客數が明治四十四年度には五十五萬六千人餘なりしに僅かに六年後の大正五年度には七十八萬五千人にまで增したのを見ても、又明治四十年度には自轉車が六千臺なりしものが大正七年には六萬臺に激增し、同年間に自働車が參臺より一千〇六臺に激增した事實に稽ふるも、今後東京市內の交通量が現在の三倍乃至五倍の分量に到達するは餘り遠き將來ではないのである。而して文明の進步はそれ等の偉大なる交通量を益々圓滑に處理せしめねば已まぬのであるから、街路系統の按梅と其幅員の程度はその目的を十分に達せしめるものでなくてはならぬのである。而して其交通量の濃度は決して市全體に普遍

するものでなく、市の中樞區域及幹線街路に甚しく集中する傾向あるが故に其處理に就ては特に深き考索を要するのである。

第二には東京築港の完成に因り又運河系統の改修に由り市内交通の系統に著しき變動あるを考へねばならぬ。其他工場地域の設定に因る交通狀態の推移をも考へ、郊外住宅經營の發達に因る交通の變態にも思を致して、幹線街路の計畫を樹てねばならぬのである。而して此等の諸事項を解決するに欠くべからざるは市内交通機關の問題にして、唯街路系統をのみ單獨に立案することの出來ない事情は正さに近來の交通機關の驚くべき發達から來たのである。市内交通機關の設備に就ては次の章に於て述べることゝし、此處には街路系統の根本案を提唱するに止める。

我東京市の陸上の大玄關は日比谷公園に面する有樂町三丁目及内山下町一丁目の一廓に築くべき東京新停車場とし、外延的連絡の乘客は凡て此處に集中し得ることとする。而して市内凡ての交通系統を斯の中心地域に集合せしめる方針を採り、又其水上連絡の玄關を芝浦埋立地の中央大棧橋とし南北の幹線街路を此處迄延長するを要する。而して街路系統の大綱は二重橋前より櫻田門の東に出で御濠に沿ひて皇居を周り半藏門前より英國大使館前に出で、乾門より竹橋を經、坂下門の前に到りて一大輪街を形成するものを中央の第一系統と做し、凡ての放射線街路を斯の系統より分岐せしめることとする。第二の輪街は日比谷公園の東南に起り虎の門を經赤阪見附より外濠の外部に沿ふて水道橋御茶の水を經須田町に到りて日比谷大手町よりの大幹線に合し此處に一大輪環をなさしめる更に第三の輪街は品川町より起り、大井町の北部より大体に於て山の手線に沿ひ目黒、中澁谷を經

淀橋、柏木、雜司ケ谷より池袋に到り、巣鴨村より田端停車場の北部に出で南千住に到りて南北縦貫の大街に合することゝする。

南北幹線の主体は所謂東海道にして品川より新橋京橋日本橋を經て須田町に到り、上野を經て南千住に達するものを選ぶべきは當然なれども、更に築港大棧橋を起點として田町一丁目に於て東海道と交叉し、薩摩原より芝公園を拔け日比谷に到りて新東京停車場前に達し、大手町通りを經て神田美土代町小川町より須田町に到り、上野停車場前に到るものを以て市中心地最大幹線街路とするを要する。

放射狀街路は其大なるものを左の六系統とする。

一　目黒方面に達するもの
二　澁谷方面に達するもの
三　淀橋方面に達するもの
四　目白方面に達するもの（池袋村）
五　巣鴨方面に達するもの
六　本所龜戸方面に達するもの

此等の線路はなるべく舊街路系統を辿るを便利とすれ共場合によりては從來の街路裏通りを選ぶを以て好果を得ること少からず。場所によりては地帶收用を要する事もあるべく又交通機關の關係上從來の曲折に沿ふ能はざる爲め可成り修正されたる線路を採らさるを得ざることもあるべく、そ

れ等は經濟上又築造上深き考索を要するは勿論である。

街路の幅員は其系統と相俟ち其上に設けらるゝ交通機關の有無及種類と共に愼重に研究すべき問題である。我東京市の街路は將來激增し來る人口の集中と地域の擴大に伴ふ交通量の增加に稽へたならば、幹線街路の幅員には充分なる餘裕を有たしめねばならぬのである。現在の如く南北幹線街路が新橋より上野に到るまでの間に於てさへも其幅員僅かに十五間にして、其中央に路面軌道が布設され、車道として殘さるゝ幅員は僅に五間に過ぎず、しかも其五間は軌道の左右に分割さるゝのであるから、一方に於て三間に足らぬのである。其狹隘なる車道の上に駛行する自働車人力車及馬車が電車停留場に於て行詰まるのは當然と言はねばならぬ。一体に幹線街路の幅員は、若し路面に軌道ある場合、三間半の步道を左右に、中央に三間半の軌道敷を取り、車道は左右各最少限度四間として合計十八間半となるのである。即ち今日の交通機關及交通狀態にては幹線街路の最少幅員は十八間半を要するのであるにも拘らず、我東京市の現時の幹線街路が主として十五間及十二間の幅員を有するのは非常なる缺陷であると謂はねばならぬのである。故に現在の幹線街路にして此儘に差し置かねばならぬ種々の事情ある場所に於ては少くとも路面軌道を廢止するより外に途はない。而して交通機關は地下線又は並行の別の通りを選ぶようにせねばならぬのである。

第一の輪街は大体に於て路面軌道を設けざるを方針とし、唯西面の部分に於て之を必要とするであらふ。其幅員は平均廿五間乃至三十間とし、所謂公園道とする。植樹其他の設備を十分になし二重橋の前に於て一大中心園を造りて帝都の眞實の中心表像を建立する。而して斯の中心より東に馬

場先門通、東南には中央停車場への大道路、西南及北方に向つて循環街路を連絡するのである。第二の輪街は主として高速度交通機關を走らしめ、同時に路面軌道を併用し、路幅は平均二十五間とする。第三の輪街も同じく高速度交通機關を備ふるものたらしめ、路幅は二十間內外とする。

放射線の幹線街路及南北大幹線（築港棧橋より日比谷に出で大手町より須田町を經て上野に到る）に高速度交通機關及路面軌道を併用せしめ、其幅員は平均二十二間乃至二十五間とするを以て適當と考らる。而して輪街と各放射狀幹線街路との間に於て更に之を兩分又は三分する中幹線街路を配備するの要あるは勿論にして、其幅員は路面軌道あるものは十六間以上、軌道なきものは十二間以上となすべく、又更に其必要に應じて小幹線街路を以て其間を分割するを理想とせねばならぬ。小幹線街路の幅員は平均十間以上とし、中央車道の爲めに六間以上を準備することゝする。

以上は我東京市の街路系統立案の大方針を述べたるに過ぎざれども、大体に於て其計畫は實施上十分可能性を有するものたるを信ぜざるを得ないのである。凡そ已に發達せる都市の街路系統を改造することは、都市計畫中の最大難事とするところにして、歐米の都市にては殆んど不可能とさへ見られて居るのであるが、幸か不幸か我東京市の如きは尙未だ大部分木造建築にて充たされ、新規に街路を擴築することは比較的容易なるものあるが故に、此際に永遠の利便の爲めに一大計畫を確立すること、宜しく五十年前の巴里の如きものたらしめたいものである。若し今日以後尙ほ改造計畫の立案をも得ず荏苒日を空ふするに於ては、彼地此地に恒久的建築の聳立し來るべく、斯の得難き絶好の機會を逸するの虞がある。今日日本橋通りが或程度まで其擴築を不可能ならしめて居るのは實に千歲の憾の種子であると言ふも過言ではない。（此項了）



消防瑣談

大阪府警察部
消防課長　警視　福原金吾

消防の問題に就て、屢々切なる御要求もあつたことでありまするから、消防思想鼓吹の一端にもと、姑く卑見をお話することゝ致しましよう。申すまでもなく、凡そ將來に於ける畫作を爲すには、先づ既往に於ける事實を觀るのが捷徑であらうと惟ひます。されば、消防といふ事に就ても、其既往に於ける原因に鑑るといふことは勿論必要な事と存じます。仍て、先づ、

火災の原因

からお話することゝ致しますよう。是も、今遽に其遠きへ遡ることは聊か困難でありますが先づ、大阪市消防の獨立せる當時、即ち、既往九年間に遡りて大阪市内に於ける火災の原因を繹ねますると、斯ういふ事になつて居ります。

明治四十三年中——百七十五件

1	洋燈	三六件
2	烟突及煤煙	二六
3	燐寸	二四
4	竈	一六
5	煙草の吹殼	一五
6	蠟燭	一一
7	火仕舞疎忽	九
8	火鉢及煙草盆	七
9	石油	五
10	藥品	五
11	小兒弄火	五
12	電氣	五

13 灰 四
14 殘火及飛火 三
15 瓦斯 二
16 石灰 二
明治四十四年中——二百〇五件
17 煙草吹殼 五〇
18 煙突及煤煙 二六
19 燐寸 二四
20 火仕舞疎忽 二四
21 洋燈燧 二三
22 炬 二二
32 竈 一三
24 灰 一〇
25 電氣 八
26 瓦斯 五
大正元年中——百六十一件
27 煙草の吹殼 三四
28 煙突及煤煙 二九
29 火仕舞疎忽 二四
30 燐寸 二一
31 蠟燭 一三
32 洋燈 一三
33 炬燧 一一
34 竈 一一
35 電氣 三
35 瓦斯 二
大正二年中——百十五件
37 煙突及煤煙 二五
38 煙草の吹殼 二四
39 火仕舞疎忽寸 一五
40 燐 一四
41 竈 一一
42 火鉢及煙草盆 一一
43 洋燈 一一
44 電氣 二
45 瓦斯 二
大正三年中——六十四件
46 煙草の吹殼 一九
47 燐寸 一七
48 煙突及煤煙 一一

49 火仕舞疎忽 一一
50 洋燈 五
51 瓦斯 一
大正四年中——九十五件
52 煙突及煤煙 二五
53 煙草の吹殻 二一
54 燐寸 一三
55 火鉢及煙草盆 一二
56 炬燵 一〇
57 竈 一〇
58 瓦斯 四
大正五年中——百〇六件
59 煙草の吹殻 三九
60 煙突及煤烟 二〇
61 炬燵 一五
62 火仕舞疎忽 一二
63 火鉢及煙草盆 一一
64 電氣 九
大正六年中——百八十一件
65 煙突及煤煙 二七
66 煙草の吹殻 二七
67 カンテキ 二一
68 竈 二〇
69 炬燵 一九
70 燐寸 一九
71 火仕舞疎忽 一九
72 焚火及飛火 一四
73 灰 一〇
74 電氣 三
75 瓦斯 二
大正七年中——百九十五件
76 煙草の吹殻 三七
77 竈 三一
78 煙突及煤煙 二七
79 炬燵 一五
80 火仕舞疎忽 一四
81 火鉢及煙草盆 一四
82 カンテキ 一二
83 乾燥室火氣 一一
84 電氣 一〇

85 蠟　燭　一〇
86 灰　一〇
87 瓦　斯　三

以上の振り合になつて居りますが、是に據ると、九箇年間に一千二百九十七件の火災件數と成り、之を一箇年の平均にすると、百四十四件の割合となり、即ち、二日半毎に一件、六十時間強毎に一度づつの火災があつた割合になります。そうして、其原因別の累積を見ますと、彼様になつて居ます。

（一）煙草の吹殻　二百五十六件
（二）煙突及煤煙　二百二十六件
（三）燐　寸　百三十二件
（四）火仕舞疎忽　百二十九件
（五）竈　百十三件
（六）炬　燵　九十二件
（七）洋　燈　八十八件
（八）火鉢及煙草盆　五十五件
（九）電　氣　四十件
（一〇）蠟　燭　三十四件
（一一）灰　三十三件
（一二）カンテキ　三十三件
（一三）瓦　斯　二十一件
（一四）殘火、焚火飛火　十七件
（一五）乾燥室火氣　十一件
（一六）石　油　五件
（一七）藥　品　五件
（一八）小兒弄火　五件
（一九）石　灰　二件

以上に據つてみますると、煙草の吹殻、煙突及煤煙、燐寸、火仕舞疎忽、竈、是れだけが百件以上で、斯の僅に五の原因を以て、既に全件數の約七十%を占めて居ります。又、茲に、注意を惹くべき現象は、大正三年に於て、洋燈より失火せることが五件に止り、爾來絶無となつた事であります。是は什ういふ譯かといふに、大正三年十一月府令第十六號を以て、石油ランプの油壺を金屬製に制限し、硝子油壺の使用を禁止したるに由ると認められます。尚、次いで注意され度きは、理想的な燈火として推重さ

れつゝある處の電氣や瓦斯にして、尙且つ斯くの如く絶對危險の虞なきものといふとの出來得ない事實であります。而して、以上の結果から觀まして、私の考へまする處、即ち、

各自の注意

をお促し仕たい事は、先づ、上に述べました如くに、火災原因の主となつてゐるのは煙草の吹殼でありますが、斯の煙草は社會の各階級を通じて嗜好されるものでありまして、而も、近來旺に需用される卷煙草の使用は、火氣の未だ絶對に滅せざるものを誤信して打ち棄て、或は、其場所を選ばずして投棄し、乃至は、喫煙を禁ぜられある場所に於て之を犯す抔、有意無意を通じて、斯の微細なるものが彼樣に大原因を成すに到つては、聊か奇異にも感ぜられるのであります。されば、喫煙者は最も此處に注意を拂はれ度きと同時に、取締又は監督の責に在る人々は、始終周到な注意を加へて頂き度いのであります。

次ては、其原因の第二位たる『煙突及媒烟』是は互に關聯せるものでありまして、之が火災の原因は、工場其他と一般の民家とを問はず、要するに、構造の不完全なりし爲、幾年月の間に自然罅隙を生じ、其處より火氣を漏洩するに因るのであります。斯の点は、工場其他に建築されある大規模の煙突よりも一般民家の夫れの方が多いのであります。又、洋館の如き建物は冬季抔では旺に石炭を使用するが故に、火氣の熱度も高く、而して、斯の種の建物は、一朝損所を生ずることあるも、煙突は多く內部に包築されて表現せざるが故に、失火發見の際は既に機を失するの憾があります。又、縱し堅牢に建築されたる建物と雖も、長年月に亘る內に、種々なる原因より自然に罅隙を生じ、竟に火災を誘ふ原因とも成りますから、設計の際に最も此處に留意を望ましきことであります。尙附け加へ申度き事は、相當の期間を經過したるとき煙突の掃除は、其大、中、小共嚴に之を爲さねば

なりませぬ。煤烟より生ずる失火の場合の多くは煙突より生ずる媒煙に因ることであります。是は、單り自家の焼失許でなく遠く飛火を爲して他を焼くの原因ともなります。されば、人家の櫛比し、工業の殷盛なる我大阪市内の如き、煙突及煤煙が火災の原因を成す主位に在ることの偶然ならざるを識る得べきであります。

第三位の原因たる『燐寸』は、既に煙草の吹殻が火災の主たる原因なることを識れば、燐寸の亦其主因を成すことは説明する迄もなきことであります。殊に、其使用は各階級を通じて普遍的でありまして、使用の殷なるより推すも、亦其主要なる原因たることは當然な事であります原因の第四位たる『火仕舞の疎忽』は、劇場の如き打ち出し後、或は會社や事務所等に於て集會後、乃至は、個人の宅に於ても來客後等凡ゆる場合に於て、其始末が甚だ疎漏なりし爲に意はざる失策を誘致するのであります。故に、斯の邊に最も注意を要することは勿論でありますが、殊に、火鉢、煙草盆等を重ねて置きたる爲失火せることも有り勝ちでありますから、斯る事柄は嚴に注意を要するのであります。

電氣や瓦斯よりの失火は稀な事ではありますけれども、工事の疎漏、監督の不行届、其他被覆物の剝落、浸潤、鼠害等に因て其原因を成すものでありますから、決して絶對安全視して放漫な措置を爲してはならないのであります。斯の原因に由る火災は、容易に發見し得ない場所より發生し、發見の時は既に時機を失せること屢々經驗さる事實でありますから、恒に其引込線やスキッチ等に就て注意を要します。

火災の原因は右の外にも尠からざるとでありますが、以上を要約致しますと、其原因には、自然的なものなくして、殆むど其凡てが人爲的に出で、即ち、注意周到を缺げるに基くもの許と申しても可いのであります。されば、防火施設といふことは、勿論、建築技術上の問題に之を求めねばならぬと同時に、各自に於ける防火思想とでも申すような火災觀念の發達に頼らなければなるまいと想ひます　（畢）



倫敦に於ける住居問題委員會の報告書

（下）

（カーデンシチータウンプランニング十月號所載）

會員　S　T　生　譯

（五）　交通能力

本委員會は各船渠地域と豫定住宅地域との間に急速力の適當なる交通を開設するの問題につき熟慮せり且此等の地域の選擇は主として此攻究に依る所多ければ也、

「イーストブリー」と「ダーゲンハム」の地域は便利にも中央線の「アップミニスター」及「チルブリー」兩支線の間に横はり居れば好都合なり、前者は戰後電車となる事に豫期せらる「バーキング」と「ダーゲンハム」間には中間驛を設くることによつて、約二千五百エーカーの敷地は直接の倫敦「セントカサリン」船渠（ドック）、東「セントジョージ」の工業區「シャドウエル」「ラツピング」「ライムハウス」「プロムレー」及「ボー」の諸地區と連絡し得らるべし、「ヴイトリヤ」及「アルベルト」船渠（ドック）に關しては大東部鐵道（Eastern Railway）の「ウールウキッチ」支線と中央線（Midland Railway）の「アプミニスター」及「チルブリー」支線との間に何等の連絡なし（此一大缺點は本委員會の意見としては出來得る限り急速に改善するの必要を認む）又現在の軌道組織は延長するの餘地なし、されば市外自動車運輸によりて船渠と住宅地との連絡を計るの外なし。

此の事項に關し本委員會は道路局（Road Authority）の注意を促さゝるべからず、運輸能力

の重要なる改良を圖り倫敦幹線道路調査會の推奬せる「バーキング」新道の築造の斷行を希望するもの也。此新道は既に陸地測量部の贊同を得且府當局者の所管に屬する所となり居れるものにして「コンノート」街停車場の北に位する「ベウクトン」街より「リッブル」砦の「リッブル」街に眞直に達するものなり。此新道は又全く現在空地となれる部分を横斷するのみならず「イーストハム」と「バーキング」とを貫通せしむる要求にも合致するもの也。

（六）擴張の計畫圖

本委員會は數回の會合を經て住居建設の目的を得る爲に豫想せる幾多の敷地を最も經濟的に利用するの件につき調査せり、且又「テームス」沿岸の地域にして將來大發達を遂げしむる爲めに新交通路の擴張を圖り國道及鐵道の兩者を必要とする點につき考慮を加へたり。或部分の計畫圖に就いては地形の精密なる調査を經て工夫したれども本委員會の意見としては現在に於て決定的詳細なる計畫を作成する事を希望せぬ事とせり。蓋し各地方廳の意向と倫敦港務部の意見とは地方廳調査局に於て協議會を開き各方面の滿足を得る迄の折衷案を得べきものなりと思惟すればも也。

（七）住居問題及擴張調査局

本委員會は如何に土地を買收し且發展せしむべきか又住居の建設は如何にせば最も有利に實行し得らるべきかに就いて愼重なる考慮を加へたり。本會の意見としては住居敷地の發展及制禦は各地方廳の所管に委托し、公共團体其他の協會の種々なる協力により適當なる結果を得べしと思惟せり。乍併本委員會は其適當なる敷地の選定及買收、主要街路及副道路の築造及公共生活の眞目的たる土地の配分等に就いては却つて小數委員例へば議會にて最近選出せられたる四委員―一名地方廳より、一名は商業局より、一名は市區改正委員長より、他は倫敦港務部より―によつて最も經濟的に且至極圓滿に解決せらるべき事を確信するもの也。斯の委員諸君は諾否の如何に拘はらず彼等の意見によつて南部

「エセックス」に於ける農園等の如きは其地方の完全にして經濟的發達をなさしむる爲めに自由保有不動産として買收するの權能あらざるべからず。

則ち斯委員諸君の義務を擧ぐれば、

一、土地の選擇及買收をなすこと

二、特別なる目的を以て土地の配付をなすこと—則ち工場住宅　公園、廣場及割付等

三、主要街路系統の決定及築造をなすこと

四、鐵道諸會社をして補助鐵道系統の位置及築造と且必要なる荷物積下場を含む停車場及工場との連絡を整理すること

五、各地方廳及他の諸團体に對し其特種目的に應じて土地の拂戻をなすこと

六、各公園及廣場を各地方廳に讓與すること

該委員が建築敷地の財務並びに其處理或は家屋の建設に關係すべしとは諷示せず、彼等の義務は主として土地の再賣却に限らるゝものとす然らば彼等を選出の主要目的は成就すべし、住居目的に關する土地は完全なる交通能力を備へ且市の內外共に個人所有に殘さるゝ土地よりも最も適當なる地價を有せしむべき也。工場及製造場に適用すべき大面積の土地も亦地價の暴騰せる地方の割合と均一適應するものとせざるべからず。

如上の結論を得る迄に本委員會は特別重要地區の調査中特に倫敦に於ける將來の商業に連關して愼深なる注意を拂ひたり。市の東端より「チルブリー」迄の「テームス」沿岸地區は船渠波止場及製造場の益增設せらるゝ形勢なるが故に全部適當なる配分法によりて其發展を企劃すべきは本委員會の意見として最も重要なる事項にして將に一大時機に到達せるものと思惟す。本委員會は個々の地方廳が其地方のみの要求によりて獨占的に着手するとも滿足なる效果を得べしとする能はず、唯主要街路の整理は住宅地區と工場地區を通じて割合に容易に其目的を達し得らるべし、又鐵道諸會社の協調によりて更らに鐵道線路を追加し其系統の整理及新停車場の增設するの事項は當局廳の全部地區整理權を獲

得するによりて滿足なる結果を齎らし得べしと信ずるもの也。

尙此事項に關して本委員會は將來の住宅問題は恐らく船渠擴張事業の先決問題となるべしと思惟せり「シルバータウン」地區に船渠を集中せしむるときは現在の過住狀態を益增加せしむる事となるべし、故に新船渠敷地は更らに東部に求めざるべからず、從つて本委員會は此問題は將來の使命を決定する適當なる事項なるべしと思惟し、現在船渠に建設に適當なる或土地は各其目的に截取らしめざる樣せざるべからず、工場敷地として此等の土地を不用意に使用せしむることは全體の整理を遂ぐるに非ずんば決して經濟的或は有效なる處理にあらざる也。

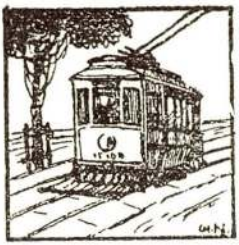
夫故に本委員會は既に住居供給の追加要求の重要問題惹起しつゝある時機に際し、「テームズ」沿岸地區の開放地を如何に處理すべきかの問題は刻下最も緊要なるものゝ一にして一日も早く熟慮斷行を要す。

＊　＊　＊　＊

上記報告書は一九一七年三月附托せられ〻敦港內の船渠擴張事業に連關して住居問題を調査すべき指名を受けたる本委員會の作成せるもの也委員氏名下の如し。

Mr. Arthur Grow F.R.I.B.A.（議長）（倫敦協會員—英王立建築學會都市計畫委員）
Mr. F. Litchfied
Mr. Chalton Hubbard
Mr. Herbert Warren
Mr. Ewart G. Culpin（田園都市及都市計畫協會員）
Professor S. D. Adshead, M.A.F.R.I.B.A.（倫敦大學都市計畫講座擔任敎授—都市計畫學會々長）
Colonel R. C. Hellard, C. B.（前商業局倫敦交通局長—前砲兵工廠總理英王立建築學會都市計畫委員）
Mr. W. R. Davidge. F. S. I. A. R. B. I. A., A. M. I. C. E.
Mr. H. V. Lanchister, F. R. I. B. A.（王立建築學會都市計畫委員）
Mr. H. A. Mes (Mansfield House Vniversity Settlement)
Mr. H. Chapman（秘書）
Mr. C. B. Purdom（報告書作成中本委員會へ加入せり）

以上



都市計畫に就て

大阪市區改正部長
工學博士　直木倫太郎

時は今我國大都市の何れを問はず盛に都市計畫の必要を鼓吹する聲を以て充されつゝあり、其計畫の內容として盛らるべき事業の種々相に就て幾多の說明が下されつゝあり、現に只今も數多の名士の講話を拜聽して諸君と共に層一層其必要を感得せる次第なるが、予は現に大阪市の市區改正事業に關與しつゝある一人として將た技術家たる立場よりして、其必要論以上に敢て一步を進めて、寧ろ如何に理想と實際との調和を全うすべきか、如何に要求と實現との隔りを加減すべきかの事實問題に就ての一二の感想を述べんと欲す、蓋し街路と云ひ住居と云ひ公園と云ひ、上下水道と云ひ、其改善の如何に必要なるかは寔に諸家の說かれし所の如くと雖も然かも予輩技術家の立場よりして見れば之等諸般の事業を果して能く如何に實現し得べきかが最も大切の問題なり、即ち其計畫をして如何にすれば最もよく其都市の地理的並に社會的事態と適合せしむるを得べきか、理想に走らず事實に泥まず將來を慮つて然かも亦現在を忘れず、以て最もよくそを着々實行に導かしむる所以の計畫を如何に立案すべきかゞ最も苦心の點なり。予輩は今現に自ら大阪市區改正の一線一劃を描きつゝあるが此間窃に以て一大創作を敢てしつゝあるの感に打たれざるを得ず、然り今後の大阪市民たる幾千萬人によりて能く幾百千年

に亘るの鑑賞と批判とを受くべき絶大の創作に從事しつゝありとの感じに伴ふ光榮と快感と及び同時に之に從ふ慘憺たる苦痛と焦心とを併せて滿喫しつゝあり、然かも更に此間予をして最も深刻なる熟慮と精察とを怠らざらしむるものは實に財政問題の一點なり、無論計畫そのものに十分の權威を發揮せしむるの必要は固よりながら、然かもそを實行に導く所以の楔子は金なり、適當の財源なくんば折角の理想も計畫も徒らに架空の樓閣として瞻望さるゝに終らん、然り、都市計畫は之れ絶大なる創作なると同時に又素晴らしく高價なる創作なり、その絶大なる所以には格別驚かざる予輩も其素晴らしく高價なる點に就ては殆に非常の苦心を嘗めざるを得ず、技術家の苦心を以て單に數と量との解決にありと歸すること勿れ、事業と財政の調節、技術と經濟との交涉、そを餘所にして何所に予輩の努力なるものあらんや、要は理想に走せず現實に泥まぬ程合の妙を盡して以て地の利に合し時代の要求に應じ併せて實現の活機を捉ふる所にこそ予輩の見せ場を存するなれ。

さは云へ固より其取捨配列の總計に於て頗る高價ならざるを得ぬ都市計畫事業に就て、市民はその遂行上果して何れ丈の覺悟を有せるなるか、問はま欲しきは先づ斯の一點なり。

試に手近く米國諸都市の近狀を窺はしめよ、費府は今二億三千萬圓の市公債を一擧に可決し去りて其一半を市內高速度交通機關の建設に充て、餘は以て幅員四十間延長十八丁に亘る市中央部の公園道を始め市內道路の擴張、下水道の延長、下水處分法の實行又は南費府の市區改正郊外道路の改良、圖書館、美術館、病院等の建設に充當しつゝあり、バルチモーアは一億圓を投じて公園、下水處分法、港灣改良等を遂行しつゝあり、或はボストンが公園設備のみに六千六百萬圓を投じつゝある、桑港が公館區の建設に三千四百萬圓を議決したる、或は紐育市が高速度交通機關擴張費の半額三億三千萬圓を負擔する外、水道擴張に四億四千萬圓、港灣改良に二億四千萬圓を投じて現に二十七億四千餘萬圓

の市公債を抱きつゝあるが如き、總て其雄大なる都市計畫の遂行も詮する所は畢竟金の力ならずとせんや。

茲に於てか予は我都市計畫實行の要諦として他の何ものよりも先づ本計畫の必要に對する市民の自覺如何を問はざるを得ず、歐米の都市計畫の遂行が金の力なりと云ふは即ち斯かる巨額の金を出し得る市民の力、然かもそを負擔して敢て悔ゐざる市民の覺悟の謂のみ、寔に金の背後に飽迄徹底せる市民の自覺なくんば到底都市の改善は實現し得べくもあらざるなり、之れ都市計畫實行の精髓なり要諦なり將た骨子なり、

今極めて卑近の例を擧げんか、昨今我大都市の何れを問はず道路壞敗の慘禍に襲はれつゝあり、市當局に對する非難の聲實に囂々として揚れり、然かもこれ遂に理事者の怠慢にのみ歸すべき問題なるか、近時の都市交通量を以てしては所詮其負擔に堪ゑざること然かく明瞭なる劣弱幼稚の砂利道のみを以て今尙大都市に於ける唯一の道路構造たらしむるに滿足しつゝある市民は、先づ自ら大金を投ずるの覺悟なくして何處にその滿足なる改良を求むるを得んや、惡道根治の方策は頗る簡明也、曰く鋪裝工事を施さば足るのみ、曰く木道一坪四十圓、アスハルト道一坪三十圓、所詮はたゞ斯くの如きなるのみ而して遺憾ながら今日の我市財政のみを以てしてはこの根治策實行の見込立たずと云ふにあるのみ。而も斯點に就て、知らず歐米諸都市は果して如何の方策を執りつゝあるか、昨年十月米國市長會議の席上に齎されたる報告の一に路面鋪裝工費負擔の實狀に關するものあり、これを見るに驚くべし街路鋪裝工費の全額若くは大部分は市の公債に俟たず市の一般增稅に依らず實は其鋪裝工事によりて利益さるべき沿道の地主並に家主の特別利得稅の負擔によつて賄はれつゝあるなり、斯くて米國內百六十三市の中沿道土地家屋所有者が右工費の五割以上の負擔に甘んじつゝあるもの實に百三十市(八割)にして其內工費金額の賦課に應じつゝあるもの七十三市(四割五分)に上るを見るなり、加之大都市は

大都市程更に進んでこの金額負擔の重課に耐へつゝあるなり。況や斯かる事例は勿論米國のみならず歐洲とても等しく皆古來よりの慣行に屬するものにして、然かも實は單に路面鋪裝の一事のみに非ず、道路の新設、公園の改良、下水道の布設、街燈建設の類よりして甚しきは水道管の延長、護岸並に防波堤築造の如きにさへ適用されつゝあるなり、宜べなるかな歐米に於ける路面鋪裝其他一般の都市計畫事業の然く易々として着々實現せらるゝことや、然かも敢て知らず今日直ちに右の方策を移して以て、我大都市に適用するの難易や。茲に予は市民の自覺が先づ以て凡ての都市計畫に徹底するの必要最も大なる所以を感せざるを得ず、彼等は往時に在りては單に其都市の商工業のみを以て他都市と爭ひつゝありしも、今は新に所謂都市計畫事業を加へて以て他市との競爭に打克たんとしつゝあるなり、全市民が如何にして其市を改善し如何にして其市を他市に誇らんかと擧りて焦慮しつゝあるなり、換言すればこれぞ全市民の其市に對する愛市心の發露なり、この愛市心に鼓舞され、この自覺に刺戟されて全市民の十分の理解の下に事を進むるに非ざれば我國に於ける都市計畫事業の如き到底其實現の不可能なるを思はしめざるならずや。然り、單なる街路面改造の一事とても只徒らに沿道市民の議論紛々たるを招いて容易に埒の明く業べなく、而して全市民は依然として何時までもその惡道路に悶殺さるゝに了らんのみ。

近く我國に於ても道路法案、建築法案都市計畫法案の如きが議會に提出されんとするあり、夫等の法規の中に沿道利得者に對し道路修繕費等の幾分を負擔せしむる條項あるが如きは頗る進歩せる政策として之れを歡迎すべきが、然かもその『利益を享くる限度』と云ひその『幾分の負擔』と云ひ尚歐米との比較に於て非常の損色なきを得べきか、要するに法は末なり市民の自覺が本なり、苟も市民の愛市心にして熾烈ならんには則ち法の適用以上に自ら進んで却て其法を左右し以て其市民の誇り主張の八釜しき米

國にさへ漸次に傳波して、既にボストン市を含むマサチユセッツ州及び紐育市を含む紐育州にまでその政策の採用を決せられたるを見よ、澎湃たる新思潮は既に近く我周圍に高鳴りしつゝあり、我都市と雖も亦何時までか能く覺めざるを得る。予は反覆して我市民の自覺を促すを以て我都市計畫の實行に對する第一義となさゝる能はず。

今や神戸市に於ても市區改正委員の任命あり又都市研究會の創立あり、都市問題の研究思ふと爲すべきのみ。最近紐育市は其第七街の區長工事に於て彼の摩天閣撤排の難工事を遂行しつゝあり、而してその工費の四割五分が沿道の兩側各五丁半以内の不動産所有者に賦課せられつゝあるを思へ、況や更に獨逸を初め英佛諸國に慣行せられつゝある剩地收用法（エキセス・コンデムネーション）の如く、必要以上の土地を一旦收用して後其改良工事の結果相當價格の昂騰するを俟ちて之を賣却し其間市をして工費の一部又は全部を回收し得せしむるが如き方策をさへ敢てしつゝあるに察せよ、而して更に斯かる方策が私權にこれより一段の進展を告げむ、その計畫の細部に亘りては他日或は更に卑見を述ぶるの機あらんが、兎に角茲には僅に如上の所感を提して以て飽迄市民自覺の必要を唱へ、その激勵の爲に努力の限りを致さるべき本會の前途を祝福す。（神戸市研究會大會席上）

♠ 都市設計事業の目的 ♥

都市設計事業の目的を一言にして云へば、舊都市を最後の考もなく破壞するのを防いで、無謀な投機的私學事業を抑止する爲である。當時世人は漸く都市が永世存在すべき自治體で決して一時のものでないこと、都市は過去に於て發達したと同樣、將來も發展するものであるといふ事を自覺した。其自覺に依て、獨逸市民は都市は一定の計畫に依て是非設計築造すべきものであると思ひ込んだ。其決心に基いて比較的僅の年月の内に爲し遂げたのが、實に現代の獨逸都市である。

――橋梁的都市設營より――



建築樣式の意義を論ず（二）

會員　波江悌夫

□序論（二）

本論に入るに先ちて吾人の体度につきて一言なかるべからず、從來數多の諸先輩の樣式に關する議論は兎角樣式其物の意義解譯につきては多く問題とせられざるのみならず、既に一定の默契あるかの如くして尙且明瞭なる定義すらなきに近し。殊に建築と樣式の關係に至つては甚だ漠然たる間に相互の理解を得つゝある如くして尙人により場合によりて其解譯同じからず、されば樣式を論じつゝ建築を論じ、建築の意義を語りつゝいつか樣式を說明せられたるあり。因より建築に於ける樣式は決して分離すべからざる關係ありと雖、建築は建築にして樣式に非ず、樣式は樣式にして建築とは別問題なり。然らば建築と樣式との別如何、遂に何等の明答なきに似たり。

されば樣式に關する各人の理解も頗る漠然として捕ふべき要所を發見する能はず、甲者は型体を指し、乙人は抽象的意義となす、或は曰く樣式に二義あり、一は廣義に解譯するものにして他は挾義に說明するものなりと、然も其廣義に解譯する場合と挾義に說明する場合との差別につきて適切なる理解を得る能はず、要するに曰く說明し難きものに屬す。

曾て建築學會大會に際し諸先輩の引用せられたる所謂「フアガッソン」先生の所說と稱するものすらも其出所甚だ不明にして「フアガッソン」先生の著書に發見する能はず、先生

esteem only according to its accuracy and completeness; not a caution and colourless statement of selected facts, avoiding the controversial ground of opinion lest you and I should fall out by the way; but a certain philosophical view of the subject which is my own, a doctrinal theory of progression—or perhaps non-progression—development or non-development—which it is my object to work out by illustration in my own way, and which in this introduction, I will now proceed to explain."

以て先生の用意を窺ふに足るべし、又樣式に關する先生の意見としては

"The styles of Architecture which have been described in the previous parts of this work are those which may be called the True Styles. Those that remain to be examined (meaning everything that has been done since the establishment in one coun-

の建築歷史の緒論に說かれたるは主として高遠なる哲學的理論に基き深く建築の意義を闡明せられたるものにして歷史家の体度より各時代の建築を通論せられたるなり、樣式の意義に關しては必しも詳細なる註譯を加へられたるに非ず、想ふに先生は建築歷史の講究に必須なる用意を讀者に敎へられんとするの老婆心よりして建築史上に現はれ來る樣式に關する論斷を下されたるも、特に樣式論よりも觀たる建築との關係に就いては適切なる說明を述べられたる處なし。先生遺著の一節に曰く

"In this History of the Modern Styles of Architecture," we can fancy the author to be saying, "I am presenting to you, not a mere book of reference in which you are to discover the date, description, and authorship of one edifice and another, as occasion may require or curiosity dictate; not a mere chronological record of events in connection with building, which you are to

try after another of " the Renaissance " or the revival of the Antique) " may in like manner be designated the Copying or Imitative Styles."

とありて文運復興期以後の建築には眞の樣式なしとの斷定を下され、近代建築の眞相につき先生一流の熱烈なる批評を下されたり。

It is, perhaps, not too much to say that no perfectly truthful architectural building has been erected in Europe since the Reformation. Mere utilitarian building are truthful of course, but the moment ornament comes to be applied or an attempt is made, by any arrangement of the parts of a building, to obtain an architectural effect, the new element is inevitably introduced. In modern designs there in always an effort either to retrodoce the style of some foreign country or that of some by-gone age; frequently both. The form of the building is more or less moulded according to these foreign element, while the ornamentation, being always borrowed, seldom expresses the construction, and scarcely ever the real truthful objects, to which the building is applied.

想ふに歐米諸國に於ては建築の特性たる樣式の存在に就ては夙に世人の理解する處に屬し敢て其意義の詮索を必要とせず、寧ろ歷史上に現はれ來る各種の樣式に就いて其特質を識らしむると同時に建築の哲學意義より論述して建築の眞意義を理解せしむるの方法を執られたるものなるべく、殊更らに " style " に關する特別なる說明を發見せず、而して先生が style に「眞」「僞」の別ある所以を說かれたる點につきては先生の樣式觀に獨特の境地あるを語るものにして聊か雲龍の大麟を拜見せるの感なくんばあらず、(吾人が後章に細論すべき重要なる部分も玆に在り)されば所謂「ファガッソン」先生の所說になるものは全く見當違ひの說明なるべきを信じて疑はざるもの也

所謂先生の所說とは

『建築の「スタイル」に天然的素因と人爲的素因とあり、前者は氣候、風土、環境、天産物等の素因なり。後者は政治、宗教、習慣、風俗等の內的素因と戰爭、通商等の外的素因とあり。此等幾多の素因に據りて建築の「スタイル」は大成せらるゝものなり』

といふに在り、實に建築樣式に關する先生の所論の主要點とせらるゝ處にして頗る明白簡潔なる客觀的說明なりと雖も、遂に建築樣式其者の說明に非ず亦定義にも非ず、殊に先生が樣式に「眞僞」の別ありと迄切言せられたる眞意と聊か背馳せる所なきに非ず。何となれば先生の著書に散見する議論は深く哲學的基礎の上に立てられ、建築の意義と思想觀念との關係については獨特の說明を費されたる主觀的立論あるに於て於や。想ふに先生の所說とせらるゝ如上の說明は忠實なる建築歷史家が客觀的思索の所產と見るの至當なるを感せずんばあらず。

吾人は菲才自ら謀らず進んで此重要問題の解決に努力せんとするに當り、謹んで自家の立論を哲學的思索の上に築き、以て主觀的推理を唯一の武器とし且つ心理的觀察を建築物と作家との間に拂ひて客觀的一面觀に陷らんことを豫防し、以て自家の信ずる所を十分に論究せんと欲するものなり。

由來人生數多の疑問を包藏するや久し、而して所謂不可解なる數多の疑問は一に懸りて人生其者に存し、宇宙の森羅萬象も遂に人類を離れて其意義をなさず、有無といひ眞僞といひ善惡といふも、要するに人類の思想觀念より產出せらるるに外ならず、宏大なる藝術界の諸現象も一つに懸りて人類の精神的遊戲に基くものとせば建築樣式と人類の心理的哲學的地步より立論するの至當なるを信せんとす。

更らに吾人をして本論を草せしめし重要なる道起は實に我國建築界の將來に在り、今日一日も早く或種の解譯を下し得べしとせば、

進んで過去の事相より押して生きたる將來を開托し行くの必須なるを感ずるや久し、依つて吾人は將來の爲めに過去を觀、更らに現在に鑑み、以て深く意義の眞髓を穿たんと欲するもの也。乃ち樣式の字義より筆を起して意義を檢し、建築と樣式との關係と作家と作物との關係に及び、進んで附隨せる幾多の現象を究め、餘論に入りて將來に關する諸問題に論及せん方針なり。

故富尾木文學士は曾て美學上の思索より推論して將來建築樣式の完全なる發達を望む能はずと斷定して一々細論辯明せられたる事あり吾人今日の思索に於ては富尾木先生の立論と全く別途の結論を得つゝあり、先生の所說を記憶せる同窓の知友に向つては自家の所信に忌憚なき批評を乞はざるべからず。さらは盲目に近き吾人は遂に蛇を怖れずして自家の信ずる所を述べんとす。

文明の進路に鞭を擧ぐる技術家

我等が住める現代こそはいとも驚異すべき時代である。世界の歷史の中で斯ばかり激しい科學萬能の世能を現出した例しもなければ、又さる偉大なる變化を豫想だも爲し得た時代もなかつた。此世紀にはたゞ凡てのものが驚く可き速度を以て生動し活躍し旋轉しつゝある。その苦痛に堪へかねて或は此文明の形式を咀ふの聲もする、「科學の破產」を呼ばはる叫でも聞ゆる。が、誰が何と云はうとも何と敦圖くとも、一旦斯樣に現實に展開され初めた此の文明の進路を今更橫に扭向けしむべき途は無い、否今後は過去よりもより凄まじきが速度を以て、より目覺ましき活力を以て、凡てがますます生動し活躍し旋轉するであらう。而して此驚異すべき事態此變幻極まりなき世相の驀進に向つて鞭を揚ぐる當の指揮者が技術家ではないか

（「技術生活」より）



都市と建築

◆東京市營住宅と其一例

東京市技師 工學士 福田重義 談

近年商工業の發展、交通機關の擴張につれ、都會に人口の集中し來れる趨勢は世界的にして歐米は固より我日本に於ても盛にして明治三十年頃は一割內外の增加なりしも今日は二割五分に達し益々止む處なかるべき有樣也。英國にては人口の八割は都會に集まり其二割が田舍に殘れるに過ぎざる程にして、佛國の如きは全人口の二割五分が都市に集り獨逸に在りては約三割に達す、未だ英國程に到らざるは共に農業國なるが爲にしてしかも斯の趨勢は急激なるを窺ふに足る。伯林市の如き其面積二千三百萬坪を有すれども一人當約十坪に過ぎず、巴里市亦殆んど同じ情況にして倫敦に比すれば尙二倍の餘裕あり、我東京市にして築港の完成に伴ひ都市の整頓するに從ひて益々人口の增加すべきは明かなり。斯く都會の人口增加するに從ひて蒙るべき弊害の伴ひ來ること必然の勢にして、差當り都市の住居問題は其最大なる事項の一に算へらる、蓋し都會は塵埃多く空氣汚濁にして住民に衛生上の缺陷を齎らし、心神上に怖るべき害毒を蒙らしむるの傾向頗る多し、故に都會に人口の集中する結果の憂ふべき事言を俟たず。

先第一に都會の人口集中せる結果住宅の拂底となりたる事は當然の現象也。借屋の不足は家賃の暴騰を來たし、市民の負擔漸く重大となれり。今東京市に於ける戶主總數六十萬戶ありと

すれば所得稅四十七圓以上を納むるもの僅かに六萬七千戸に過ぎず（約一割）他は中流以下の生活をなす者大部を占むるが爲めに其家計上の困難知るべき也。何となれば僅かなる所得稅を納むるものと雖家賃は尙其收入の約二割を拂はざるべからず、斯くの如き大なる負擔を以て不衛生なる陋屋に生息し日々其活動を減殺されつゝありとせば寔に國家の大問題とすべし、英の首相ロキドジョージが其政綱の一に住宅問題を高唱せるは卓見といふべき也。

東京市に於ては明治四十二年末より大正六年末に至る調査によるに約人口四割五分增加せりしかも住宅の增加は一割二分に過ぎずして建坪は一割八分增加せり。而も住宅の棟數は却つて減少せる傾向あり。是れ主として諸物價暴騰のために手控せるに因れり。亦成金連の土地買收に伴ひ却つて舊家屋の取拂はれたる如きは家賃騰貴の一因となれり。

然らば斯くの如き現狀を如何に救濟緩和すべきか、須らく都市の交通機關を完備して低廉なる近郊地域に住宅の多數を新設するの必要あり又市內の地所を整理して家屋を建てざるべからず。而して新宅急造の必要上各種團体の家屋經營は最も必須なる企劃なるべし。想ふに團体の家屋經營は社會的の公共事業にして、營利事業とすべからず、市營又は團体的經營に委ぬるの方策とすべき也。

近時東京に於ても信託會社起り玉川電車を利用して熊澤村に住宅を經營しつゝあるが豫約希望者頗る多く忽ちにして八分通りの申込を受け成効を收めつゝある如き、或は大阪近郊に於ける郊外住宅經營が夫々市民の歡迎に應じつゝある如きは明かに市內住宅の拂底に伴ひ郊外生活の必要を感じつゝある趨勢を見るべし。されど此等は主として一時的營利事業にして住宅問題の緩和策の一としてはあまりに賞讃するに足らず。

歐洲に在りては夙に住宅經營の社會的事業の勃興せるあり、田園都市の經營、近郊地開拓等の事業並に特種會社工場に於ける使用人住宅の

經營等其成績頗る顯著なるもの多し。(斯くて福田氏は其齎らせる十數葉の圖につき一々說明する所あり)

田園都市は其名の如く田園に新設せられたる都市也、英國に於ては夙に一九〇三年三百萬圓の資金を以てレッチウオースに四百六十萬坪の地所を求め其約三分の一の敷地に宅住の經營をなし他の三分一に工場の新設をなし餘分の地所には田畠養雞場、學校、敎會堂等に當てたり。其住宅は夫々一軒百坪の地所を備へしめ衛生的健康都市として理想的市街の經營をなせり。資金は勞働保健金を利用し其配當を五朱に制限せられ、盛んに簡易保險の金を低利に借用しつゝあり。

garden suburb とは近郊の開拓なり、英國に於ては「ハムステッド」の如き四十萬坪の地域を開拓しつゝあり、獨逸に在りても「ヘルラム」「カールシュミッド」「カールスルーエ」「ミュンヘン」等に此等の開拓事業勃興しつゝあり、此等の事業は組合組織を採用し又市營事業の一とせるあり、其資金は勞働局等より融通利用せられつゝあり。

此等近郊地域の開拓は寔に都市の將來に非常なる利益を齎らしつゝあり、米國の諸市亦斯の經營に注意を拂ひつゝあり。大阪市にても既に市營住宅地を四ケ所に設け各近郊電車會社も夫々十數ケ所の經營地を有する有樣なるが東京附近は遺憾乍ら未だ斯かる事業の起らざる樣也。

大會社、大工場に於ける使用人の住宅は雇主に於て夙に經營する所あり、亦都市住宅問題に一助の効果を齎らしつゝあり。

英國に於ける「ポートサンライト」の如き四十三萬坪の敷地を求め、約十七萬坪の住宅を經營せり、家賃は悉く修繕費、維持費に用ひ使用人の和樂、心神の安靜を保たしめ以て多大なる能率を發揮せしめて間接に會社並びに工場の利益を增進しつゝある也。獨逸「エッセン」に於ける「クルップ」工場の如きは既に一八六三年頃より職工住宅の經營を爲し、現に二千五百人の職工と其家族總計十萬人を養ひ以て會社を愛

護せしむるの念を養成し、社會黨と雖も一指を染むる能はざる程にして年々歳々非常なる成績を擧げつゝあり。白耳義に於ても亦各種工場主の注意する所にして盛んに低利の資金を利用しつゝあり、殊に交通機關の賃金を低廉にし十里餘も通勤往復せしめつゝあり。

東京市に於ける住宅問題は今後益研究を要すべし。予は特に中流以下の住宅につきて考慮を拂ふの要あるを感ず、第一は細民に對する住宅の經營也、第二には薄給者階級の住宅也、殊に東京市吏員の住宅に就いては特別の注意を拂はざるべからず。第三に東京市に來集せる學生に對する居住問題あり。

細民住宅の研究は既に定論あり。予は薄給者階級所謂洋服細民が社會的活動力の中心をなしつゝあるを觀て之を國家的問題として考慮すべき要あるを感ず。殊に東京市吏員は現在東京市の繁榮活動を維持すべき重要中心活力にして、市は其能力增進を圖るべきなり。現に當市電氣局にては月々從業員中二百五十人宛の辭職あり市吏員にして月收五十圓以上の者は僅かに五百五十人にして、以下の者は一萬四千餘人を算す此外に諸官署吏員を合算すれば驚くべき多數の吏員あり。此等の住居は果して如何なる現狀なるべきか、頗る寒心すべき事項伏在しつゝある也。

東京市は政治の中心にして又學府の中心地なれば年々一萬三千餘人の學生を迎へつゝあり。此等の學生は如何なる生活をなしつゝあるべきか、彼等が將來國家重要の活動力たるは言を俟たず、しかも彼等は黄塵萬丈の市中に生活す、幾多の誘惑と種々の事情は彼等を襲ひつゝある也、地方に在りて彼れの成業を待つ父兄は一日として安き心なかるべし、東京市は彼等の生活を向上せしむるの方策を考慮するの責任なくして可ならんや。

此等の特別階級者に對する住宅問題は寔に重大にして亦焦眉の研究事項也。予は市吏員の一人として特に薄給市吏員の住宅につき相當の研究をなせり、最近電氣局從業員の住宅につき實

際問題を所理せり。茲に其一例を擧げて諸君の參考とせん。

既に述べたる如く薄給吏員が家賃の暴騰によりて如何に苦境に立ちつゝあるか、市は茲に於て彼等の給料を增加するか住宅料を與ふるかの方法によりて救濟すべき必要を感じ來れり。則ち彼等に相當なる住宅を供給し、以て其勞働力を增進し、心神の安靜と健康上の利益を享有せしめんとし、現在十三ケ所の車庫附近に居住せる總計約七千人の從業員に貸與すべき住宅地を經營する事となれり。而して遂に各車庫所在地附近に然るべき居住地を求むるの方針を執り既に着々其步を進めつゝあり、茲に一例として荏原郡目黑村の經營地を紹介せん。敷地は三千二百坪の地所にして(設計圖を示せり)六百十六坪の住宅(千八百人を收容すべき獨身者の寄宿舍を含む)を新造する豫定なり。各國に於ける近郊住宅を參考として大体方形式配置を採用し、更らに運動場、娛樂場、郵便局、銀行、學校、浴場等を設け又電燈、瓦斯、排水、給水、樹木道路等の設備をも完成せしむ。

建築費	五九〇、〇〇〇圓
給水費	七〇、〇〇〇
電燈費	一五、〇〇〇
瓦斯費	一〇、〇〇〇
小計	七二〇、〇〇〇
敷地費	四八〇、〇〇〇(坪當十五圓)
合計	一、二〇〇、〇〇〇

則ち總工費百二十萬圓を三十ケ年間に償却するものとして年一萬二千圓を算出したり。

償却費	一二、〇〇〇圓
資金利子	三六、〇〇〇(三分の利子)
給水料	五、〇〇〇
修繕費	一二、〇〇〇
小計	七四、〇〇〇

而して家賃として收入すべきもの月五圓として四萬二千圓、糞尿費五千圓にして小計四萬七千圓なれば差引二萬七千圓の決損あり、此の金額は之を居住者に支拂はしむるときは當初の目的に反するが爲めに市に於て補助すべき事とな

れり。而して此の事業費には政府の經營せる簡易保險金より低利に貸出せるものあり。想ふに簡易保險金の如きは資金として此等の事業に利用するは最も好ましきことにして我國に於て最も注意すべき事例たるを失はず。

要するに予は自身關與せる東京市に於ける住宅經營の一例として諸君の參考に供せるに過ぎずと雖、現在に於ける適切なる好例として提供するに躊躇せざるもの也。（了）

◆都市學理的完成の必要

法學博士 男爵 阪谷芳郎 談

建築學會大會に際して都市問題につき所感を述ぶるの機會を與へられたるを謝す、予は經濟學專門にして建築家の會合には全く方角違のものなれども、特に出演を要求せらるには理由なきに非ざるべし。想ふに今回都市計畫法案及市街地建築物法案が貴衆兩院を通過せるのみならず遠からず法律として公布せらるべく、今後は其運用の實際問題に觸るゝ譯にして、東京市は寔に最初の適用地なれば、既往に於て市制運用の衝に膺りて苦心せる予に所感を求められたるものなるべし。予は約三年間東京市長として大いに市會議員に苦しめられたり、蓋し我國今日の世情は尙ほ都市計畫の事業等も徹底的に理解せられず、予の考ふる處と議員諸君の考ふる處とは頗る懸隔ありて如何ともすべからず、又事情止むを得ぬ次第なるが、予は大に東京市の如何にも不經濟的なる現狀を歎じ如何にもして學理的に完備せる都市に改造せん事を焦慮せしも遂に市會を動かして永遠の利を知らしむる能はざりしは慚愧に堪へざる處なり。

予は職を去りても東京市の將來に就いては一日も忘る能はず、此機會に於て予が切實なる所

感の二三を述ぶる事必ずしも無益の業に非ざるべし。

第一に申上げたきは、兎角人間は現在に満足するの通弊あり、遠き慮なければ近き憂ありといはずや。固より、各自一家の問題ならば現狀に囚はるゝも可なるべく、理想を追いて盲想狂とならば不幸此上なし、されど人間一身の生涯は長くて五十年に過ぎず、平均三十年内外の一生に於ては如何に理想に馳するも爲し得る事業は知れたものなり、乍併都市の壽命は宏大にして幾千年幾萬年の長き年月に亘りて榮ゆべく、各自一個の問題と同樣に考ふることは大間違の基なるべし。世の政事家が國家の大計を誤まるは實に斯の點に存す、蓋し國家の壽命も亦一身の壽命と同日に語るべからざれば也。

我東京市の如き亦地球の在らん限り榮ゆべき運命を有するものと考へざるべからず。若し此幾萬年の後迄も持續すべき我東京の重要問題を我一身と對比して打算せばそは由々しき大事なる也。今や都市計畫法案の近く公布せられんとし、既に市區改正委員の任命もあり、更らに都市に關する幾多の條例も日を追いて發布せらるべけんも、此等の委員會は須らく各自一身の利害得失より打算するの愚を演ずる事なく幾千萬年後の損得を熟慮考案するの用意あるべき也。

而して都市計畫事業に就きては兎角財政の基礎定まらざれば輕々しく出立すべきものに非ずとの說あれども、予は決してしかく心配するの要なしと信ず。財政經濟の現狀に拘泥して居ては到底大なる事業は出來ず、是非とも遠大なる理想的計畫を立つる事を忘るからず。斯して一度計畫案の確立せる上に於て初めて年々歲々の財政狀態を考慮し、尙數多の學理的理想を加へて適切なる實施を斷行するの勇なかるべからず。

飜つて各國都市發達の歷史を繹ぬれば、學理的に成立せる都市一もある事なし、殊に日本に於ては主として軍事的見地より開かれたるもの多く、同時に經濟的考慮の加へられたるもの也。大阪市の如きは其好例なり。我東京市の如きも

亦然り、彼の智將太田道灌が地を相して千代田城を創むるや八王寺及川越の兩支城と相鼎立せしめて以て關東重要の都城となせり、乍併尙ほ隅田川の水運を利用して經濟的立脚地を保たしめたるもの也。京都の如きは軍事上並びに經濟上の基礎に於て見るべき要都に非ざるが如きも尙當時の事情は必ずや據る處ありしなるべし。而して我國の歷史には遷都の屢々行はれたる事實多しと雖も、要するに我國の諸都市は軍事的價値を主として之に濟的地利を加へたるに近し。唯初より學術的都市として完全なるものなきを觀る。

想ふに都市は初めより學理的の完備を望むべからざるものなるべし。乍併今後の文明都市としては飽くまで學理的に完成を期せざるべからず。既に兩重要法案の通過せる今日に於ては最も斯點に注意を加へざるべからず。特に近代都市の要素として上下水道、瓦斯、電氣、運河、築港等の諸設備を充分に講究して完成せしむるを期し、不經濟不衞生極まる現狀を根本的に改造せざるべからず。

既に述べたる如く都市の壽命が千萬年の後迄も永續するとせば、都市改造の着手せらるべき斯の千載一遇の一大好機に於て吾々都市の住民は永遠に亘るべき一大理想を確立せざるべからず、殊に其計畫の實際問題を應酬すべき任務に在る建築社會の諸君に向つて茲に特に申述べたき一儀あり。

そは實に其理想的設計案を工夫案出する偉大なる天才の出現を期待するに在り。一の完全なる計畫案を確立せしむること寔に大切なり。而して斯の計畫をして學理的に大成するは天才の力に俟たざるべからず。然らば斯の實際の大業に從事すべき我建築家諸君は斯の天才の養成出現に對して相當の責任あるべき也。

現在各國の諸市を通覽するに多少學理的理想を實施せるものなきに非ず。殊に米國及濠洲の諸都市は其創立の年代新しき丈理想的第一步を進め得たる如し。

今一例を擧げて諸君の參考とせんか。北米合

衆國の首都ワシントン市の如きは今より百三十餘年前に於て將來世界有數の人口を有する完全なる都市を大成せんとして其基礎を開けり。前後七年に亘る革命戰爭を經て獨立を宣言したる十三州は茲に其首都を創設するの議起りしが忽ち議論沸騰して決する能はざりしが國祖と仰がるゝ「ワシントン」氏は自ら地を荒漠たるモルト丘に相し、更らに將來世界最大の都市とすべき基礎計畫案を友人「マヂエル・ランファン」氏に囑せり。「ランファン」氏は「ラファエット」、「ローシャー」等と手を携へて渡米し革命戰爭に參加せる年少氣鋭なる佛國士官なり。一度負傷して英軍の捕虜となり後釋されて「ワシントン」の幕下に在りしが、斯時に方り其技術的才能を認められ、遂に進んで此の大任を負ひ一意專心熱烈なる苦慮を費して一大計畫案を作成せしが其規模の雄大なる、其用意の完全なる、到底草創當時の財政の許さるべくもあらざりしかば、之れが修正を要求せられたるに、彼の少壯技術家は頑として肯かず、竟に當時の議會は特に同氏に妥協を求めしも飽くまで原案を主張して一步も讓らず。止むなく議會は同氏の職を解きて大統領より謝禮三百五十弗を送りたる由なり。

然るに後年華府の膨脹は日進月步の勢をなし一九〇八年の交に於て遂に最初の「ランファン」氏案を復活するの止むなきに到れり。則ち當局者は相率いて「ランファン」氏の墓を展して陳謝の意を表し、翌年更らに氏の墓を議事堂の附近に改葬し、一九一一年には氏の銅像の除幕式を擧行したり、時の大統領「タフト」氏の謝辭に次いで國務卿「ルート」氏の陳謝演說あり。

『茲に集まれる吾々は過去の非を悟りて「ランファン」氏の計畫を復活するもの也』

との一句を述べたる由なるが、寔に永久に語り傳ふべき美談ならずや。一小壯技術家にして猶百年後の將來を打算し大計畫を立案せるは寔に大政事家以上の手腕ならずや。而して百三十餘年後に於て其遺骨の改葬されたるも寔に奇と云ふべし、又大米國の大統領並びに當路の顯官が手を携へて墓前に陳謝の意を表したるも掬すべ

き美談ならずや。嗚呼彼れ「ラノフアン」氏は實に偉大なる天才といふべき也。

我東京市の將來は亦斯くの如き百年の大計を確立して考究せざるべからず。然らば「ランフアン」氏以上の天才を出現せしめて將來を謀らざるべからず、而して東京の市民は其大計畫に準據して今日の不完全なる現狀を改造せざるべからず。

想ふに東京市程不經濟なる都市は一日も早く經濟の方策を確立するの急務目前に迫れり。近頃在シャートル市の「ヒル」氏は東京市を批評して日本人の我慢強きを冷笑し、東京市が毎年道路に失費せる額十萬圓に上れりとなせり。斯の數字は果して適切なるや否やは不明なれども、確に重大なる損失は日々東京市民の識らずして支拂ふ處なり。上下水道の如きも明かに其總延長と需用者の割合頗る不經濟なる事實あり。又見易き例としては頻々たる災害の損害あり。之等の損失をして千年の將來に亘りて通算せば如何なる漠大なる巨額となるべきか、然るに市民の大多數は斯の目に見ゑぬ損失を識らずして目前の利害にのみ沒頭しつゝあり。斯の理を悟らずんば百の「ランフアン」ありとも、千の大計畫ありとも遂に如何ともすべからずして世界一の劣等なる都市民の名を殘すに過ぎざるべし。

要するに技術上の點に就いては建築家諸君の努力奮闘に俟つの外なく、市民に向つては百年の長計を樹つるの賢者たれと叫ばざるべからず目前の利をのみ射んとするの都市は到底將來の繁榮を得べからず、斯の理を識りて且つ所信を斷行するの市長市民は畢竟東京市の大恩人といはざるべからず。眞理は兎角平凡の裡に存在すしかも最も大切なるもの也。茲に特に聊か所感を述べて御淸聽を忝ふせり。（丁）

暮春

くれゆくといへばどうやらよけれども
なんにもくれずにげ行く春

◆都市の細民住宅

都市協會幹事　藤原俊雄　談

予は都市の細民住宅に就いて管見を述べんとす、嚴密に申せば細民にも種類あり、普通細民と呼ばるゝよりも稍立派なる生活を營めるものも相應に在り、眞の細民丈の問題ならば頗る簡單なれども、此の階級の住宅にも特に注意を拂はざるべからず。然るに我國にては兎角住宅問題を忽諸に附しつゝあり、吾々は大いに家屋及社會問題を高唱せざるべからず。

抑も家は其人によりては一國の要塞砲臺の如し、外患を防禦すると共に安靜の生活を營むが爲に築造するものなり、從つて斯の目的を達するに必要なる各種の設備なければ晝夜健康に支障起るべし、近時世界の大勢は人間の理想向上し來り、家屋に對する衛生上の要求頗るデリケートとなりつゝあり、然るに我國民の如く住宅に關して殆んど無關心なるは頗る珍例とすべき也。否國民の家屋に對する理想、學問なく更らに改良進歩の跡なきは哄歎に禁へず。

市俄古市に在住せる實際家「チヤーレスバウ」の言に曰く

『陰氣なる生活に養はれたる小兒は決して國家有用なる材となる能はず、彼等が身体の發育を充分ならしむる爲には弱も日光の恩惠にて草花の開く如くSunnP Roomにて養育するを要す』

〆寔に然りとすべし、我國に於ては比較的 open space 多ければ歐米に於けるが如く光線に關するHonsing question 起らず、されど總体倭少なる家屋に加へて下水上水の設備不完全なるが爲めに國民保健上に重大なる影響あるべし、大いに注意を拂はざるべからず。

予は我國の住宅問題を須らく社會問題として

眞面目に考究をなす必要ありと認むるもの也。

第一、家賃に關して國民が無關心なる現象は頗る奇異の觀あり、生活費問題より考ふれば日本にては歐米諸國に比して割合に高價なりしかも近來益々引上げつゝあり、社會は何故に沈默を守りつゝあるか。

第二、衛生設備を完全にするの努力我國に行はれず、之れ單に政府當局者の考慮すべき問題に非ずして國民自衛上の問題也。

第三、我國の住宅が國民の風紀を左右しつゝあるは明かなる事實なり、然らば國民は社會的改良の急要問題として飽くまで講究すべきに非ずや。

予は以上の三項につきて茲に所感を述べんとす。

家賃問題　家賃は總して收入の十分ノ一位ならさるべからず、若し收入百圓の生活を營むものは家賃は十圓位にてあるべき也。米國に在りては稍高價にして金收入の約六分ノ一を普通とせり。

家賃	六分ノ一
食費	六分ノ二
衣服費	六分ノ一
燃料	六分ノ一
遊山及貯金	六分ノ一

位を標準とすべし、四十二圓の月給に生活するものは、七圓の家賃食費十四圓、瓦斯料金七圓衣服七圓にして他の七圓を遊山費に支出し或は貯蓄とす。

然るに我國に在りては家賃比較的高價にして五分ノ一位ならば幸過の方なり、七十五圓の收入者にして十七圓の住宅を發見せんか、好んで借用する位也、斯くの如くんば遊山費も貯蓄もなす能はず、斯く生活費の重要事項か高價なるによつて生活難の聲喧しきに拘はらず社會全體に改良問題の高唱されざるは不思議千萬也、由來借家を建設するものは一割二割の金利に廻らざれば家を建てず、從つて物價暴騰の際は皆手控へるが爲めに益家賃は騰貴し來る「Practical House」の著者「レットフォード」氏曰く、

『家賃は勞金より一歩を先んず』と盖し明言なり。想へ一割二割の利廻によりて償却せんとする家主は十年以内に資金を償却しつゝある也、我國に於て米の問題沸騰せるに拘はらず、家賃問題起らざるは不可思議千萬ならずや。

米國に於ては一九一五年の秋家賃暴騰のために家賃を上ぐる事を制限せし事あり、寔に社會生活の公平を保つためには眞面目に考慮すべき問題の一なるべし。我國の建築家は進んで社會問題として努力せられん事を希望して止まざる也。

衛生問題　衛生に關する問題はold old storyにして亦Vewest storyなり。米國に在りては殊にやかましき問題の一なり。盖し細民は高層なる建築の上層に生棲す、隨つて排水下水放出に關して常に問題發生す。近來監督官廳にてはinspectorを置き嚴重に注意を拂ひつゝ、種々不衛生的の原因を除きつゝあり。想ふに細民は其習慣性として兎角不衛生的生活をなすが故に特に監督怠らざるは一方法といふべし。

紐育にては一八六七年頃迄はあまり建築法は嚴重ならざりしが、當時の死亡率は千分の三十五強なりき、一八六七年より一八七五年の間に於て、規則を改正して死亡率千分の二十八に減し得たり、一八七九年より一八九五年の間に更らに改正して現今の條例を得たりしが、死亡率千分の二十六となり、一八九五年より一九〇一年の間には下つて二十二となれり、一九〇一年乃至一九〇七年には、十六、六を示し其後一九一二年迄に死亡率は千分ノ十六、四となす事を得たり。而して是れ實に衛生上の注意行届きたるが爲也、又實に都市生活の安寧幸福を增進する重要問題なり。

予の見聞によるも米國の細民は必ず相當なる暖房設備あり、又洗面所には必ず湯を使用しつゝあり、寔に社會問題として公平の見地より觀察すれば寒暖共に冷熱を感ずるは人情にして、細民と雖暖房を有し溫水を設備するは至當の事なり。されど我國の識者は斯の有樣を如何に觀

察すべきや、兎角貧乏人に斯かる贅澤をなさする必要なしといはん、我國にては細民が暖房の設備を有し、寒中湯を使用するを以て贅澤と解釋する位に、住居問題は社會的の注意を拂ひ居らず、しかも住居問題に於ける衛生的設備は其主要なるものゝ一なり。

風紀問題　國民の理想を實現せんとせば風紀問題を以て細民生活の改善を導かざるべからず而して細民生活の標準を調査せざるべからず、彼等も亦人間也、人種平等の意味に於ても寒暖共に同情を以て導かざるべからず、彼等の生活が如何に悲慘なるかは次の米國の一小話を以て知るべき也。

『ジミーさん、お前何處に居るね』
『元の處に居るよ』
『大分長いぢやないか』
『いや、もう長いことはない、扉も燃しちやつたし、障子も燒いたし、それから梯子も焚いたからね』

彼等の寒氣と戰へる樣見るべからずや。

想ふに國民の生活にして風紀の上に影響する處は莫大なり、風紀亂れて士風衰へ、國民の道義心にして頽れんか一國の前途に係れる問題となるべし、住宅問題が一國の風紀に關することは識者の注意に値する所甚だ大なりといふべし。

予嚮曾て布哇を過ぎり我移住民の生活の忌むべきを訴へられたり、彼等は日本移民の生活程度の低きに驚きつゝあり、日本人は配偶者と獨身者との間に別なきかと、蓋し豫め設けありたる隔壁を破壞して以て交際上の支障を除きたりと爲すに驚きたる也。之等の話柄は實に國民間の人種問題に影響する處大ならずや、素より風を異にすれば國民道德の標準すら雲泥の差あり南洋の土民が他人の妻を犯すを善とし自己の妻を犯さるゝを惡とするが如き其甚しきもの也、朝鮮人が人の物を盜むを善とし、自己の物を盜まれたる事を發見されたるが惡とする如き亦他の一例也、朝鮮人が倭小なる家屋に同床に家族同寢せる情況は一國の風紀に關する處頗る大な

る也。

斯くの如く細民住宅と風紀との關係は忽諸にすべからざる問題なりと雖其生活の標準を決定する事は大問題也。尤も金滿家の生活にしても一國の風敎に影響する點は同樣なり、斯種の問題の解決には什うしても國民全般の問題として國民常識の發達向上に俟たざるべからず。

歐米諸國にては夙に斯點に關して講究を怠らず、低利なる資金を利用して彼等の生活の向上を圖るに努力しつゝあり。

今や都市計畫法案及市街地建築法案の二大法案兩院を通過し、今後は其の實行に關して生きたる効果あらしめん事切望に禁へず、殊に社會問題として國民住宅の問題は永久に研究を怠るべからざる也。（了）

═居住問題は家庭問題也═

思ふに泰西諸國に於て住居問題に就き其力を用ゆる所以のものは固より都市保健上の關係に起因するもの多しと雖も蓋し亦其家庭の賓否が國民の風氣に關すること大なるものあるを以てなり。カルデーナル・マンニング曾て云へり『家庭の生活は以て國民を造成す』と。蓋し齊家治國は四人夙に其重きを置ける所故に其格言に曰く『家庭の好良なるは健全なる心神を國民に與ふるなり』と。夫のピーコンスフヰルドの如きも亦曾て倫敦東部に於ける改良家屋落成の典に臨み其擧を稱揚して云へらく『家庭に於ける健全なる生活は國民の幸福及活力の基たり』と。當時醫業の大家が倫敦に於ける勞働社會が其生活の不秩序より來れる貨銀の喪失を打算し以て無量三千萬圓となせるが如き其住居の構造が國家經濟に影響する處如何に大なるものあるかを窺ふに足らむ。

（「救濟制度要義」より）



女流の住宅觀

家を建つ可き場合と建てなくてよい場合

棚橋絢子

私は關西育ちであるためか、關西風が兎角に好きなもので、東京式の家は何だか心持がよくないようです。殊に長い間二階住居を致しませんから、たまに他の家へ行つて、二階へ上げられると、危ない樣に思つて、脚もとがふらつきます。しかし、日本にも七階の大きい西洋館が出來たのですから、そんな舊弊なことを云ふと嗤はれるかも知れません。

私はね、『自分のことは自分でせよ』といふこと、若い者のすることには成る可く干渉しないといふ考との二つから、斯うして室を別にして母屋の方とは扉で仕切つて居ます。全くの御隱居さんです。その代りこの室だけは私のお城です繩張りの內へは悴にも嫁にも手はつけさせません。私は一體に、忠實な方でして、それに清潔好きですから、自分の手廻りのことを他人にして貰ふのがいやなのです。幸に七十幾歳の今日でもぴん〳〵して居ますから、拭き掃除など大抵のことは自分でするやうにしてゐます。結局その方が氣樂です、自分の思ふ樣に出來ますから一番よろしいのぢや。そして忙しい中ではあるけれど、あれやこれやと細々氣を働かして室內の裝飾なども自分で考へます。室の構造や窓の附け方などを變へるのは大仕事ですから、

そんなことは考へませんが、戸棚や押入れの建具などは、ちよい〳〵自分で考へて意匠を致します。殊に近頃は、書を稽古しまして、南畵の梅やら竹やらを描けるやうになつたので、地袋などにも自分の畵を張つて見ます。人樣からも頼まれるので分けて上げますが、大分衝立やら何やらに造つて居られるやうです。

私のこの住居は見晴らしのよいのが何よりの自慢です。御覽なさい、高臺にあるので、すつと西南は小石川の谷を隔てゝ傳通院の方が見通せます。これから櫻の頃になると、それこそ千金の眺めですぞよ。室は此んな小つぽけな見すぼらしいものですが、眺めだけは飽きません。同じ家でも、外側から眺めて美しいのと、私共のやうに、家の中から外の景色を眺めて美しいのと兩方ありますが、住むにはやはり見てくれよりも見ゑくれですわい。こんな奥まつた六疊の、住み古るした室でも、眺めだけは新しくて大きのや。春夏秋冬で景色も變りますからな。私は元來、あの大きい、お大臣振つた家は大嫌ひで、柄にも、家の贅澤などはお慶しなさいと戒めて居ます。よく世間にあることですが、家の贅澤を云ふ人に限つて、心の定まらない人で折角苦心をして、大層なお金をかけて造つたかと思ふと、もう三年も住むといやになつて、また新しい家を建てる。一生涯家を建てる苦勞ばかりして居て、たうとうどれが自分の本當の家だか解らず了ひに終る人があります。是も病氣でせうが、感心出來ませんな。それは柱が腐るとか、軒が傾くとかすれば改築する必要もありませう、それから又その土地から取り拂ふ必要の生じた場合には他へ新築もしなくてはなりませんが、さうでない限りは、何も家を新しく建てるに及びません。今まで住まれたものが、これから住めない道理はありません。お金が有り餘つて、使ひ道に困つてゐる人の外には、さう滅多に家を建てるものではないと思ひます。

併し、貸家に居る人は、早く自分の家をお建てなさい。それはよいことに違ひありません。私は貸家に住まつた經驗はありませんが、實際

他人の所有の家に住むのは、不便で窮屈で、その上不經濟であります。孔子樣の言葉にも『恒産なき人は恒心なし』とありますが、自分の家に住はぬ人には自分の魂がないと申しても差支ありません。田舍の人は堅實で眞面目であるのに、都會の人は動もすると輕薄で不人情に流れ易いのは、確にこの我が家に住むと住まないとにも依ると思ひます。貸家住居に馴れた人は、自分の家はどに心配が要らない、破れようが壞れようが他人の物だからかまつたことはないと斯う考へる樣ですが、それからが間違ひです。それが凡てに無責任になる原因で、恒心がなくなる次第であります。殊に家と家庭とは一つものであつて、家のないのは同時に家庭のない意味になることも多いのだから、何うかして自分の家に住まふ樣にしたいものです。又これは事實談ですが、或る小學校の子供が親に向つて斯う尋ねました。『お父さん、うちはよく方々へ引つ越しますね。お父さんはあんなに澤山の家を持つてゐるのですか』と。するとお父さんは無頓着に、『いやこれは皆他人の持つてゐる家なのでお父さんはそれを借りて住むのだから何處へでも引つ越せるのだ』と答へました。これを聞いた子供は、心に非常な打擊を受けまして、『それぢやお父さん、僕達の家は皆他人の物ですか』と感慨これを久しくしたといふことです。實に子供の敎育に取つてもこれは重大な問題であります。さうでなく經濟上からのみ考へても、貸家住居の人は、收入の何分の一かを家賃に取られて了ふのです。家賃には收入の十分の一を超すなど言つた人もありますが、今の世の中の有樣ではそれは出來ないことです。大抵の人が、百圓の收入あれば二十圓位の貸家に住まつてゐます。つまり收入の五分の一は家賃として引き去られます。これは一家に取つて大きい支拂ひです。それ故貯金をするなり何なりして、二三年辛棒をして自分の家をお建てになれば、僅の地代や家屋稅やを出しても、毎月殆どそつくりこれまで家賃として支拂つた金は殘る譯になります。一度建てた家は火事で燒けでもしない限

り、五年や十年で倒れるものでありませんから將來の經濟に及ぼすことは實に大きいと言はなくてはなりません。況んやそれが住み心地や子女の敎育にさへ影響するとなると、實に等閑にならない問題であります。それとて、よい家を建てようと思へば限りがないから、自分に相應した實用的の家でよろしい。それなら少し注意をして据置貯金でも致して置けば、どんな人にでも建つことゝ思ひます。

それから私の經驗から老人の室のことを申して置くが、老人のない家は別として、ある家でも、この室には餘り氣を附ける人はありませんが、それは間違ひであります。老人は精の衰へたもので、常に保養をせなくてはなりませんから、日當りのよい、氣持のよい室を宛てゝ置くことが肝要です。兎角老人は奥の方へ押し込めて置きたがるし、又老人自身も、意氣地のない者は、暗い樣な所に居たがるものですが、それは衛生上にもよくないし、氣が塞いで毒であります。老人は若い者の足手纏ひになると、お互に感情が衝突し易いものですからなるべく自分のことは自分でして、若い者に餘り干渉もしないが、干渉もされないがよろしい、それには元氣でないといけません、そして元氣をつけるには、保養が第一、殊に日當りのよい室を選んで住むやうにつとめなくてはなりません。世間で梅干婆あなどゝ言つて、本當に梅干のやうに皺の寄つた病身らしい老婆さんがありますが、あれ等も陽氣な室にゐて、いつも快活に小まめに働いて居れば。皺など寄るものではありません、私なども此の通り、皺は少しもなく、つや〳〵して萬年娘ですわ。これなら若い者が馬鹿にしようにもされません。『居は氣を移す』ですから人參を服んだり、湯治に行つたりしなくても、結構な老人部屋を宛てがつて貰つて、そこで獨立して暮して居れば、それが不老長壽の秘訣といふものです。勿論、斯う言つたからとて、衣食萬端について、老人は若い者の世話にならなくてはなりません。それが若い者の當然の義務でもあれば、老人は又さうして貰はなくてはやれないのですから。（談）

理想的の家は住み心地のよい家

山脇房子女史

私は長らく自分の學校のことばかりかまけてゐますので、自分の住居にも、他人樣の住居にも、あまり心を使つたことはございません。と言つて全然家屋の建築とか間取りとかいふことに無關心でもありませんが、まあ專門的にそれのみを考へる餘裕がありませんのです。

私の理想から申すと、家は凡て住み心地のよいのが一番と思ひます。何も虛榮や贅澤で家屋を建てる譯ではなくて、一にも二にも住み心地がよくて、如何にもスヰートホームといふ感じのある家屋を我々は必要とするのであります。と申して、私は元來消極主義が大嫌ひで、從來の日本の婦人の考へて居たやうな、けち〳〵した考には反對の方でありますから、家屋の如きも、同じ住み心地がよいと申しても、單に『住めば都』の心持ちで、何んな所でも自ら足れりとして居る樣なことは好みません。矢張り相當なのんびりした氣分になれ、外で働いて歸つても、落着いてやすやすと眠れる程度の家屋でなくてはなるまいと存じます。

固より物の程度は難かしいことで、住み心地のよい家といつても、彼の鴨長明の方丈記に書いてある樣に、竹の柱に茅の屋根でも、主觀的に自足し得れば、それが最も住み心地のよい家であつて、それに反して珠を鏤め、金を展べて造つた樓閣にしても、心に滿つる所がなかつたならば、却つて牢獄の如きでありますから、それは矢張り住む人々の心次第とも申されませう。さうでなくとも、吾々は、如何なる程度の、如何なる構造の家屋が、最も住み心地がよいか、人々の身分や境遇や生活狀態に依つて異ることでありますから、一概に斯うと申すことは出來

ないのであります。

併し、此の住み心地よい家屋といふことについて、私の先づ申したいのは、趣味を本位にした建て方といふことであります。一体、この趣味といふと、如何にも贅澤なことの様に考へられますが、決してさうしたものではありません。そして此の趣味は實に吾々の生活の基礎となるべきものです。若し我々の生活から、全然趣味を取り去つて了つたなら、洵に詰らない、砂を噛むやうなものになること無論でありませう。然るに近頃の所謂成金の新築した邸宅などを見ますと、これが現代式と言ふのでせう、如何にも廣大な場所を占めて、雲を衝く如き大工事を起し、出來上つたものは丁度城廓のやうでありますが、それを一寸見ましても、私共には眉をひそめるやうなこと許りであります。例へばその外部の装飾をするに、こけおどしの金銀などを張り、その極端の例は、金の鯱を取りつけたり、外部を朱塗りにしたりする、實に俗惡な、唾でもはきかけたい様なことをして居ます。そして内部もその通りで、徒らに用もない大きな室を造るとか、將軍様の御殿のやうな上段の間を拵へるとかして、その癖、御自分が落ち着いて安眠でもされさうな室などはいつもないといふ有様です。それもその筈かも知れません、斯る人は邸宅を虚榮心を滿足させる爲めに造るので、暖い家庭の和樂場、或は慰藉の場所とは考へず、そんな目的には却つて自宅以外の待合や料理屋を宛てゝ居るのですから、尤もな次第です。

斯ういふ邸宅の中には、勿論高尚なる趣味や落ちつきなどのあらう筈はありません。たゞ外面的に豪壯驕奢を裝つて居るだけであります。けれどもそれは吾々の理想とする『住み心地のよい家屋』でないことは申すまでもありません。吾々の住宅は假令小さくとも、又巨額の費用をかけなくとも、趣味だけは充實させたいものです。即ち間取の工合にしても、室の間には充分意匠を凝らします。他の部分は粗略にする必要ある場合でも床の間はなるべく廣く取つて大き

い掛物も吊されれば、花瓶その他の置物も配置されるやうに取らなくてはなりません。そして出來得れば床脇に地袋や違ひ棚やも取りつけ、氣の利いた明り障子、或は出し書院のやうなものにも意匠を凝らすのであります。何もそれはお客樣のあつた時に、自分に高尙な趣味のあることを見せびらかす爲めではなくて、自分の身嗜みとして、否、娛樂の一つとして、その位な心掛けはなくてはなりません。吾々は趣味として文學書類を讀んだり、名畫や名書藝を見聞したりするものと同じ趣味性を滿足せしむべく、家屋の一部に此の床なるものを備へると思はなくてはなりません。藝術家が文章や繪筆や舞臺の上に趣味を創作すると同じやうに、吾々は床の間に向つて趣味を創作し、以て高尙なる生活を營まなくてはなりません。即ち自分の好きな書畫をかけたり、自分の好む花を活けたり、或は自分の趣味に合つた床飾りの品を配つたりして自らを滿足させなくてはなりません。多くの人は床といふものはお客樣のあつた時に、形式的に飾るものゝ樣にお考へですが、それは大間違ひで、丁度羽織の紐は、その人の品格の示す最も大切なもので、他人が見やうが見まいが、それに頓着なくきちんと結ぶことを身嗜みとしなくてはならないと同じ樣に、床飾りも亦、自分の身嗜み、否趣味として必ず工夫を凝らすべきであります。

これは單に床のみについてゝはありません。一家凡ての部分に向つて、此の趣味の心を働かせなくてはなりません。即ち襖の如きでもさうであつて、私共がよく新築の邸宅へ行つて氣がつきますのは、襖の模樣がよくその家の主人なり主婦なりの心持を現はして居ると思ふことです。御本人達には、そんな所へまで氣がつかずほんの不注意にお造りになつた襖張りの紙や更紗が、その實非常によく人達の趣味の高下を示してゐるのであります。如何に高い價を拂つて磨いてお造らせになつた襖でも、模樣が俗惡見るに堪へないものであつたなら何にもなりません。

殊に趣味の高い方の邸へまゐりますと、何となく全体に落ちついた調和が取れて、奥床しく感ずるものであります。天井と欄間と襖と疊と壁との色が、しつくり合つて、何處と言つて不調和な所のないやうな室に通されますと、そこの主人なり主婦なりが、自然に慕はしく床しく思はれます。そして此の趣味の高いといふことは、金錢を以ては何うも出來ないことで、假令檜の柾を用ひずとも、楠の古木を張らずとも、蝦夷松などを取り合せて造つた安普請であつても、矢張り趣味の程度は分るのであります。

凡そこの趣味の豊かな建築ほど、住み心地のよい家はないと私は思つてゐます。その上に光線の採り工合や土地の樣子や、所謂家相やの關係もありませうが、眞に暖い、落つきのある家庭といふ感じのしますのは、何處から何處までも、此の趣味が漲つてゐる家屋に限ります。併し同時に、餘り趣味に囚はれ過ぎて、所謂趣味に墮した家屋も亦、何だかいやなものでありまする。偶々趣味を同じくする人がまゐりましたならば、大に愉快を感ずるでせうが、全然自分の偏した趣味のみから建てた家であると、反對の趣味の人には反感こそ起れ同感は致されません。それ故趣味の充實した家屋と申しても、矢張り十人並といふことを忘れてはいけません。これは趣味と申しては極端でせうが、小石川の方に、下が狹くて上が廣くなつた四階の家とかを建てた人があるさうです。奇拔は奇拔でせうけれど、餘りに變なものではありますまいか、況んやそれに住む御本人も、早晩飽きが來なくば幸といふものです。

それから今一つ申して置きたいのは、最も住み心地のよい家屋は、家屋そのものと同時に、家庭の圓滿といふことでありますが、如何に趣味の充實した建築であつても、中に住む家族の間が面白くなくては、決して住み心地のよい家とは申されないのであります。



現代社會觀 (四)

我市の中央公會堂は奈何に使用されつゝありや

郊邨

▲壹百萬の鉅財を投じ、近代建築藝術の粹を蒐めて成りたる處の、我大阪市中央公會堂は、確に、大阪市民の矜恃とすべき代表的の建造物たること今更云ふも野暮の沙汰なり。されど、斯る輪奐の美も、單に建物としての精を矜るに止まらば、幷は、畢竟、一箇の藝術たる價値以上何ものをも存せざるのみ。——何んのと此處まで眞四角に出てみたが、實は、公會堂近來の繁昌振りを看ては、建築界の未班に觚を操る吾れ何條他所事に看遁すべきや、左なきだに彌生心地の浮き立つ足で、あの華やかなオフィスに駈け附け、『什麼生(ソモサン)』と問答にこそ及び晃る。

▲扨て、來てみれば、聞きしに勝る却々の御繁昌、遖は、春光千金の彌生月とて、各種の催しや會合に、まだ、月の半にも達せざる今、既に當月一杯は、所謂『場所無御座』の盛況なり。此處で、ちよつと掻い摘み、本月に於ける使用許可になつたものを擧げてみれば、

全館	晝夜共	五件
	晝	一件
	夜	一件
大集會室	晝夜共	九件
	晝	九件
	夜	一一件

大食堂（晝夜共）　五件
　晝　四件
　夜　二件
中食堂（晝夜共）　五件
　晝　六件
　夜　三件
小室（晝夜共）　二三件
　晝　二三件
　夜　七件
特別室（貴賓室）（晝夜共）　三件
　晝　一件
　夜　二件

先づざつと恁麼もので、總件數―使用回數―ですれば、百貳拾回、四月中一杯は毎日四回宛公會堂の何處かを使用しつゝある勘定也。全館だけに就てみるも、五日目毎に晝夜押つ通しで何か目的に獨占せられ、大集會室に到りては、ざつと二日目毎に晝夜共貸し切りといふ盛況也。

▲記者は、砂を噛むような數字の行列を成るだけ避け、餘り肩が凝らないように、甘く讀者を釣つて斯の全編を讀むで貰ひ度く筆の尖きに計略を塗り附けてみたが、吾れにはちと謀反氣がする故に、是から以下數字の横隊や縦隊行進から展開運動も亦餘議なきことと、吾が催眠術に罹らぬ用心して讀まれたし。

▲先づ以て、昨年霜月の二十二日目から公會堂の使用を許されて以來、客月の末日までに其使用されたる總回數―件數―を擧げてみれば

一、全回數（件數但し小室は一室を一回と看做す）實に三百九拾五回

二、之を部屋の種別に見ると、

（イ）全　館　拾　八　回
（ロ）大集會室　六拾七回
（ハ）大食堂　三拾九回
（ニ）中食堂　六拾參回
（ホ）小食堂　二百〇八回

斯ういふ割合なり。そうすると、開館以來百三十日―僅に百日餘りの日數で、四百回近くも使用されてゐるといふのは、一体、什麼事に使はれたのであらうか、ちよつと待れたし、記者の

手帳にはソレ斯のように登録濟なり。

各種講演會	十一回	協議會	十八回				
銀行開業披露	一回	組合長委員會	一回				
懇親會	四回	會社創立總會	八回				
忘年會	一回	相談會	一回				
新年宴會	一回	談話會	九回				
其他各種宴會	六十九回	茶話會	四回				
東西名人演藝會	四回	學術研究會	一回				
音樂會	一回	結婚披露會	二回				
少女歌劇會	二回	國民擬國會	三回				
琵琶演奏會	三回	幹事會	一回				
演劇會	七回	名刺交換會	二回				
其他の演藝會	六回	年賀會	一回				
政談演說會	一回	織物組合委員會	一回				
株主總會	二十六回	染織意匠圖案展覽會	二回				
勞働會	一回	其他の展覽會	一回				
子供會	四回	各種披露會	一回				
衛生視察報告會	一回	學士大會	一回				
稅制整理研究會	五回	競技會	五回				
クリスマス	二回	表彰式	一回				
		發會式	一回				

以上の外各種會合　百七回
宴會其他待合用　十八回
控　室　五十一回

▲次に、之を晝夜の區別に觀て、どちらが多く使はれてゐるかといはゝ、ざつと斯ういふ割合になるなり。

(甲)晝夜共　九十四回
(乙)晝　百三十六回
(丙)夜　百六十五回

說明するまでもなく夜の方に多く使はれてあり最一つ進むで、之を月別にすると什麼ものであらうか。されば、

A、**十一月中**(廿二日開館より九日間)
(い)使用總回數　十四回
(ろ)晝夜共　九回
(は)晝　二回
(に)夜　三回

B、**十二月中**
(ほ)使用總回數　百十四回
(へ)晝夜共　二十四回
(と)晝　三十九回
(ち)夜　五十一回

C、**一月中**
(り)使用總回數　百二十一回
(ぬ)晝夜共　二十四回
(る)晝　四十五回
(を)夜　五十二回

D、**二月中**
(わ)使用總回數　七十九回
(か)晝夜共　十四回
(よ)晝　二十四回
(た)夜　四十一回

E、**三月中**
(れ)使用總回數　六十七回
(そ)晝夜共　二十三回
(つ)晝　二十六回
(ね)夜　十八回

彼樣な割合になるなり。斯の總計の結果から、讀者は夫れ夫れに何ものをか推定し又は看出されるであらむかなれど、此處に說明して置き度

き事は、開館初月は問題とならずして、十二月及一月に於て使用回數がずつと累加し、二月と三月に於て漸次激減を來せる一事なり。是は、年末に於ける各種の會合が頻繁なることと、一月は云ふ迄もなく會合の殷に行はるゝ書入れ月なることが世相である事實より觀れば何んでもなき問題なり。唯、二月と三月は季節の關係と一月を受けた反動とに因つて會合の減じたものと觀て大過なかるべし。蓋し、眞に公會堂使用率の安定を觀得べきは、人の心も浮き立つ當月より夏季及秋季に在らむか歟、宜べ、當月既に其殷盛な現象を示せることは前に誌した通りなり。

▲讀者各位！、記者は此處まで數字の羅列を遣つて、嘸かし各位も寢む氣を催されたことと御同情に禁へないが、今少々御辛房を賜り度し。仍で、今度は、月別に依る使用室別といふようなものを窺いてみることにせむか。

1、**十一月中**（九日間）

（ア）全　館	四　回	
（イ）大集會室	二　回	
（ウ）中食堂	三　回	
（エ）小　室	五　回	

2、**十二月中**

（オ）全　館	九　回	
（カ）大集會室	二十一回	
（キ）大食堂	九　回	
（ク）中食堂	十七回	
（ケ）小　室	五十八回	

3、**一月中**

（コ）全　館	三　回	
（タ）大集會室	十七回	
（チ）大食堂	十三回	
（ツ）中食堂	二十四回	
（テ）小　室	六十四回	

4、**二月中**

（ト）全　館	一　回	
（サ）大集會室	十五回	
（シ）大食堂	九　回	
（ス）中食堂	十　回	
（セ）小　室	四十四回	

5、三月中

(ソ)全　館　一　回
(ナ)大集會室　十二回
(ニ)大食堂　八　回
(ヌ)中食堂　九　回
(子)小　室　三十七回

仍で、右の使用回數を日數で平均すると、

全　館　は七日毎に一回
大集會室　は二日弱毎に一回
大食堂　は三日強毎に一回
中食堂　は二日強毎に一回
小　室　は毎日二回弱

使用された割合となるが故に、毎日小室は使用され、二日目毎には大集會室と中食堂と小室が使用され、三日目毎には大食堂と小室、場合に依りては、其處へ大集會室も中食堂も使はれある勘定となるなり。

▲やれやれ、肩が凝つたり、讀者各位も左こそと思はるが故に數字は此の位で止めて措くとにせむ。けれども、今たつた一とつ附け加へ度き事は、其使用料金額なり、開館以來三月末日迄に合計一萬三千八百三拾五圓、一箇月平均（三十日に直せば）三千百九十二圓六十九錢となるビルデイングの好い加減なものを借つても一箇月一千圓以上の使用料を徵らる、西部遞信局廳舍のアノお粗末なものでも一箇月一千三百圓とか五百圓とかいふとなり。使用件數にした平均使用料が全館突つ込みで一回卅五圓餘、蓋し廉なりと謂ふ可し。終りに、今尙少々書き添へ置き度き事は、市民の公會堂内に於ける公德心に甚だ以て遺憾の點ありと當局者の苦情なり。曰く、什うも市民の公德心が進むでゐない爲、公堂内に樂書抔も少々あり―記者は聊か驚いた何んたる莫迦者であらうかと―窓の裝置抔は特殊な方法になつてゐる爲、其開閉を識らざる儘無理な取扱ひを爲し毀して了ふ事も少からず、便所に到りては遺憾なく斯る人々の性格を發露して、注意書きのあるも物かは、殆むどお話にならぬ亂暴さなり。

曰く、水道栓の開けつ放しはまだ上の部なり、

制止にも拘らず下駄履きの儘室内に入らむとして中には隨分小理屈で押通さむとする者もあり大集會室で、芝居見物にでも行つたかように飲食物をばくづきて平然たる者もあり。

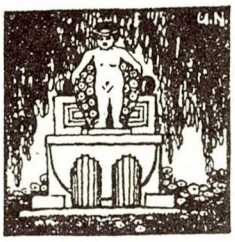
曰く、若し夫れ、他人の迷惑も妨害も幷麽事には頓着なく、椅子の上に突つ立ち、乃至は、椅子と椅子との上に兩足を懸けて立ち上り、終には椅子を滅茶苦茶することも珍しからず。

▲其他、曰く、何、曰く、何と、記者は、市當局者の切なる苦情を隨分聞かせられたり。成る程、折角の大建築も、斯うも理解の無い扱ひ振りでは其低級さ加減知れたものにあらず、蓋し市民の面汚しなり。何は兎もあれ、公會堂が斯くも次第に利用の累加されつゝあるは故寄附者の遺志も、故辰野博士及現我建築協會理事長たる片岡工學士等我邦として曠古な斯の大建築を完成せられたる諸氏の所期も全ふせらるゝものと謂ふ可し—甚だお退屈様！（畢）

♣ ♣ ♣

◆過ちは危き處に在らず◆

高名の木のぼりといひし男、人の掟てに高き木に登せて、梢を切らせしに、いと危く見ゐし程は云ふ事もなくて、下るゝ時に軒たけばかりになりて、過ちすな、心して下りよ、と詞をかけ侍りしを、斯ばかりになりては、飛び下るゝとも下りなん、如何に斯く云ふぞと申し侍りしかば、その事に候、目眩き枝危き程は、已れが恐れ侍れば申さず、過ちは安き所になりて、必ず仕る事に候ふといふ。あやしき下臈なれども、聖人の誡めに叶へり。鞠も難き所を蹴出して後易く思へば、必ず落つと侍るやらん。



京都古建築觀（八）

特別賛助員　伊藤清造

十一　蓮華王院

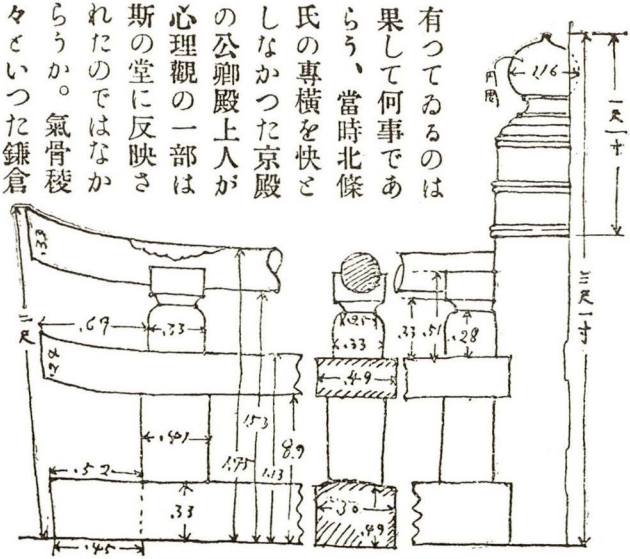
概說——京都市内豊國神社の南方に在る。始めは、鳥羽上皇が長承元年（西紀千百三十二年）に此處に堂宇を建立して得長壽院と名付け、内に一千一躰の觀音立像を安置せられ、後に、長寛二年（西紀一千百六十五年）後白河上皇が尚更らに三十三間堂を建てゝ一千一躰の佛像を拵へ蓮華王院と稱せられたが、斯の兩寺共に、寶治二年（西紀一千二百四十八年）北條時賴の時代に燒失して終つたので、文永三年（西紀一千二百六十六年）に斯の兩寺を一緒に成し、蓮華王院として再建したのである。堂の裏緣では、昔時諸藩の士が弓勢を試みたので、斯の面影は堂に奉納された額の數々に偲ぶことが出來得る。

本堂　現存してゐるのは文永三年に再建されたもので、北條時宗の時代に當つてゐる。桁行三十三間梁行五間の長方形の單層入母屋木瓦葺の建築である。慶安三年即ち德川家光の時代に大修繕を行はれてゐる。明治三十年特別保護建造物の指定を受けてゐる處の、所謂鎌倉時代の和樣建築である。組物は少し異つた和樣二手先を用ひてある。正面三間に向拜を附けてゐるけれ共、恐らく、彼の德川期の修繕の際に作つたものであらう。

內陣は、中央三間であつて組入天井とし、外陣は、化粧屋根裏を表はしてゐる。本尊及び二十八部衆を安置した內陣、及び、一千一躰の觀音を安置した須彌壇には鎌倉式の勾欄がある。圖は、建築雜誌第百八十八號所載論說、星野勇三郎氏の『本邦高欄說』の中の插圖第十八を轉記したものである。

正面から見ると暢び暢びした屋根の勾配と長い姿態とが妙な感じを與へてゐるけれ共、側面から見ると、深い入母屋の暗い蔭と緩い勾配と無限の神秘を含んで、殊更に安定の快感を與へてゐる。細部の手法等は藤原末期のもの其儘で新時代に對する新要求は、一つも實現されてゐないが、其表現に於て、遖が時代の精神を遺憾なく現してゐる。

淋雨蕭々として霽れず、堂畔の垂柳搖々と動く處、蛇の目の傘を差し掛けて行く一人二人を添景とした斯の蓮華王院本堂は、何たる靜けさであらう。靜中動を生じて、元の來冠を卻けた弘安四年に先つこと僅に十有二年に出來た。斯の堂宇が限りなく沈靜に憂愁に滿された表現を有つてゐるのは果して何事であらう、當時北條氏の專橫を快としなかつた京殿の公卿殿上人が心理觀の一部は斯の堂に反映されたのではなからうか。氣骨稜々といつた鎌倉武士の一方には、いひ知れぬ沈鬱な淋しい京都上下の人心を思はずにはおかないのである。あの雨に薄れた三十三間堂の物憂く沈んだ姿態を



三十三間堂內部勾欄

望んだとき、誰しも恁麼哀れつぽい京都の古を懐ばないではすまないのである。三十三間堂の表現を通じての鎌倉時代の京都、恁麼ものは吾人の享有する特權ではなからうか。

全体、丹塗りにせられた堂の一つ一つの扉を眺めたときに、可成りつかれさゝれる意識が吾人に疲勞を傳へて、斯くは淋しく哀な感を起させるのではないが、只長く連つた堂の姿態は、其力のない形に於て線に於て、吾人は既に弱い感じを得ない譯にはゆかないのである。

南大門

桃山時代に屬するもので、八脚切妻明治三十四年に特建になつてゐる、物恐しい感を強ふせしめる。

現今東寺の南天門は此處の西大門であつたのを明治二十八年に東寺へ移したもので、同じく桃山時代のものであつて、明治四十三年に特建になつてゐる。

十二　豊國神社

沿說

京都市内本町の東方に在る處の別格官幣社で



唐門扉彫刻二種

あつて、正一位豊臣秀吉公を祀つてゐる。彼の昇日の勢を以て宇内を統一し、鷄林を越へて唐土に入らんとした豊公も、終に、慶長三年八月十八日、齢六十三を以て薨じたのである。同年九月には、彼れの遺骸を阿彌陀峰に葬つて社殿を營み、其社殿、廻廊、山門、拜殿等

唐門所用蟇股

の全部が竣工したのは翌年の三月であつた。朝廷からは、このとき勅して、豊國大明神なる神號を賜ふたのである。併し、斯うした宏壯な建築も、德川の代になつて、痛く荒廢したのであるが、明治十年に新しき工事を起して、今の場所に社殿を造營したのである。明治天皇は、茲に之を別格官幣社に列し給ふたのである。

建　築

古建築としては、桃山城より移建した唐門があるのみである。桃山期の唐門は京畿地方に可成り多く遺つてゐる。そして、孰れもよく當代の氣分を橫溢せしめてゐるが、斯の豊國神社の唐門程奔放な大膽なものは少いと思ふ。戰國時代の後を享けて、逸虎の樣な諸將を自己の掌中に弄し、六十餘州を睥下して、傍に人なきが如き振舞をした處の豊臣秀吉が、大阪灣を泉水と見淀川を庭の小川として築いた伏見城に、こうした唐門の作られたとは、決して不調和なことではない。斯の唐門を通じて見た伏見城と、是を築いた人格者と、吾人は夫れを想起するの特權を有してゐる。

唐　門

伏見城から移された斯の唐門は、慶長十年に造營されたので、明治三十年に特別保護建造物と成り、明治四十三年八月に修繕の功を告げてゐる。慶長十年は西紀一千六百〇五年で、德川秀忠が征夷大將軍の職に就き、二代目の將軍となつたときである。歷史の上からは、慶長十年は德川時代に屬してゐる。併し、秀吉が死んでから八年目、家康が征夷大將軍の職に就た年から三年目であつて、奈何に豊臣時代の藝術が急造的な又は藥罐的な發達を爲したとて、そうそう人心から遠く去るものではない。慶長十四年に出來た妙心寺の勅使門でさへ、尙豊臣期の餘薰を充分に存じてゐる。慶長十六年に出來た南禪寺金地院の方丈等は、餘程豊臣式を脫化してゐるけれども、尙何處となく英雄の面影を偲ばしめる。

桃山時代に特に著しく發達したのは、建築物に附屬した處の裝飾的彫刻であつて、一葉の唐

草一匹の鳥にも、豊公の偉大な魂が刻みつけられてゐるように、生々として活躍してゐる。豊國神社唐門の扉の健鯉の勇躍たる態は、文學士植田壽藏氏が『男に生れたからには、一度はアノ鯉に成つてみたい程潑溂としてゐる』と評されたが、吾人は、斯の言を以て、斯の扉の彫刻全般に對する評語としたい。

又、同じ植田文學士が、斯の唐門の豪放な本墓股の脇に充された彫刻に鶴が上から吊されてゐるのを評して『外國人は、藝術は纏つた材料を表すことが必要であるといふけれども、我桃山美術は、恁麼問題を超脱して立派な美術を大成してゐる』と云はれたが、奈何に桃山美術が天才的に爲し遂げられたかを識ることが出來得る。無技巧な、無作法な、放縱な、大膽な桃山時代の精神は、斯の唐門によつて最も克く表現されて、伏見城の規模にも、是を作つた豊公の人格者にも、斯くして、吾人は親しく接してゐるのではないか。

十三　六波羅密寺

概　說

京都市内松原と五條との間に在る眞言宗の古刹であつて、西國巡禮札所の第十七番であるため、巡禮者の跡を絶つ間がない。普陀落山六波羅密寺と號してゐるが、俗に、六波羅堂と呼んでゐる。天暦五年醍醐の五重塔の出來上つた年に、京都には惡疫が流行して、死屍が洛中に相枕しゐたといふことであつた。此のときに、空也上人は、此れを不愍と思ふて、自ら十一面の大悲觀世音菩薩の像を刻み、是を車に乘せて洛中を巡歷し、祈禱勸進して一寺を造り、斯の像を安置した、是が斯の寺の出來た初めであるといふ。

六波羅といふ音が吾人に與ふる概念は、足利時代初期の古建築があるといふことよりは、寧ろ、源平時代から鎌倉期にかけて歷史の古跡としての六波羅である。源平の屋敷は斯の六波羅の地であつて、所謂樗牛博士の『瀧口入道』に『さしも美麗に建て連ねし大門高臺一夜の煙と立ち上りて、燒野ケ原荒として、立木に迷ふ鳥の聲

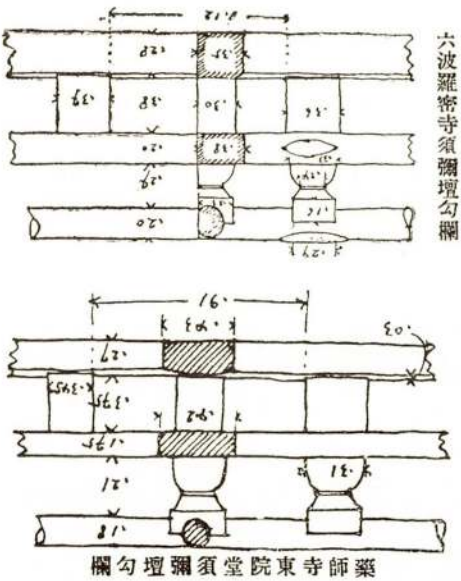
のみ悲し」と嘆せしめ、「高榎十年にして立てども、一朝の煙にだに堪へず』と悲しませたのは斯の地である。頼朝が六波羅探題を設けたのも元は斯の地であつた。今は民家雑然として群を成してゐるが、獨り古を知れる顔に本堂のみが寂しく佇むでゐる。

本堂

六波羅密寺の本堂は、壽永二年に燒失して、貞治二年に再建したものであることは、寺に貞治二年の勸進文のあることに由つて明白である壽永二年は、我歴史に最も美い詩の一節を遺した年であつた。樗牛博士の所謂『源氏となつて興らむよりは、平家となつて亡びんかし』といつた其平氏の一門が住み馴れた都を遺して西海に出奔した年である。行末はいづこ白波に浮きつ沈みつした果敢い命を捨てかねて、屋島壇の浦に浮名を流した首途であつた。燒野ケ原茫々として、立木に鳥の寂しく鳴たのも此の年であつた。あはれ、盛者必衰の理を説いた佛者は、其必衰の運の兵士と共に、大門高臺一夜の煙と立ち上つてしまつたのであつた。

再建された貞治二年は、足利二代將軍義詮の時であつて、京洛には後光嚴帝、吉野には後村上帝が居まして、勤王の將士大に勤めた時であつた。我六波羅密寺本堂は、斯くした氣分の中に出來上つたのである。慶長十九年に修繕され、明治三十年特建に指定されてゐる。

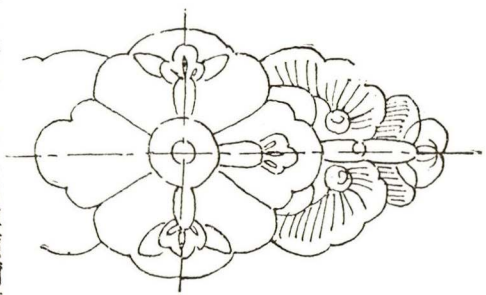
桁行七間梁行五間の單層四注本瓦葺の丹塗り



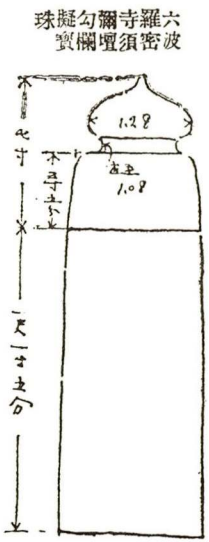
六波羅密寺須彌壇勾欄

藥師寺東院堂須彌壇勾欄

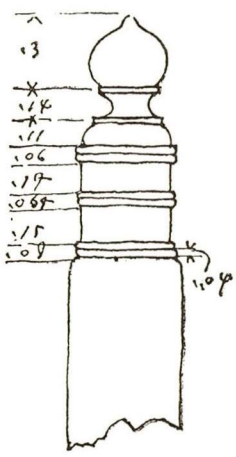
の建築であつて、前方に三間の向拜を附けてゐるが、手法は、本建築とは新しく、或は、慶長十九年修繕の際に作つたものかと思はれる。建築物本來が餘り優れたものでない處へ向拜がある爲に一層其姿態を惡くしてゐる。本建築で特に著いものは内陣須彌壇勾欄である。擬寶珠の形も特徴のあるものであり勾欄の木割も特徴を有つてゐる。擬寶珠の形は、藤原期の法界寺、阿彌陀堂や鎌倉期の藥師寺、東院堂の夫れに較べると著しく劣てはゐるが、尙、三寶院表書院勾欄の夫れに較べると、遙かに立派な釣合を有つてゐる。又、勾欄は金塗りであつて、平桁のみが朱色漆を塗つてゐる。其



六波羅密寺本堂須彌壇勾欄平桁所用金具



六波羅密寺須彌壇勾欄擬寶珠



三寶院表書院勾欄擬寶珠

木割は、藥師寺東院堂内陣の夫れと非常に克く似た處がある。唯、藥師寺東院堂の方は、笠木と平桁との距離が、六波羅密寺の夫れよりも著い點に於て異つてゐる。殊に、其ときは、普通のしやくりの下に向五厘餘の細きしやくりを有つてゐるが、六波羅密寺の夫れにも是を見ることが出來得る。是れは、鎌倉期の特徴であるとされてゐるが、斯の六波羅密寺本堂が、貞治二

年再建の説の根據は、斯うした所からでも疑ふことが出來得ない。平桁に用ひられてゐる金具は後世の類形的の形式を離れて、當時の好尚をよく留めてゐる。

雜然とした民屋の間に、半ば剝落した丹塗の堂が、青くなつた瓦を戴せて立つてゐる處、はぎとりかけた千社禮札の香りも、抹香臭く汚れた逃禮の白衣も菅笠も、此處にはとりわけ相應はしく、一種寂い悲い景色の間に、何となく尊く床敷い氣分を漲らしてゐる。

新山家

去年病て、ことし木賀山の温泉に癒ゆ。枳風もさより予が志を得、われよたかれが性にさはらず。さ月はじめの三日、我野を出るに、春よりも猶おぼつかなく、あはれふかき曙なり。さるにひとりの奴の十ばかりなる子をつれたりけるぞ、風雲のためには、まぎるゝ事おほかり。かくて道すがらは、何の事をもいはず、文鱗の旅亭にたづねまかりて、しばしはやすき事になりぬ。一たび温泉に口すゝぎして、此山の閑素をさへば、

翁さび覆盃子尋る山路かな　文鱗

雲かとよ蓼の穂みねて紙のぼり　同

これらの句に、先達せられて、世波忘れたり。

岩根こす鞋に鮹ありはしりあゆ　其角

いちこ枝をれて水のむ猿に伴はん　枳風



■臺灣營林局の事業に就いて（三）

會員　谷　民藏

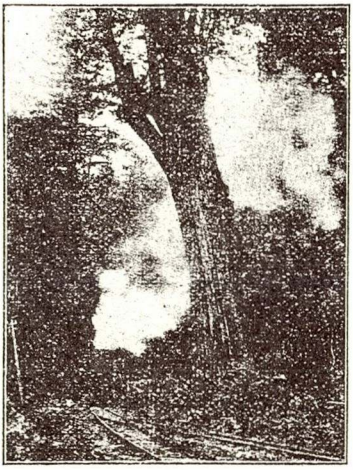
斫代事業（阿里山の事業）

經營の沿革

阿里山は嘉義廳管內に屬し本島縱貫鐵道の主要驛たる嘉義の東方四十一哩にあり。新高山の西側に連亘起伏せる一團の森林にして地味氣候能く植物の生育に適し長幹美材參差蓊鬱として星霜幾千年全く世と隔たり人文及ばず斧斤未だ嘗て入らざる曠古の原生林なりき明治四十三年四月之が官營の基礎成り阿里山作業所官制の發布せられて以來各部面の事業漸次其歩を進め先づ阿里山鐵道の建設に主力を注ぎ曩に藤田組に於て調査施工せる處を引繼き更に測量調査を遂げたる上直に建設工事に著手し一面に於ては森林の基礎調査を進行し植伐併行の成案を得たり斯くて大正元年十二月全線の開通を告ぐるに至り一條の鐵路能く千古の關鑰を開き怪偉巨大なる阿里山材は朝夜に嘉義の貯木場に集り今や珍雅數奇の資通直美大の材顧客の希望に應じて供給せらるべく構內又特に最新精巧なる幾多の鋸機を運轉せる製材工場の設備ありて木材の形狀品位に應じ確實精良なる挽材として市場の需要に應ぜんとす必ずや大方斯業家の眷顧に副ふべきを信ずるものなるべし大正四年七月阿里山作業所官制の廢止せらるゝと同時に營林局を創設せられ其の作業全部を當局に於て繼承し以て今日に至り事業の基礎は漸く固く各部の機關一層整頓するに至れり

阿里山の森林

阿里山作業地は既説の如く嘉義市街の正東新高山の西側に於て嘉義廳管内の蕃地北回歸線上にあり東西三里南北八里に亘り面積凡そ一萬一千百町歩の一大森林中數條の溪流盤旋匍匐して複雜なる地形を成し海抜二千八百尺より八千七百尺の間に連れり垂直的位置に於ける森林植物帶上より見るときは暖溫二帶を擁し其海抜七千五百尺の地點にある阿里山兒玉村に於て大正二年一月より十二月に至る一箇年の觀測に依れば盛夏（九月三日）の最高溫度攝氏二十四度八分華氏七十六度八分嚴冬（二月七日）の最低溫度零下一度華氏二十八度一箇年平均溫度は十二度七分華氏五十六度を示せり海面を抜くこと既に高く氣候亦斯の如く溫暖和適にして且つ關係的濕度の年中多量なること雨量の極めて豐富なること林地の甚だ肥沃なること並に斯の地帶暴風と稱すべきものなきこと等樹木生育上の要件一として可ならざるはなく而して蠻雲深く鎖し風塵達せず人跡未だ到らざる斯の別天地に於て其鄉土の樹木が極度の發育を遂げたるものは即ち我が阿里山の森林なり故に其の老大なるものは樹高二十數丈幹圍六十尺を出づるものあり巨枝老幹蔚然として天日を見ざるもの方數里陰森たる鬼氣翳蒼たる雲氣轉た身邊に逼るを覺ゆ今阿里山森林分布の梗概を記せば下部二千八百尺より四千尺の間に於ては内地の森林に之を見ること能はざる籐抄欅（トウヘ ゴ ツウソウ）蓪草其他各種の喬灌植物繁茂し其の上部に接して樟及大葉栗櫧（カン）等を見る次に丸葉櫧、長葉櫧、裏白櫧、赤楊（ハンノキ）、楠仔（グブ）、柯（シイ）等の森林に移り斯くて海抜六千五百尺の邊に至れば老大なる紅檜を生じ漸く高きに上るに從て扁柏



の混生を見遂にその純林をなすに至る而して七千尺乃至八千尺の間は蓋し阿里山の精髄にして扁柏の最も優良なる林柏を現出し眞に比儔を見ず更に八千尺以上に至り遂に姫子松栂等を以て終る其の各樹種分配の狀況と森林の壯觀とは次の調査表により之を髣髴するに足らん乎

現在蓄積調査表

	樹種	本數	材積(尺ノ)	一本ノ材積(尺ノ)
針葉樹	扁柏	一五二、四八二	三、四四三、八九九	三三・五
	紅檜	一五五、七八三	四、四〇四、四六〇	二九・九
	亞杉	五、〇九一	一八六、〇三五	三六・五
	姫子松	一三、八七六	二三七、九七九	一七・一
	栂	四六、九九八	五六六、三三三	一二・〇
	計	三七四、二三〇	八、八三八、七〇六	
濶葉樹	樹種	本數	材積(尺ノ)	一本ノ材積(尺ノ)
	櫧類	二六七、三六三	二、七〇九、六七八	一〇・一
	柯	二四七、五四八	二、八〇三、六二三	一一・三
	樟	二、三九六	五六、〇九八	二三・三
	赤楊	四五、九九八	一四九、五八二	三・二
	雜木	五四八、八八一	三、六四九、六七二	六・六
	計	一、一三、一八六	九、三六八、六五〇	
	合計	一、四八六、四二六	一八、二〇七、三五六	

內地來航の客先づ基隆に入る唯だ見る四面の禿山赭峰風貌轉た荒涼のみ船を捨てゝ陸行すること一日又半夜汽窓應接送迎する處山野百里復た何等の異彩情趣なしと旅客皆傳へて謂らく蓋し臺灣を見ざるのみ一度脚を阿里山に入れんか何人も言ふべからざる崇大雄渾の感胸を衝て止む能はざるを知る而して阿里山の森林は蕃界原生林の優超なる一區域のみ阿里山の外に更に幾多の阿里山あり本島中央の脊梁山脈は尙ほ青巒翠黛鬱潑測たる生氣の鬱積浮動するを見る

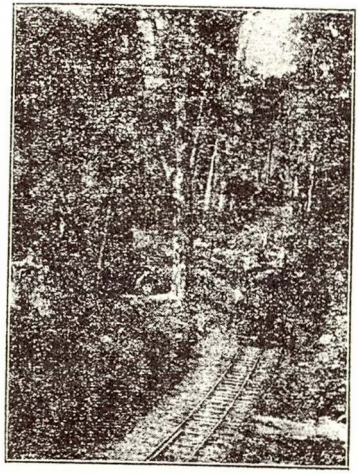
阿里山の木材

阿里山材の主要なるものに付其性質用途の大要を摘記せん尤も俗稱阿里山産の(ヒノキ)に二種あり一は內地產扁柏と同一樹種にして他は之を紅檜と稱す共に建築材、土工材、船艦材等として最も適當し殊に白蟻の害に對しては最も安全なるものとせらる而して從來坊間單に之を阿里山の「ヒノキ」と稱し混同せるもの多きも茲には學術上の樹種區分に從ひ扁柏と稱するは特に前

者を指稱するものにして全く木曾又は紀州産檜材と同一樹種なりとす

（扁柏）材幹通直にして長大なり直徑二尺乃至四尺にして其の最も大なるものは十五尺に達するものあり而して扁柏材は下部紅檜と混生する部分の外鬱閉密なる單純林をなすを以て樹幹通直にして枝下長く從て木理條達し硬軟宜きを得て工作を施し易きものあり且つ材色鮮麗にして雅致あり水濕の地に使用するも容易に腐蝕せず之を內地產扁柏に比すれば光澤稍々鮮快を缺ぎ樹脂香芳稍々高きの憾あるが如きも其工藝的性質に於ては間然する處なきものあり而して長大偉ひなきの材は獨り阿里山に於て之を求むる事を得べく又價格も比較的低廉なり蓋し扁柏材は建築、土工、船舶等其の用途の廣汎なること本邦產檜材に次ぐ

（紅檜）本島特產の樹種にして頗る高齡を保つもの多く阿里山林木中最も老大木に富む其大なるものは直徑二十尺以上に達し推定年齡三千年を算するものあり通常扁柏又は濶葉樹類と混淆林をなせるも亦往々美良なる單純林を見ることあり材質扁柏に比し稍々輕軟にして樹脂分多きが如きも割裂伸縮すること極めて少く價格も扁柏に比し格安なるを以て一般建築又は土工材として賞用せらる特に斯の樹木は老大なるもの多きを以て頗る美麗にして又幅廣き杢板を得べく化粧材として最も珍雅なるものあり



阿里山鐵道運材

紅檜は其名稱により內地に於て動もすれば阿里山產出の扁柏材なりと速了せられ木材の試用に依りて直に阿里山扁柏材に兎角の批評を加ふるものあるを聞く然れども紅檜も亦其の所を得れば充分特得の長所を有するのあり

(姫子松)多くは扁柏、紅檜等と混生し直徑普通二三尺なるも往々五六尺に及び樹高百三十尺内外なるものあり材質緻密柔軟にして彈力に乏しきも反曲割裂比較的少く工作を施し易し建築材としては天井板、竿縁、長押、障子、等に用ふべく殊に阿里山に於ては稀有の長大材を産す

(亞杉)之れ亦本島特有の樹種なり材幹通直長大にして直徑七八尺より十尺以上に及び樹高百五十尺に達す材質は内地産の杉に似たるも緻密にして其の心材は帶紅暗褐色を呈し一種の雅致を有するを以て彼の屋久杉又は黒柿と同樣に器具材及裝飾材等に使用することを得べく且つ頗る保存期長きものとす

(栂)直徑二三尺より六七尺に及び樹高七八十尺を保つ本材は化粧材として特に無節柾目材を珍賞せらるゝものあり其他材質用途別に内地産と擇ぶ處なし

(櫧類)血櫧裏白櫧、丸葉櫧、長葉櫧、大葉櫧、等數種あり直徑四五尺樹高七八十尺より百尺に及ぶ各種夫々特長あるも何れも材質堅硬緻密にして又强き彈力と靱力とを有するが故に車輛用材、器械用材、砲車用材、其他各種の把柄用材として貴重せらる又洋風建築及家具材としては其の斑紋の珍奇なるものあり

(柯)直徑一二尺より六尺に達するものあり材質硬重にして割れ難し上品は椽板其の他建築材に供すべく又器具材、把柄材として用途廣し

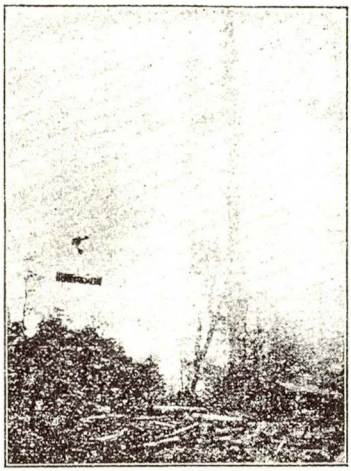
(赤楊)直徑一尺内外のもの多し材質柔軟にして割易く肌理密にして美麗なる斑紋あり且つ鉋切れ宜きを以て器具用材又は包裝用箱類等の製作に適當なりとす

(雜木)楠仔、烏心石(オカキ)、槭、江某、九芎閒等を包括して茲に假に雜木と云はん之等の中には夫々特有の長所あり貴重すべき材質を保持せるものあるを以て其の特質を發揮し之を適當に利用せば亦以て相當の價値あるもの少からずと雖煩はしきを以て之を略す

伐木造材及集材

阿里山に於ける計劃的斫伐は大正元年度より之を開始したり其年伐材積は今後當分丸太材積二

十萬尺〆内外の見込にして主として丸太材の儘搬出するも沿道工事用材其他特種材にして山地製材を利とするものは又手挽により製材を行ふことあり而して本林地の産出木材は稀有の長大材にして人力を以て轉材することを容易ならず且つ森林鐵道の沿線に集材する爲めには屢々地勢に逆ひ溪底より木材を引上ぐる場合少からざるを以て近時米國西部の森林に於て著しき發達を遂げたる架空式鐵索集材機械を採用し最も簡便なる方法に依り自由に木材を操縦して集材並に貨車積込を行ひつゝあり之れ我が國に於ける集材機械の嚆失にして一度機械を据付くる時は其周圍各半徑一千乃至一千二百尺以内隨所に羅布せられたる木材は容易に中心地點に蒐集せられ又直ちに貨車積込を行ひ得べき裝置なり目下使用し居るもの三基にして其集材能力は一日十時間運轉するものとして凡そ一千五百〆尺に達し外に「ドンキー」機二臺を設備して其の補助作業をなせり



阿里山に於ける第二號集材機械

望嶽

何物芙蓉落日寒
關中霄逈綵雲端
青天一柱崢嶸出
白雲千秋突兀看
誰指仙衣懸縹緲
自疑玉女剖琅玕
于レ今石跡山陰地
喚二取驪駒一問二大丹一



建築材料委員會に望む

會員　溪月

予は會員の一人である、建築と其材料に就ても未熟の一介書生で、斯界に對して何等の抱負をも持たぬ、寧ろ輩かず飛ばず靜に世の大勢を傍觀するのが無事である。萬事云はぬが花と謙遜的對度を以て遠慮するのが矢張柄に協つて居ると引込で見たが、扨て再考して見ると予も又矢張會員の一人で、其一端を汚して居る者と考へると默つても居れぬ、折柄或る日の事第七部委員會に出る様にと勸告書が舞込んだ、扨て第七部委員會は何を研究するのか什麼責務を有して居る乎知らぬが半兵衛の予は幹部の命ずるが儘因緣淺からぬ中の島公會堂地下室「レストラント」へ落合て看ると學者先輩の一團相會する者六人、議案を訊けば建築材料調査會とあり、是れ實に世界大戰後經濟界の動搖すべき時期に際し斯種の研究は機宜に適したもので、本問題こそ吾人に採つては帝國議會に於ける豫算案以上のもので斯界懸案中の骨髓であると思ふ、而も斯の重大問題が我日本建築協會に依つて解決せらるゝとせば會心事であり光榮に存ずる次第である、然らば之を解決するの具体案とは什麼もの乎、斯の問題こそ實に予が多年の宿題であつた。之れが今日期せずして學者先輩の高唱する處と成り、茲に實現の域に到達したるを祝福するものである、予は茲に潜越ながら其沿革を披瀝し讀者の叱正を乞ものである。

回顧すれば二た昔となつた明治三十六年の初春、予は都會集中主義の實行者として否都戀しき時代熱に侵され此の浪花の都人として煤煙中に生存する事と成り、既に其當時の大阪は人口僅かに八十萬別に寂寥として居たとは思はぬも今日より觀れば頗る今昔の感に禁へぬ、當時は交通機關の隨一とも稱すべき軌道を軋しる電車もなく只僅かに不景氣な巡航船と人力に頼める腕車のみ、肩摩轂擊の大混雜を呈しつゝある昨今の電車交通を見れば實に隔世の感がある。時代標語を以てせば川の都はいつしか文化燦然たる一大都市と展開され、都市計畫問題の勃興と云ひ或は市區改正案の急要を說く等之れ皆建築界の一大變革期に入つたものではあるまいか、然らば是からは各種工事に使用すべき建築材料も其需用及形態等に著しき變遷を見ればならぬである、斯る事情より考へて見ると建築材料調査の急務なることは當然の要求であるが、扨て復雜纏綿せる材料の何れの部分より着手するが至便なる哉判斷も一寸付け兼ねるのであるが、遂には從來自己の經驗したる建築即ち都市建築物中の會社、銀行、工場、倉庫、特種建造物或は住宅、日本固有の建築物等に就て其使用材料の割合を「バアーセンテージ」に依り仕分けて見たが各種の家屋共殆ど一定の標準を得たので、之れが豫算上にも至便此上なく或る時は五分間豫算樣式と稱し而も十幾種類の工事別をなし大体の內譯書を作製し目の子勘定にて立案せし豫算が後日詳細圖に依り明細內譯一々單價と總締後の對照を見て殆ど相違なき迄に判斷するを得る丈に自信する處が出來た、其後時代の變遷に伴ひ方今隆盛なる鐵筋混凝土材或は木骨鐵筋「モルタル」塗等が主範を占め建築構造が具体的の發展期に入り遂に三階或は五階七階と所謂高層建築の出現するに到り平坪單價を以て評價し素人間にも充分なる了解を與へ來たるのが今や立体的建築の評價は立方尺を單位と爲すの必要あるに至つた、又各一片の材價を見るに歐洲戰亂の影響は竟に市場の形態に迄顯著なる變化を生じ、殊に或官廳を初め或種の專業者が斯の期

に乘じ恰度も獨斷的に其材料の「マーケット」を根底より崩へしめ、呼稱と材積は千差萬別の姿となり一建築も二年或は三年の長星霜を費すが如き有樣である。嗚呼獨り我建築界のみは時代の推移に背馳するの感あるではないか、寔に歎惜に禁へぬと同時に痛切に吾人の反省を乞ふものがある。

然るに予は先年斯の種の調査を試みしに或る專業者は簡單に評して『駄目です』と曰ふ。本邦市場の形態調査は其努力如何に依つて容易なるべきも之れが統一案は絶對不可能なるべしといふ、何となれば我々同業者は祖先累代より連綿として繼承せる所謂商賣慣習なるものがあるこれをしも一朝打破して一見素人の了解を易からしむるに於ては吾人が守本尊とせる商略の餘地を失ふものなりと云ふ。恁うなると商略とは虚僞的隱蔽主義に依つて收得する我利である、之れ實に言語道斷の事ではないか、尙ほ聞く處に依れば日本材木聯合協會は明治二十六七年の交より會を重ぬる事既に廿回此大會に提出する議題中木材形態統一案は大會六七回の頃より重要問題の一つに數へられて其後益々必要を認識せるにも拘らず此處數年前より其統一案は終に姿を沒し全く控除せられたるは寔に慨嘆と申すより啞然たらざるを得ないではないか、此際此の時之れを傍觀する吾等の責任を問ふの妥當なるを考へない譯には行かぬ。されど又他の半面に於て路傍傳へ聞く處に依れば歐洲戰亂の影響は平和克復後世界の交通が更に頻繁と成り我が國が共通的利便を得るの根本義は先づ度量衡殊に尺度統一の必要なるは本邦識者の等しく認定せる處なりとする。何となれば偶々一工業家が輸出を圖るとして見ると先づ三種の單位を作り漸く其需要を滿す有樣であつて、我政府とても昨春來朝野學識階級に對し之等の意見を徵取し遂に「メートル」システム採用に議決し夫れ〳〵調査中なりと聞くのである。果して然らば我建築材料調査並に「マーケット」統一の如き敢て至難の問題ではない樣であると信ずる。吾人が植民地なりと輕侮せる朝鮮及び臺灣を觀よ施政幾

歳もなき今日既に秩序整然して實績の顯著なるは敬服に禁へぬ。吾人は古き因襲を打破する勇氣もなく只都の花に醉ひ浪花踊を粋賞し五色の酒に醉眼朦朧としてあたら貴重の歳月を送迎するは考へものではあるまいかと思ふ、吾人は宜しく國家百年の長計を懐ひ緊褌一番奮勵を要すべき一大好機を獲得しなければならぬ。

惟ふに、建築材料統一の事業は前に述べた如く實に大なる而も困難を伴ふの仕事ではあるけれども、我協會夫れ自体の仕事としては、斯の位の倶体的な仕事を着々解決して行く必要がある協會本來の理想なり目的なりから云はゞ決して大なる仕事とは謂へないかもしれぬがまだ〳〵大きな事業に向つて貢献せねばならぬ故に却つて小さな仕事を忽せに出來ぬ。併し、一旦其調査に依りて確定案が成り立つたならば、云ふ迄もなく一つの成功である。そして更らに他の仕事を成就さして欲しい、何んにしても、委員會諸君も斯の望みあり効果の多い而して創始的な仕事に向つて大に力を致されたいものである。

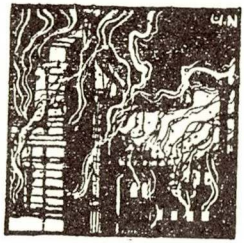
▪▪逝く春二題▪▪

殘春

花のみなちりての後は春さへに
のこる日なくもおもほゆるかな

春のはて

ひたちには田をこそつくれ行く春を
しめひきはへて誰か止むる



テームス河（中）

會員 N T 生譯

水先案内者に關する規則は一寸凡俗を驚かす程の不可思議なものである。或水先案内者は或特別の船丈にしか許されぬかと思ふと他のものは何の船へも自由に出入出來る。或者へは賃金の割下げが出來るし、又河の或部分だけ分擔して居つて他の者と交代する樣になつてゐるのがある。數年前迄は外國人の水先案内者にも證明書を與へて「テームス」河を溯ることを許されて居たが今はもう許されぬ。

私の感じた一番面白い事は呑氣にボートに乘つて成るべく下流へ出掛けるのだ、「グリーンニッチ」河岸はあんまり面白くない。それより更らに「テームス」の廣い眞中に出て見給へ、私は隨分と世界の各方面で色々の船を見た、黃海に浮ぶ支那の「ジヤンク」や紐育の波止場の忙しさや、「ナイル」河の「ダハビエー」さては「ヴエニス」の「ゴンドラ」などを見てゐるが、「グリーンニッチ」沖の「テームス」河に世界中の船の展覽會を觀るに優るものはないと思ふ。

小舟を操つて巨大な外國船に乘込んで行く冷靜な顏をしてゐる男は多分河の中を布敎してゐる宣敎師であろう、倫敦市傳道敎會は「テームス」河を忽せにして居らぬ、宣敎師連の一團は倫敦港内に集まつて來る色々の船隊を訪問に忙しい、殊に東洋方面から集まつて來る水夫には特別の注意を拂つてゐる。又或ものは「スカンヂナビヤ」の小舟に登つて其昔有名なる北人の子孫である丈の高い青い眼の舟夫に慰籍を與へつゝある。他のものは西班牙や葡萄牙の船へ出掛ける、又或ものは佛蘭西や獨逸の水夫へ其國の言葉を使つて見美に飜譯された聖書の說明に從事してゐる。

「チルアリー」の下流へ行つて見ると東洋半島會社の巨大な汽船や他の會社の東洋航路の船が極東の荷物や船客を充滿して横はつてゐるのに出會すだろう、若し畫家の御連中が觀たならば灰色の空に浮び出されたる何んともいへぬ景色に感嘆の聲を放つ事であろう。

憲色の痩せた東印度の水夫連は「アルベルト、ドツク」附近の各商船に群つてゐる。彼等の奇怪千萬な服裝で汚れた頭巾を

被り變に物凄い顔付を爲して餘分激しい仕事をやるか亦ブラ〳〵うろつき廻つて居る樣子を畫にしたら面白かろう。

世界の外國人といふ外國人には港内で手近に御目に掛かれる。又各國から集まつて來る金だの銀だの毛皮だの或は食物を一杯に積み込んだ荷物汽船の素晴らしいのがある。それから各船渠の方面を見廻ると其處には最新式の大汽船もあれば舊式の三本檣や四本檣の帆前船も居り、「スチーブンソン」時代の船もあれば御伽話に出て來る樣なのもある。

中にはみすぼらしい派手に塗り立てた船がある。格子の勾欄を付けて草花の鉢などを陳べてあるかと思ふと煙突も立て居る。艀が其廻りに群かりねるこれは「プール」附近に有名な『船の家』である。「テームス」を知らない市民に斯の船の家を御紹介したい。大きな四角型の白ペンキで塗り立てた船からは時々「ピアノ」の演奏も漏れることがある、甲板には美しい婦の現はれる時もある、若い男が「フランネル」の「ズボン」を穿いて縞の上衣を着て遊んで居ることもある。「プール」より下流へ行くと從つて此『船の家』は稍下等になつて裝飾も少なく「ピアノ」の合奏も聞かない。此等の船は其名の如く船を住居にして居る連中の持物であるが夏季休暇中だけ避暑旁々やつて見る御連中と異つて一年中いや幾年も已が家として棲んで居るのである。彼等は多く艀の持主で其賣買をやつて居る、彼等は其家族と樂しく其日を送つてゐる、子供は船の家に生れて育てられる、從つて彼等は船の隅々迄もうまく利用して居るのみならず「ボート」を操ることも手足の樣である、簡單にいへば彼等は如何にも氣持よく亦樂しく暮して居るのだ。彼等は要するに「テームス」河の住民である、平常は「ペンキ」塗の家も夏になると彼等は草花の鉢を並べて裝飾をする、彼等は大低船舶航路でない處に碇舶して倫敦港務部からは見張店として許可を受けて居る、主人の仕事は大低見張番の任務に從事して居て注文主から命ぜらるゝまゝに荷物の上下に眼をくばり河盜人の害を防ぐのである、彼は合ひ間合ひ間に妻の買物や又子供達の學校通ひの送り迎ひをやつて居る。

それから一本檣の妙な格好をした巾の廣い丈夫に見える中形の船がある、これは和蘭の鰻捕ひ船（アールスクープ）である。彼等は大低「テームス」の右岸に碇舶して居る彼等は餘程以前から此處へ來て貰つて居る外國船である。女皇「ベス」御在世の時代前後から今日迄永年の御出入である、そしていつも「ビリングスゲート」市場の近くにきつと碇舶する事になつてゐる。「エリサベス」女皇は色々御好愛の物が多かつたが和蘭の鰻は殊の外御好物であつたために和蘭人が倫敦へ持つて來ることを特許せられたと傳へられてゐる、彼等の言ふ所によれば其碇泊して居る位置は次の船の來る迄は動かぬ事になつてゐるそうである。

和蘭人は清潔でキチンとしてゐる、彼等の衣服は却々美事だ鼠と黒とで絲取りさしたシャツを稍ゆつくりした下服を穿け、手製の靴下と一寸意匠を凝らした木製底の靴を穿けてゐる、其靴は「クロッケ」と呼ばれて居るが「スリッパー」より輕く靴下を破らないで却々よく出來てゐる、私も穿いて見たが穿き心地もよい。彼等は市場へ出入して其附近へ品物を賣り込む、例の「クロッケ」や「プラッシ」などは彼等の友人が野良の仕事のない冬

の間に造るものだそうだ、其の外和蘭製の「チーズ」や賣れ行のよい麻藥や、「ビリングスゲート」で有名な「オランダドロップ」などは彼等の持込む品物だ、彼等はおとなしい國民で殆んど市場で間違を起した事がない、唯一の事件といふのは南阿戰爭の時分に「ビリングスゲート」の人夫連が悪戯半分船へ乘り込んで行つてあの一本橋へ釘付けにされた位なものだ。

「ビリングスゲート」で思ひ出した。倫敦と「テームス」河の物語では此處を逸する譯にはゆかぬ、さうだ未だに忘れることの出來ぬ程子供の時分の記憶が殘つてゐる。

「ビリングスゲート」の特産物は何？

と聞かれたら、直ぐに

『言葉です』

と答へたものだ。實際言葉の中でも一番物凄い言葉はきつと此處から生れてゐる、私も此處を夜中通つた事もあり日中も通つた事があるが『スバラシイ亂暴な言葉』を聞かずに歸つた事は一度もない位である。

人夫連は千三百人から斯の市場に働いてゐるが彼等の言葉は丁度「フインスブリー」公園や「ブロンプトン」附近の言葉とよく比較される。私は曾て「クロード・ロウザー」氏が下院で「ロイド・ジヨウヂ」氏を指して『ビリングスゲートの第一人者』と呼んだことを聞いてゐる。私の友人のある魚市人夫に此話をしたら怒つて居たつけ。

「ビリングスゲート」の人夫衆は一寸變つた風をしてゐる。彼等は任務中の正服を着け重い深靴を穿ちズボンは膝頭迄卷り上げ丈夫なリンネンの脚胖をかぶせてゐるが、革帽は中折れにし厚一寸の綠を取り頭の上魚入の箱の水がこぼれぬ樣に出來てゐる。彼等の靴の底は厚く帽子の底も厚い、何となれば彼等の頭の上に魚の箱（重さ三十四五貫のもの）を載せるからである。

鑑札を持つてゐる人夫連の外に約百人からの人夫で成り立つてゐる「密柑運搬組合」と名付られた連中がある、此彼等は別に事務所があつて運搬を請負つてゐるがあんまり仕事がない、彼等は市場の中では仕事をすることが出來ないのでB號の市場の外で働いてゐる。主に荷物船から「テームス」通の下町へ魚の箱を運搬するのだ。彼等はB市場の人夫の樣な姿をしてゐるが革帽は一寸小形で大きな「ノット」といふ盤臺を頭と肩とに載せて力を振り分けてゐる。此等の人夫の外に忙がしい場合の臨時人足が居る、彼等は一種の「立ん坊」であるが、「石の上」と呼んで居る、一番下等の仕事をする「尻つ尾」と呼ばれてゐる、社會的地位から見ても一番「どん底」に相違ないのだが、面白い事にはこんな連中でも自から品位を考へて居るではないか、又「手傳」といふのと「推出し」といふのがある、前者は注文主の手車を動かして居るが、「推出し」連に意張りちらしてゐる「推出し」連の仕事といふのは「テームス」下通から阪を登るに他の手傳をしてゐる一である。



時報



貴衆両院を通過せる二大法案

選擧法改正案の衆議院に提出せらるゝや、在野黨の反對漸く猛烈となり、又國民の普通選擧論勃興し、政府當局者の憂慮する處となりしが爲か、我等の期待せる「都市計畫法案」及「市街地建築物法案」の二大法案は二月中には提出せざれざりしが三月中旬に入りて提出せられ、次いで二十五名の委員に附托せられ去る三月十五日衆議院本會議に於て遂に政府原案通り無事通過し、直ちに貴族院に回附せられぬ。斯くて右二大法案は貴族院も無事通過して茲に確定案は成れり以下其質疑應答の經過を茲に採錄して他日の參考に資せんとす

衆議院に於ける討議

件の二大法案は、去る三月八日を以て衆議院に提出され、當日の日程に登されたるが、其議事に入るや

國務大臣(床次内相)登壇して『近時都市の膨脹は著しき現象にして、東京市及大阪市は勿論、其他の大都市に於ても、市の區域内外に亘つて膨脹發展の勢は顯著なる事實なり、之に對して相當なる都市計畫を樹つることは何れの都市に於ても要望され居る處なり、現行法では土木又は衛生に關する工事の設計を定むる途は開けあるも、住居、商業、業業等の地域を設定することに就ては何等の規定無し、仍て、大體今日の市區改正條例を骨子として踏襲せり、次て、此の市街地建築物法案は、都市計畫法案と相俟つて初めて都市計畫の實を擧げ得るなり、市區政正條例を發布せらるゝの際に方りても、政府當局は、同時に建築に關する制度をも樹て度き希望を有せしが、漸次規模の宏大なる建築物の生ぜる今日に方りては、單に斷片的なる地方警察令に據り取締規則のみを以て十分ならず、故に斯の法案を設定し、都市計畫法案と相俟つて都市改良事業の便利を圖らむとするなり』

との趣旨の說明を爲し

高木益太郎君『本案に就て、第一に、改善すべき都市は勅令を以て定むること

ゝなりあるが、内務大臣の考にては何れの都市を指し、就中一番早く着手さるべきは何れの都市なるや、第二に、此の法律の適用に依つて爲すべき改良工事は、大凡何億圓掛る計畫なるや、第三には、工事完成期間の見込奈何、第四には、財源は何れに採るの考なるや第五に、勞働者の建物を國家として經營するが如き社會政策の考なきや、第六に、借地人借家人の保護計畫は奈何、第七に、都市計畫委員會の組織は奈何なる風に取り極むる考なるや』

との質問を爲し、之に對して、

國務大臣(床次竹二郎君)『勅令を以て指定する市なるものは、斯の法案の第二十七條で御承知ありたし、次いで、都市計畫に關する豫算に就ては、先づ東京市ならば、現在東京市は市區改正條例に依つて市區改正を爲しつゝあるが、今日よりもより以上な便利なる途を開き度き事に承知被下度し、財源に就ては、現行市區改正條例に別段變更を加へ居らず、自分としても新なる考を有し居らず、何れ各都市に於て、都市計畫委員會が組織さるべきに付、之等の委員にて充分審議を盡さるゝ積りなり、勞働者の家屋問題、其他の事に就きては自分も至極同感なり、何れ追々夫れ等の問題に就て調査すべく考へ居るなり、委員會の組織も、專ら現在東京市區委員會と相異ならざる組織を爲す積りなり』

との答辯を爲し、大岡議長は、兩案の審査を附託すべき委員の選擧を議題と成し岩崎勳君の動議に依り、議長指名の委員二十七名に附託することゝなりて本日程を了る。

次で三月十一日初めて其委員會を開けるが、小山松壽氏

(一)大都市は軍事上の見地よりも中心地帶を成し軍用道路、軍用諸建築物其他該都市法案と密接の關係あるべしと信ずるが陸軍當局の所見奈何(二)東京市に於ける陸軍省所管のみにても約百萬坪に達せり、之等は東京市に無償にて下附し、國庫補助の一端となすべき意思ありや

との質問を爲し、之に對して、

由梨陸軍次官　陸軍當局も本案に贊成したるを以て速に本案の通過せんことを希望す御質問の陸軍所管の不用土地は隨時處分を終り居るを以て目下は三河臺町に若干の不用土地あるのみ之等は東京市に無償下附を爲さん

更に小山氏の質問に對し

山梨陸軍次官　名古屋市に於ては練兵場の外陸軍所管の土地無し而して各地に兵營を設くるは多くは競爭の結果設立せられ、其當時は淋しき土地なるにも拘はらず兵營の出來たる後市街繁榮し邪魔物視せらるゝに至る、兵營の移轉料並に敷地を自治體にて提供せらるれば衛戍勤務に甚しき差支なき限り陸軍當局としては市街地に頑張る次第にあらず

池田都市計畫課長　小山君の要求せられたる六大都市の不用土地は出來得るだけ調査せんも目下の處十分なる調査なきは遺憾なり

勝山委員　都市計畫の内容は交通、衛生保安、經濟の四点以外に亘らざるが第十條の風紀に關する点並に建築物法の

美觀地區に關する点に就て質問す

池田課長　第一條に於ては交通衞生保安經濟の四点の下に等を入れ之等に入らざる問題を包含せしめんとす即ち風紀問題の如きも此中に在り

横山氏　瓦斯會社其他大建築物附近の煤煙竝に震動問題は都市生活に於て重大問題なるが當局は奈何なる方針を採らんとするか

池田課長　第十條の規定に依り都市計畫區域内に於て市街地建築物法の地區又は地區の指定變更又は廢止を爲すときは都市計畫の施設として之を爲さんとす六大都市に於ける具体法案は各都市に適應する計畫委員會の審議を俟つて其整理發展を圖らむ

横山氏は更に都市架空線問題、墓地問題に就て質問し

池田課長　架空線問題に就ては一の私案を有し計畫委員會に諮らむとす又墓地問題も審議中にて適當な機關を通じて何とか決定すべし

當日は是にて一先づ質問を打切り更に再開することゝして閉會

更に三月十二日午前九時半より委員會を開き前日に引續き質問を續行せり

小山松壽氏　近年都市は各種の方面に於て發達し來れるを以て國家も適當なる指導を爲さんとして兩法案を提出せられたるものと思惟するも、國家は計畫法に於て國庫補助を爲すの意ありや、過日來藏相の答辯は要領を得ざりしを以て改めて内相に質問せん、都市計畫委員は地方自治体の重要なる業務を執行するものなるが從來の如く該委員會を知事の推薦に依らず市會にて選擧する事とし立憲的態度に出づる考なきが床次内相　國庫補助に關しては種々考慮したるが條文を設くる必要なからんとて本法には削除したり、即ち草案中には特別會計の設置公債の募集等規定し居たるも之なくとも必要なれば國庫は補助し得る次第なるを以て明記することを避けたり。故に當局に信賴して會期も切迫し居れば別段修正意見等は持出さゞる樣希望す。又第二問の委員を市會にて選擧するの件は大体同感なれば、之は勅令にて規定する所あるべし

小山氏　舊市街を整理するの意なりや。又は新市街を設定するの積なるや、舊市街條例建物處分規則は如何にせんとするや。

内相　第一問は土地の事情にもよれど舊市街を本とし整理改善を計るものとす但し近時都市の發達を見るに區域外に亘り接續して發達し居るを以て之に舊市街を包含し大計畫を樹てん、第二問舊市街條例又は建物處分規則に就ては他の政府委員の説明に讓らん。

小山氏　(一)市街道路法電氣事業法に對しては如何なる方針を執るべきか、(二)獨占會社との間にある報償契約に對する大体の方針如何。(三)都市計畫と利益者との關係如何。(四)鐵道運河(水利)新設に關しては如何なる方針によるか。(五)耕地整理に對する地價標準如何。

内相　(一)道路の大体の方針は委員會の設計に依り、又電氣事業の法規は道路法第六十三條に據る。(二)報償契約に對しては大体今日までの慣例に依るを至當と信ず。(三)市内の交通機關の動

力と道路との關係に對しては御質問の如く文化の進歩に從ひ次第に交通機關現はれ道路に取りては迷惑なれども此文明機を利用せざる能はざるを以て之に應じて道路の改善をなす必要あり、將來六大都市に對しては改善策を講ずべし。(四)停車場新設は都市計畫法に從ふへし、名古屋停車場は大擴張をやる考なるが高架式には據らず、(五)運河に對してはさる場合あらば重大なる都市計畫事業なれば十分考慮せん。(六)第十五條の地價の定め方は腹案を有し居れり。(とて案文を朗讀す)

小山氏　(一)中產階級以下の住宅問題は都市計畫上重要なるが社會政策上如何なる方針を採るか、(二)保安警察法より見て娛樂機關地區を如何に設定するか、(三)風紀問題に關し遊廓地區は今日の如く密娼制を採るか散娼制を採るか又藝妓地區に對しては如何。

內相　(一)小さな家屋の住宅は社會政策上考慮せざるべからず、是等には會社起りて解決し、又市に於て計畫を樹つることもあるべし、かゝる計畫に對しては今回の法案は便宜ならん、(二)風紀娛樂に關しては其地域を設定するには都市計畫委員會にて十分論議さるべきものとす、此の計畫法通過したりとて甚しく事務の迷惑となるが如きは當局として考慮すべき事なるを以て遊廓地區藝妓地區には何とか計畫を樹つべきも目下確定案なし。

かくて床次內相は貴族院委員會に出席せしを以て池田都市計畫課長內相に代りて說明する所あり。

小山氏　墓地問題に就き市外埋葬に關しては當局の見る所如何。

池田課長　斯の問題は極めて重大なれば委員會の審査を俟たん、東京市にては明治二十二年に整理せられたる市內墓地にて都市計畫實施上差支あるものは移轉料を補足して市外に移轉せしむる方針を執り居れり。

時に委員長小山溫氏より委員長田桃藏氏辭任に就き三輪市太郎氏を補充したる旨報告あり。

橫山勝二郎氏　建築物法第一條中何故行政區域を除きたるか、

池田課長　各種の行政廳を一區域內に集むるは便利なるも今日まで發達し來れる都市に行政官廳區域を設くるは困難なりと思惟したればなり。但し將來に於て各行政廳の了解により行政區域に設定さるゝ事を當局としても希望し居れり。

橫山氏　將來の事を慮り原則として行政區域を法規第一條中に規定するを可ならずや。

と質せしも池田課長は自然の推移に委せんと答へたり。

橫山氏は更に當局の計畫委員會萬能主義を難詰したるも課長は各都市の事情により之に精通する委員の審議に俟つて改善するを適當なりと信ずる旨を陳述せり。

橫山氏　地上の道路の不完全を訴ふ前に地下行政を改革するの必要ありと信ずるが如何。

池田課長　地下行政の計畫に就ては道路法の第二十八條第二十四項により解決せんとす完全なる地下行政は委員會の審議に俟つべきものと信ずるが目下當

局に於ても一の私案を有せり、而して其取締法規は本法案と別箇に規定するの要あるべし。

横山氏　本案通過せば凡そ何時頃より實施せんとするか。

池田課長　幸ひにして兩院の協賛を得ば成るべく速に勅令又は命令に依つて實施せん。

横山氏　建築物法案第十三條の火災防禦に關する規定は借地法案の通過を見るにあらざれば運用の全きを期し難し、然るに借地法案は衆議院を通過したるも貴族院にて握り潰しとなり居れり、政府は此の基礎とも謂ふべき借地法案の不通過を等閑視するは何故ぞ。

池田課長　借地法案の運命は與り知らざるも其の問題と關係なく市民の便益を圖らんが爲め本案の通過を希望す。

其他二三の問答ありて正午休憩

午後一時十五分再會

小山氏　(一)計畫法第八條に於て費用に充つるため特別稅を賦課するを得と規定しあり其他官有地無償下附並に國有河岸地の利用に關する當局の方針如何

(二)戰時利得稅を都市の社會政策を實行する財源の一とする意思なきか。

内相　(一)風紀取締の地區に關しては第十條第二項に規定し居れり必要あらば計畫委員會の審議に讓らん、第八條の費用に充つる爲の特別稅は只今の處本案に列記せる以外何等の考慮なし、國有河岸地の利用は出來得る限り盡力すべし。(二)戰時利得稅を都市計畫の財源に充つべしとは考へ居らず是等は將來の問題なり。

横田孝史氏　(一)膨脹しつゝある都市接續町村を新市街として計畫を樹てんとすれば多大の經費を要する次第なるが第八條の如く地方稅の增收のみにては不十分なり、政府は財源を法文中に何故記載することを避けられたか、(二)計畫委員の組織權限を何故明記せざるか、(三)中央委員會は極めて重要なる係を持つことなれば貴衆兩院議員を加ふるの意思なきか、(四)委員中市會議員以外横濱神戸の例に倣ひ市民側よりも委員を出す意思なきか、

内相　(一)計畫に市民の教育を度視する能はざるも特に法文に明記するの必要なかるべし、(二)國庫補助に關しては必ず補助するとせば明記の要あれども補助の法文なくとも實際上相當の補助をなせば可なるべし、當局大臣は斯點に大に盡力せん、午前中にも答へたる如く財源は重要に就き何れ特別會計を設定するの要あるべく、又河岸地の利用に就ても成るべく便宜を與へ事業の完成を助けたし。(三)委員の組織は從來の分は總て内務省に一任し更らに東京に中央委員會を設くる積りなり。而して地方委員會にては市會議員も入るべし又郡村との關係もあり郡村會議員も加はるの要あるべし、中央委員會には兩院議員中若干名を加ふべきも必ず何人かを加ふべしとは思惟せず

横田氏　更に委員の權限を明記しては如何と注意し(一)都市建物處分規則は昨年の委員會にても問題となりたるが何故之を削除したるや、(二)内閣の認可とせる理由如何、

内相　委員の選任に就ては同感なり、内閣の認可を經る事とせるは該問題が極めて重大なるを以てなり

横田氏　補償を爲すを得るの爲すべしと改めたし、若し内相去られたる後は此財源不安心ならずや（と述べ尚街路の整理につき質す所あり）

内相　財源は時の主務大臣に依頼されたし一定の額を補助すべしと云ふは今日の處困難なる事情あり街路整理は必要の事にして法文中に掲げ居らざれども本案通過せば計畫の際十分考慮を運らさん。

高木正年（本案を六大都市に適用せんとする基礎的考案につき質したる後）東京市の例を取りて一言せんに風水害より延いて起る衛生問題は之を如何にせんとするか又工業發達の爲め住民の住宅問題を如何に解決せんとするか。

内相　東京市に於ては東京にて調査し、他の五大都市には各都市の事情に應じ委員審査に一任す、故に各都市の計畫に關する具体案なし

高木氏更に委員會委托論を難詰し、重れて委員會の權限を明記せりと迫り、内相は前言を繰返して之に答辯す。

高木益太郎氏　關係市町村の意見を聽くは單に第二條の都市計畫區域のみならず、第三條の都市計畫事業及毎年實行すべき都市計畫事業に對しても適用しては如何、

内相　高木君の質問の趣旨に就て同感なり故に第二條に於ては關係市町村の意見を聽く事とせり、之を第三條にも適用せりと言はゝ委員會の組織如何に依りて解決せらるべし、是予が從來の如く内務省に委員を集めず、地方の事情に精通する委員を選出して之を念の爲め中央委員會の手に移し審査せしめんとす、地方委員會は市會に一任しても可なる位なれば特殊の學術經驗技能を必要とするが故に市會と切離して委員會を設けんとする次第なり。

高木氏　東京市の官有地は現に八百六十五萬坪に達し居れるが無用の官有地を代地と爲すの意思あるか（尚其他二三の點に就き質問せり）

内相　代地の處分即ち官有　地と有地と代ふることは本案に無くとも現行法にて解決し得べし、若し必要あらば第十六條第二十一條にて處理することを得ん、瓦斯電氣等公共事業の監督を缺きあるが是等は市にて監督すると同時に市區改正委員會にも之に應ずる施設を設けあり、又市の兒童に對し一定の時間を限り自由に開放せしむるの途は外國に於ても例のある事にて尤もの事なりと信ずるが市の行政家の盡力を願ひたし。

三輪市太郎氏　鐵道の停車場と都市計畫法との關係如何、又市營と市營電車との關係如何

内相　所謂六大都市は勿論他の都市にても新に停車場を設立する場合は市の意見を聽く事とせり、又市營電車等の問題は都市計畫と關係なく該都市の自治體にて處理すべきもの也。

川崎安之助氏　（美觀地區並に監獄移轉に關して内相と二三の問答を重ねたる後）京都驛は將來高架線に爲すの意思ありや。

内相　京都停車場に關して只今詳しく知

らざれども將來は高架線と爲し又は改善する事もあるべし、但茲に責任を以て答辯する限りにあらず。

川崎氏　財源中所得稅を除きたる理由如何、

池田課長　大体市區改正條例を踏襲したるを以てなり、

磯貝浩氏　本案の如きは經營に最も密接なる關係あり、床次內相の計畫費用は國庫が補助するを當然と考へらるゝが如きも其の答辯要領を得ず、願くは國庫にて相當の補助を爲す事に決せられたし。

內相　水道の補助築港の補助等は何等の規定なきも實際補助を與へ居れり、斯問題も夫れと同樣にて別段規定を設くる必要なしと言ふのみ

斯くて午後四時散會せり。次いで三月十三日午前十時半開會、速記を止めて懇談に入り

小山氏　內相も國庫補助に就て同感なりとの說明を得たれば予は「內務大臣の指定する都市計畫に對しては國庫は一定の補助を爲す事を得」との一箇條を加へんことを提案す、政府は之に同意するや否や、

池田都市計畫課長　國庫補助に關しては立案當時條文をも考慮したる位なれども實質上法文なくとも必要あらば補助すべきを以て強いて新箇條を提出せられざる樣、希望するが故に補助することを得との明文あるも實際には運用上之なきと同一結果に陷るを以て右提案には遺憾ながら贊成すること能はず

床次內相は上下水道實行等に就ては實質上補助し居れば速かに本案を通過する意味に於て原案通りに通過を願ひたしと懇談的に答辯す。

鳩山一郎氏　第九條に國有河岸地にして公共の用に供せざるものは公共團体に之を下附することを得とあるに對し更に又「不用に歸し得べき土地をも公共團体に下附することを得」としては如何、

內相　勅令により御質問の要旨に副ひ得るものと信ず、

これより速記を用ひ質問に入り。

櫻井兵五郎氏　都市計畫を六大都市に限りたる理由如何、

內相　取り敢へず六大都市に限りたるは第二十九條により明かにて他の都市にも必要あらば適用せん、現に建築物法の中には他の都市にも適用すべき箇條あり。

櫻井氏次いで中央委員會の權限其他に關し**池田課長**と問答を重ね、**鳩山氏**も第九條の如き舊法を此際一新して國有河岸地のみならず不用官有地一般に擴張しては如何と質し**池田課長**の答辯あり、かくて本案に對する大体の質問を終了したるを以て二三內相に對する質問を保留し十五日午前一時討議に入ることに決し十一時散會せり。

衆議院本會議

以上の如く委員會に於て可決せる都市計畫法案は十五日の衆議院本會議に於て、委員長**小山溫氏**より其審査の結果を報告し之に對して**小山松壽氏**少數意見として本両法案の提出は我等の大に贊同する處なるが六大都市は我國人口の一割を占め居れり、而して斯の都市の改善を

必要とすると共に、其隣接地の整理を爲すは最も肝要にして斯の整理を爲すには莫大なる費用を要す、又衛生、交通、治安、經濟上の見地より市街地を工場商業居住地等地區の限定も亦當然起る問題なり然るに本案中には費用支出の點に就ての規定全からず委員會に於ける大藏大臣の答辯頗る不得要領冷淡にして內務大臣の愼重の努力に拘らず斯の財源に付國庫補助の明文を缺くときは本案は骨拔の死案となるべし故に國庫補助法と官有地下附の明文を本文中に挿入せんとするものなりと述べ規定の修正說贊成者あり採決の結果修正案は贊成少數にて否決兩案とも委員長報告通り可決確定せり

貴族院に於ける討議

斯くて、衆議院より廻附されたる件の兩法案は三月十七日貴族院の日程に登り、國務大臣(床次內相)は、前揭衆議院に於ける說明と略同樣なる說明を爲し、之に對して

山脇玄氏　我國の帝都たる東京の道路の狀態は、或る外國人の評に依れば、降雨のとき水田の如く成り晴天續かば砂塵にて咫尺を辨ぜずといふ有樣なり東京市といふものを皇居を心中心とし狹い區畫にして帝都に恥ざる眞の道路を造るとの話を往々聞けり內務大臣は斯の邊の事に就て奈何なる考を有せらるゝや

床次內相　自分に於ても全く同感なり、市當局は勿論一般に於ても將來個等かの考慮を要すべきものと考へつゝあり併し乍ら、都市の計畫を爲すに就ては全く舊市街地を眼中に置かずして勝手に新なる計畫を爲すことは餘程考慮を要することゝ考ふ、自分は、不便なりとも現在の市區は之を其儘と爲して大體の計畫を爲した方が宜しからむと考ふ尤も斯の點に就きては何れ設置せらるべき都市計畫委員即ち地方の事情に最も通じたる人々に於て十分審議を爲さば相當なる考が付くことゝ思ふ

石黑男爵　斯の兩案は重要案なるが故に十五名の委員に附託されむことを希望す

右動議に對して贊成者あり、茲に於て議長は採決の結果委員附託に決し、議長は書記官をして左記特別委員の氏名を朗讀せしむ

都市計畫法案外一件特別委員

伯爵松木　宗隆君　子爵榎本　武憲君
男爵山中　信儀君　古市　公威君
內田　嘉吉君　男爵阪谷　芳郎君
水野錬太郎君　男爵斯波忠三郎君
男爵辻　太郎君　加太　邦憲君
福永吉之助君　菅原　通敬君
市來　乙彦君　永田秀次郎君
安田善三郎君

貴族院第一回委員會

斯くて、貴族院は三月十九日第一回委員會を開き、其提案に就て內務大臣說明を了るや、委員と理事者との間に左の質問應答あり。

阪谷男爵　第一條に依り市の區域外に亘りて都市計畫事業を執行するときは隣接都町村に編入する場合に關し其遂行

を容易ならしむる途を開きたりや

床次內相　本法は昨年の改正案と同じく町村の編入を爲さずして都市計畫事業の實行を期することゝせり

阪谷男爵　從來の市區改正事業執行に關し直接其任に當る官公吏は往々非常識なること多し斯の点に關する政府の所見奈何

床次內相　本事業は委員を設置し地方の事情に精通せる者をして地方の事業に應ずる樣にして執行せしむるを以て非常識に陷るが如き虞なかるべし又局に當る官公吏の行動に就ては監督上充分留意すべし

阪谷男爵　本法施行に就ての經費は向三年間に凡そ幾何の負擔を爲さしめむとする豫定なりや、本法施行の爲移轉立退に困難する者に對するの措置奈何

床次內相　都市計畫委員會に於て地方の力に應じて適當なる實際の計畫を立てしむるが故に急激に負擔を增加するが如きことなかるべし又土地收用の点に就ては特に收用法に據ることゝし又沿道に離るゝ者に對しても建築地帶の收用及其處分に關する規定抔も置きて大分都合よくなれり

菅原通敬氏　郡名又は番地の變更に就て考慮せしや

小橋次官　別段の方法にて考ふることゝせり

菅原氏　土地增加稅の如きは本事業の如きもの對して最も適當なりと信ず政府の所見奈何

小橋次官　政府も固か信ず併し乍ら第八條第四號にて措置することを得べし

古市公威氏　本法案に據れば大體土地收用法に據るとの事なるも斯くては現行土地建物處分規則に比べ實行上遲滯を來す虞なきや

內務大臣　從來の制にては土地の代金及建物の移轉料を支拂ふも收用に依り通常生ずべき損失の補償を認めざるが如き或は土地の所有權に對する補償は認むるも其他物權に及ばざるかの疑ひある等今日の法律思想に適せざるものあり又賠償價格の決定に對しても批難ありしに依り時代の趨勢に鑑み本案の如くするを以て妥當なるものと信ず

阪谷男爵　從來の市區改正は人民側に義務を負はしむるのみにて政府自身の事業は勝手に致して居るも今回の法案にては政府の事業亦命令的に強制し得るや

小橋次官　政府の事業に就きては電柱の建設等に關し道路法にても相當の解決を試みたり本法に依る計畫委員會に各省の關係者も網羅し各省の諒解を以て進むものなれば實際上に於ても支障を生ずることなかるべく又委員會に對しては勅令にて主管事項に付各省大臣にも建議し得るの途も開くべきに依り適當なる運用を爲し得ることゝ信ず

福永吉之助氏　本法案立案に方り陸海軍國防上の見地より講究せられたることありや殊に歐洲大戰に鑑み航空機の都市襲撃に對しては憂慮に禁へざるものあり之に對する政府の所見奈何

小林次官　本法案立案に際しては陸海軍當局の意見をも聽取し又原案を立案せる都市計畫調査會にも陸海軍代表者を加入し相應の注意を拂ひたり又航空機襲撃に備ふる爲工作物の構造に關する

規定をも具へ特に市内の主要なる地區の建築物等に關しても考慮せり

古市氏　本法案と市區改正條例の異る重要な點及急速に本法を施行するの必要を承知したし

小橋次官　第一都市計畫區域の決定に就き關係市町村及都市計畫委員の意見を徵することにしたること第二は市街地建築物法案に認むる地域及地區其他の地區に關する規定を設けたること第三は土地區劃の整理につき耕地整理法を準用したること第四は土地の收用につき收用法を適用したること第五は建築地帶の收用を認めたること第六は家屋の收用を認めたることを主要の點とし其他行政救濟に關する途を備へたり本法を速に施行するの必要あるは各都市に於て市の內外に於ける急激な發展に對應する爲夫れ夫れ計畫に關する調査を遂げ、孰も非常に進捗せるあり又建築物としても工場住宅は年々非常なる數を以て增加する勢にて夫れが住居地と謂はず商業地と謂はず亂雜に混入する有樣にして都市の保安、衛生、經濟の爲捨て置けぬ關係に在るが爲なり是にて一先づ質問を打ち切りて各條の審議に入り爾來二回の委員會を重ね三月二十四日午前十一時更に兩法案の討議に入り

古市氏　兩案共に賛成なり都市計畫法案は大體に於て現行市區改正條例を襲用し尙計畫實行上必要なる新事項を添加せるものにして勿論異議なし市街地建築物法案に關して近時一般都市建築物及工場新設の激增に鑑るも之れ亦目下の急務なりと信ず依つて原案の儘可決されむことを希望す尙兩法施行上に關しては當局に信賴するものなるも市民の負擔に對しては成るべく無理の生ぜぬ樣注意せられたし

菅原氏　兩法案共に賛成なり但し財源に就いて法文明記のもののみにては徹底的計畫の實行に不足なること明白なるを以て斯の点に關し適當なる考慮を廻らし計畫の餘りに遷延せざることを希望す尙第十五條に關しては「地租條例に依り地價の修正を要する場合に限り修正することに勅令を以て定むること」の希望を有するが故に斯の点を本會議に報告されたし

內田氏　兩案共に賛成なり左の希望を有す

一、兩法案實行の財源に就きては政府に於て直接國庫の補助又は其他間接の補助に盡力ありたし

二、本法施行に方り出願に對する許否決定の遲延又は調査の緩漫等に因りて人民に經濟上の損失を與へざるより事務の敏活を期せられ度し

三、本法は先づ六大都市に行ふ豫定なるも他の都市と雖も必要なるものは等閑に付することなき樣になしたし或は直ちに兩法案施行に困難を來す事情あらば地方行政廳等に訓令を發し本法案の主旨を熟知せしめ他日の施行に困難を來さざるだけの用意を怠らざらんことを希望す

小橋次官　全部委員諸君の御希望に同感なるを以て主旨に副はんことを期すべし

池田政府委員　事務の進捗に關しては最も注意を要す當局も亦之に注意を怠ら

さるべし例へば建築物法案に依る工事の取締に關する如きは規模宏大なるが特に必要なる建築物等には出願の手續を要するも普通輕微なるものは届出等に止め其他凡て簡捷を期すべし

松本委員長　両法案を一括し原案可決に異議なきや

滿場異議無し本委員會は茲に原案通り可決せり。

貴族院本會議

斯くして貴族院の特別委員會に於て可決したる右両法案は、三月二十六日全院本會議の日程に上り、伯爵松木宗隆君其委員長として委員會に於ける可決の事を報告し、第二讀會及第三讀會共何等異議なく終に衆議院の決議通り原案を可決し茲に、我都市法として又建築法として新紀元を劃すべき両大法案は、芽出度第四十一議會を通過せり。

◆結核豫防法案

結核豫防法案は、曩に、政府より第四十一議會に出されしが、遂に議會を通過して確定案と成れり。されば、遠からず法律として發布さるゝことならむが、其此處に至る經過に就ては、特記を要すべきもの鮮からざると同時に、事、建築に交渉を有せること亦頗る緊密なるものあるが故に左に其經過の概要を誌すこと、せり。

▲私案討議　其經過を誌すに方りて、先づ逸すべからざるは、實に、日本結核豫防協會の功績なりとす。仝會は、大正四年三月第二回結核豫防聯合大會を大阪の地に開かるゝに方り、結核豫防起草案を提出して討議に附し、終に遠山椿吉、小河滋次郎、林止、行德健男、馬杉則知。山崎堅次郎、東海林眞策の七氏を委員に擧げて其審査を託附し、斯くて、其結果仝案を法律案たらしむべく議會に提案建議のことに決定せり、維れ、實に、帝國議會外に於て、絡核豫防法の具體的に審議されたる嚆矢なりとす。

而して後、大正五年五月第三回結核豫防聯合會を開催さるゝに方り、該案に對して多少の修正を加へ、日本結核豫防協會は斯案の方針に基きて政府に交渉を試みたる結果、政府は漸く其法案を來るべき議會に提出せむとの意嚮を示すに至りき、蓋し、一道の曙光斯法の制定に向つて漸く鬱鬱たるを見る。

▲遂に法案出づ　爾來、政府に於ても、結核豫防法制定の吃緊事なることに留意し、保健調査會の設立を機として、愈々該法案を議會に提出すべく完全なる草案の作成を爲すことに決し、着々調査攻究を遂げたるが、遂に、第四十一議會に提案され、愈々去る二月二十七日を以て議事日程に上り、提案理由に就きて、床次内相の詳細なる説明ありし後、第一讀會を開けり。

▲委員附託　斯くて、終に、議長指名の委員拾八名に附託審査することに決し、議長は左の諸氏を委員に指名し、其後委員は、委員長、理事の互選を爲して委員會の組織成れり。

委員長　金杉英五郎

理事　中村　靜輿　行德　健男

齋藤　紀一

委員　八木　逵郎　清水市太郎

成田　榮信　丸山嵯峰一郎

伊藤　重　井島　義雄
土屋清三郎　横山勝太郎
磯貝　浩　上村　耕作
片木政次郎　長島律太郎
高木益太郎　山根　正次

斯くて、委員會は二日に亘り審議を盡し、終に滿場一致を以て原案を可決せり

▲衆議院通過　越へて三月五日、委員長より本會議に右審査の報告あり、即ち斯案に對する第二讀會に入り、本會議は終に其審査報告を是認して原案通り可決し次で該法案は貴族院に回附されたりき。

▲遂に確定案と成る　衆議院より該法案の回附を受けたる貴族院は。斯案の議事日程に上るや、亦等しく、議長の指名に係る八名の委員に附託、審査することゝ成り、議長は、左記の諸氏を其委員に指名し、委員は委員長を互選して左の如く委員會の組織成れり。

委員長　堤　雄　長
委　員　来倉　昌達　高木　兼寛
北里柴三郎　江木　千之
岩佐　新　永田秀次郎
大森慶次郎

而して、委員會は、爾來審議を重ねし結果、法案第三條第七條但書及第二項第三項を削除するの修正意見を附して、三月十五日に於ける本會議に議長よりの報告あり、貴族院は、該修正案を是認して其報告通り可決し、茲に、我公衆衛生施設上の一新レコードたる『結核豫防法』案の確定を看るに至りき。蓋し、我建築衛生史上に於ても亦顯る重要にして留意すべき出來事と謂ふ可し。されば今、其正文を左に揭載して讀者の一粲に供せむ。

結核豫防法案

第一條　本法ニ於テ結核ト稱スルハ肺結核又ハ喉頭結核ニシテ病毒傳播ノ危險アルモノヲ謂フ

第二條　醫師結核患者ヲ診斷シ又ハ其死體ヲ檢案シタルトキハ患者ノ場合ニ在リテハ患者又ハ其居住ノ場所ノ管理ヲ爲ス者若クハ其代理ヲ爲ス者、死體ノ場合ニ在リテハ死體所在ノ場所ノ管理ヲ爲ス者若クハ其代理ヲ爲ス者ニ命令ノ定ムル所ニ依リ消毒其他ノ豫防方法ヲ指示スベシ

委項ノ規定ニ依リ指示ヲ受ケタル者ハ其指示ニ從ヒ消毒其他ノ豫防方法ヲ行フベシ

第三條　醫師ハ前條ノ規定ニ依リ指示ヲ受ケタル者其指示ヲ遵守セズト認ムルトキハ當該官吏又ハ吏員ニ其旨ヲ申告フベシ（削除）

第四條　行政官廳ハ結核患者又ハ其死者アリタル場所ニ付家屋物件ノ消毒其他ノ豫防方法ヲ施行シ又ハ其施行ヲ患者又ハ場所ノ管理ヲ爲ス者若クハ其代理ヲ爲ス者ニ命ズルコトヲ得

第五條　行政官廳ハ結核豫防上必要ト認ムルトキハ左ノ事項ヲ行フコトヲ得

一　業態上病毒傳播ノ虞アル職業ニ從事スル者又ハ病毒蔓延ノ虞アル場所ニ居住シ若ハ其場所ニ於テ職業ニ從事スル者ニ對シ健康診斷ヲ施行スルコト

二　結核患者ニ對シ業態上病毒傳播ノ虞アル職業ニ從事スルヲ禁止スルコト

三　學校、病院、製造所其他ノ多衆ノ集合スル場所又ハ旅店、料理店、理髮店、其他ノ客ノ來集ヲ目的トスル場所ニ付病毒傳播ノ媒介トナルベキ事項ヲ制限シ若クハ禁止シ又ハ場所ノ管理ヲ爲ス者ニ對シ結核豫防上必要ナル施設ヲ爲サシムルコト

四　古着、古蒲團、古本、紙屑、襤褸飲食其他ノ物件ニシテ病毒ニ汚染シ又ハ其疑アルモノヽ、賣買若クハ授受

ヲ制限シ若クハ禁止シ其物件ノ消毒若クハ廢棄ヲ爲スコト

地方長官ニ於テ前項ノ規定ニ依リ健康診斷ヲ施行シ又ハ物件ノ廢棄ヲ爲ス場合ニ於テハ其費用ハ北海道地方費又ハ府縣負擔トス

第六條　地方長官ハ結核豫防上必要ト認ムルトキハ採光、換氣其他ノ關係ニ於テ衛生上不良ナル建物ノ使用ヲ制限シ又ハ禁止スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル制限又ハ禁止ニ因リ生ジタル損害ニ對シテハ地方長官必要ト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ補償金ヲ交付ス補償金ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

第七條　主務大臣ハ結核患者ニシテ療養ノ途ナキモノヲ收容セシムル爲人口五萬以上ノ市又ハ特ニ必要ト認ムル其他ノ公共團體ニ對シテ結核療養所ノ設置ヲ命ズルコトヲ得但シ必要ト認ムルトキハ二以上ノ公共團體ヲ指命シ公共設置ヲ命ズルコトヲ妨ゲズ（削除）

前項ノ結核療養所ニ關スル經費ハ公共團體ノ負擔トス（削除）

第一項但書ノ規定ニ依リ共同設置ヲ命ズル結核療養所ノ管理及經費分擔ノ方法ハ關係公共團體ノ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハザル時ハ主務大臣之ヲ定ム（削除）

第八條　地方長官ハ結核患者ニシテ療養ノ途ナキモノ及豫防上特ニ必要ト認ムルモノヲ前條ノ規定ニ依リ設置スル結核療養所ニ入所セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル所ノ費用ノ負擔及徵收ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條　國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ第七條規定ニ依リ結核療養所ヲ設置スル公共團體ニ對シ其結核療養所ニ關シ公共團體ノ支出スル經費ノ六分ノ一乃至二分ノ一ヲ補助ス

第十條　國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ第七條ノ規定ニ依ラズシテ結核療養所ヲ設置スル公共團體又ハ公益法人ニ對シ其結核療養所ニ關シ公共團體又ハ公益法人ノ支出スル經費ノ二分ノ一以內ヲ補助スルコトヲ得

第十一條　結核療養所ヲ設置スル公共團體ニシテ第九條又ハ前條ノ規定ニ依ル補助ヲ受クモノハ他ノ公共團體ノ委託アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ療養ノ途ナキ結核患者ヲ其結核療養所ニ收容スベシ

第十二條　北海道地方費又ハ府縣ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ第五條第一項第二號ノ規定ニ依ル從業禁止又ハ第八條第一項ノ規定ニ依ル入所ニ因リ生活スルコト能ハザル者ニ對シ其生活費ヲ補給スベシ

第十三條　國庫ハ第五條第二項第六條第二項又ハ前條ノ規定ニ依リ支出ヲ爲ス北海道地方費又ハ府縣ニ對シ其支出額ノ四分ノ一ヲ補助ス

第十四條　官廳、官立ノ學校、病院、製造所等ニ於テハ其長ハ第五條第一項第三號第四號及第六條第一項ノ規定ニ準ジ結核豫防ニ關スル事項ヲ施行スベシ

第十五條　第二條第一項若クハ第三條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第四條ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタルモノハ科料ニ處ス

第十六條　第五條第一項又ハ第六條第一項ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令又ハ處分ニ違反シタルモノハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

大正三年法律第十六號ハ之ヲ廢止ス



名譽賛助員　辰野金吾氏

噫、辰野金吾氏

大正八年三月二十六日午後十一時、遽然として我學界の明星隕つ、維れ工學博士辰野金吾君の訃なりとす。博士は、實に我建築學界の耆宿にして、又本邦斯業界の元勳たりき、而して駸々乎たる斯業界の前途は、博士の指嚮に俟つ處尚鮮からざるものあり、特に、我日本建築協會は、本會使命の獻替に向つて、名譽賛助員たる博士の寄與に期する處寔に淺からざるものありき、然るに、今や昊天終に博士を召して永への眠に入らしめ給ふ、寔に痛恨禁ぜず、哀惜措く能はざるなり。今、此處に博士の照映を具し、追懐深き我衷情を表して、竭さゞる哀悼の誠を致すになむ。

□建築學會大會

建築學會にては毎年宿題を提出して會員の研究を促し春色駘蕩の候に於て講演會を開催するを例とせるが本年も去る四月五、六日の兩日に亘りて擧行されたり。

四月五日午後一時―六時

（於東京美術學校講堂）

一、開會之辭
　會長　工學博士　曾禰　達藏氏

一、住居問題と建築法規
　早稻田大學教授　工學士　吉田　享二氏

一、都市學理的完成の必要
　男爵　法學博士　阪谷　芳郎氏

一、都市の住居地域
　內務省技師　工學士　笠原　敏郎氏

一、東京市營住居と其一例
　東京市技師　工學士　福田　重義氏

一、都市の細民住居
　都市協會　幹事　藤原　俊雄氏

一、米國の「アパートメント」
　建築學會正員　伊藤文四郎

一、今後の都市住宅
　建築士　工學士　保岡　勝也氏

一、住宅に對する我々の体度
　清水組技師長　工學士　田邊　淳吉氏

一、閉會之辭
　副會長　工學博士　塚本　靖氏

四月六日午後一時―六時

（於東京海上建物內商會堂）

一、司會者
　會長　工學博士　曾根　達藏氏

一、規格統一
　副會長　工學博士　佐野　利器氏

一、細民住宅に就て
　日本建築協會理事長　工學士　片岡　安氏

一、都市住宅問題の解決方針
　東京帝國大學教授　法學博士　渡邊　鐵藏氏

一、住宅問題に關する法制
　都市計畫課長　法學士　池田　宏氏

一、家屋に對する衛生上の要求
　醫學博士　遠山　椿吉氏

一、都市住宅政策
　大阪市助役　法學博士　關　一氏

一、閉會之辭
　副會長　工學博士　塚本　靖氏

尙當日提出せられたる次年度宿題左の如し

「建築物災害防防」

右終了後中央亭食堂に於て晩餐會あり出席者來賓を合せて二百餘名なりき。



會報

會誌

一、本誌は改題以來號を重ぬること既に四回、幸に會員其他よりの寄稿も本誌を飾るべきもの鮮からず、漸を以て益々内容の充實に努力を拂ひつゝあり、會員各位本誌の利用に向つて力を致されんことを希望に禁へず。

一、本誌第二輯第三號は客月下旬を以て發行し夫れ夫れ各會員並に贊助員其他主要團體等に向つて配送せり。

交換雜誌

建築雜誌	第三三輯第三八七號（建築學會）
建築世界	第十三卷第四號（建築世界社）
住宅	第四卷第四號（住宅改良會）
鐵道協會雜誌	第二十卷第三號（鐵道協會）
工業之友	第百四十三號（工手學校）
内外土木建築時報	第十二卷第四月號（内外土木建築時報社）
工業之大日本	第十六卷第四號（工業之大日本社）
電氣學會雜誌	第三百六十八號（電氣學會事務所）
鐵と	第五年第三號（日本鋼鐵協會）

寄贈雜誌

工業評論	通俗衛生
オートモビル	木材新聞
早瀨塗料商報	ペイント商報
造船職工時報	大橋月報

新入會員

一、左の諸氏は今回入會を申込まれたるに依り理事會の決議に基き夫れ夫れ入會を承諾せり。

終身贊助員	金田兼吉
特別贊助員	田中勇
普通贊助員	山本潔
同	馬場善一
同	深尾義昌

職員役割

一、理事會の協議により職員の分擔を左の如く決定せり。

主記	宗理事
主計	舟橋理事
編輯	野村理事
同	日高理事
同	松本理事

同　　設樂理事

一、編輯補新任左の如し

波江悌夫

第七部委員追加

一、第七部委員會の要求により左の諸氏加入せられたり。

德政金吾　大原忠隆

能村知二　濱田正三

會合

第七部委員會（第二回）

日時　大正八年三月廿四日午後七時ー十時

場所　大阪市中央公會堂第四號室

出席者

瀨戸、池谷、設樂、田中（豐）、熊澤、青田、佐藤（彰）、小笠原、小林、新海、吉木、田中（綱）、舟橋、小谷（書記）

記事

瀨戸委員長は、開會に方り、就任の挨挨を爲し直ちに議事に入るに先ち、今夕は議事の形式を採らず單に協議會と成し、各自忌憚なく意見を交換して協議を纏むることを諮り、異議なく之に決し、續いて協議に入り、（一）委員會の會場費、（二）會場、（三）開會日時、（四）兩部の併合、（五）調査方針等を決せり。

以上の決定を了りて後、左の諸君を第七部委員に加ふることを決定し、是にて本夕の會合を閉じたり。

德政金吾君、大原忠隆君、能村知二君

濱田正三君

因に、谷、青田の兩委員より、右調査方針等に就き書面を以て其意見を申出でられたるに付、之を朗讀して參考に資せり

第七部委員會（第三回）

日時　大正八年四月七日午後六時半ー九時半

場所　大阪市中央公會堂第九號室

出席者

瀨戸、森、田中（豐）、田中（綱）、須川、設樂、谷、吉木、青田、岡村、熊澤、池谷、濱田、小林、德政、舟橋、江村（編輯補）

記事

瀨戸委員長は、開會の挨拶を爲し、且つ當夜遽に會場變更の爲多少の支障を來せしに就て陳謝し、直ちに議事に入り、床板、巾木、腰羽目、額縁等に就て決定を爲せり。因に田中委員及德政委員は各圖面にて、熊澤委員は書面にて、各種材料の寸法資料を提出され、其他の委員は豫め準備攻究の結果を提案され、孰も熱心に討議されたり。尙門甲委員より、大阪及東京方面に於ける木材市中出來合品の寸法調書を、池谷委員より同じく大阪市中に於ける出來合品一部の寸法調書を寄贈されたり篤く謝意を表する處なり。

理事會（新舊理事打合會）

日時　大正八年三月二十七日午後五時十時半

會場　大阪倶樂部

出席

宗、舟橋。松本（新理事）、池田、瀨戸波江、野村（舊理事）、小谷（書記）江村（編輯補）

記事

▲晩餐後席を移して協議會に入り、先づ、新任及現任理事の役割を定め、宗君を主記に、舟橋君を主計に、松本、野村、日高の三君を編輯員に、設樂君

を補缺員とす。

▲次いで、會計整理の協議に入り、池田君の議として、特別會計の缺損額を基本金より其半額を繰入償却し、殘部は經常費より月割償却するの發案あり舟橋君は、一時に基本金より繰替償却すべしとの議あり、之に對して、沈江君は全部經常費より支出すべしとの三說ありしも終に孰れも決定に到らざりき

▲編輯に就て、編輯補の名義に在る從來の各員に對し實際の責任を負擔せしめて編輯に努力せしめ、尙、編輯會議を定日に開催することに決す。

▲舊理事は三月末日まで、其職務執行を繼續し、四月一日より新任理事其事務に就くことに取極む。

▲尙希望として、協會事務所を獨立せしむることの急務なること、役員の選擧は十二月を以て執行するの便宜なること、理事會を定日に催すこと、各部委員會を奬行すること、例會に於ける座長は唯議事を整理するのみにして、議案の說明等は理事者側をして之に當らしめ、座長意見あるときは、副座長をして之に代らしめ、議席若くは番外席より意見を述ぶること、座長は理事者之に謀らずして、其部度推選すること等の議ありき。

▲更に、第七部委員會場の借入料を經常費より支出すること及未納會費徵收を奬行することに決定す。

▲終りに、故辰野博士の御遺族に吊電を送り、尙吊詞を呈し、之と共に供花を爲すことに滿場一致を以て決定し、左の通り吊電及吊詞を取り極めたりき、而して、供花の選擇は理事長に一任することに決せり。

吊　電

謹テ御尊父ノ御逝去ヲ悼ム

吊　詞

本協會名譽贊助員東京帝國大學名譽教授正四位勳三等工學博士辰野金吾君然トシテ長逝セラル寔ニ痛惜哀悼ノ至リニ禁ヘズ、恭ク脩典ノ禮ヲ致シ、謹テ吊詞ヲ捧グ

大正八年三月三十日

日本建築協會

理事長　片　岡　安

斯くて、協議を了り、午後十時半散會せり。

理事會

日時　大正八年四月九日午後六時―九時

場所　大阪倶樂部

出席　片岡　舟橋　宗

記事

建築業協會より建築材料の標準を決定するに就て左の照會に對する協議を爲す

拜啓仕候陳者貴會益々御隆盛奉賀候扨建築工事期間ノ短縮並ニ工費節減ノ方法ニ就キテハ斯界從業者ノ常ニ苦心スル處ニ有之候就テハコレニ關シ今日ニ最モ適切ナル問題トシテ平易ナル且最數多キ普通ノ洋風建築ニ於ケル使用材料ノ寸法並ニ窓入口腰羽目巾木床板木摺根太等及側石窓塞地覆石或ハ屋根葺材料其他ノ寸法等ニ或ル標準ヲ協定致シ斯業ニ從事致ス者成可ハ之レヲ遵守スル樣致候ハヾ自ラ材料ノ供給者モ平素貯藏材製作ノ目途ヲ得テ注文者施工者材料供給者共ニ其便利ニ浴シ大ニ斯界進歩ノ一端トナリ候コトハ今更喋

々スルニ不及義ト存候就テハ此調査ノ件ハ自ラ立場ヲ異ニスル諸會モ有之コト故各會ヨリ委員ヲ選出シ討議致候ハヾ最モ實際ニ適合シ實行容易ナルモノヲ得ルニ庶幾カランカト存候且此件ハ單ニ各會員ノミナラズ全國一般ノ建築從業者ニ準據セシメン希望ニ御座候ヘバ建築學會ハ學術上ノ立場ヨリ建築士會ハ設計者ノ立場ヨリ貴會ハ亦其ノ立場ヨリ又本協會ハ事業者側トシテ調査委員會ヲ組織シ其調査ノ最モ急ヲ要シ候モノヨリ各會ニテ確定發表シ實行ニ入申度ク存候

以上本建築業協會總會ノ議決ニヨリ御照會申上候幸ニ本會趣旨ノ有ル所ニ御同意被成下一日モ早ク其實行ノ緒ニ就キ候ハヾ斯界ニ於ケル利便之ニ過キズト存候　敬具

大正八年三月二十五日

建築業協會理事長

工學博士　横河　民輔㊞

右に關し本會より送りたる回答左の如し

拜復陳ハ貴會愈々御隆昌奉賀候扨去月二十五日附ヲ以テ御照會相成候重ナル建築材料ノ形狀寸法ノ標準協定ノ件ハ貴論ノ通リ最緊要ノ事件ニ有之各會ヨリ委員ヲ集メ討議スルノ件ハ御尤ノ御申出ト存候然ルニ實ハ當協會ニ於テモ夙ニ此件ニ意ヲ致シ過般來特別委員ヲ設ケ討議研究中ニ有之既ニ多少調査相纏リタル點モ有之候就テハ本協會ニ於テ今後充分取急ギ調査ヲ進メ其ノ成案ヲ提供シ各方面ノ御意見ヲ求ムル事ニ相成候ハヾ幾分最後ノ協定ヲ得ル捷程ト被存尤モ全部ノ事項調査結了迄ニハ尚多大ノ日子ヲ要スベキニ付幾部分宛ナリト順次調査終了ノモノヲ提供シ御協議ヲ煩ハスノ順序ニ相願度候ニ付右御諒承相成度此段御回答旁申進候敬具

大正八年四月十五日

日本建築協會理事長

片　岡　安㊞

一、両大法案通過せるに付き祝賀會を開催するの件につきては尚考慮することゝせり

第二十二回例會

日時　大正八年四月十七日午後六時―十

時　　

會場　中央電氣倶樂部

出席

宗、瀬戸(文)、吉井、波江、櫛藤、鈴木、青出、野村(一)、長出、葛野、村野、渡邊(節)、岡部、竹中、片岡、浦、大倉、舟橋、池田(寛)、谷、池谷、木村(梅)、宮飼、田代、設樂、阿部、谷本、伊藤(幸)、柳下、内藤(栞)、渡部、小谷　書記)、山崎(書記)、江村(編補)

記事

一、宗主記まり、理事長及理事改選の結果並に其役割を爲せしこと、辰野博士薨去に供華及吊辭を贈りしこと、日高理事の嚴父逝去に付吊辭を贈れること建築業協會より建築材料の標準を決定するに就き、當協會の意向を徴するの照會ありしこと等の報告あり、尚、協會事務所に適當なる家屋あらば理事まで通知され度旨の希望を述べ、且つ、會計に就て報告すべきものあるも目下主計に於て研究中なるを以て何れ報告すべき旨の挨拶あり。

一、瀬戸第七部委員長より委員會の經過

に就て報告あり。

一、波江君より先づ座長を推選され度しとの動議あり、宗主記は之に對して、出席會員中より推選するの意見多き樣なり、仍て出席者中より推選されたしとの希望を述ぶ、更に、從來の通り理事の內より推選すべしとの動議あり、結局斯の動議通りに、舟橋君の發意にて、宗主記を座長と成す。

一、波江君より、曩に、大阪府の建築規則を審議するの件に付、都市計畫法案及市街地建築物法案の議會通過まで延期し、其狀況によりて、審議を爲すや否かを決することに取り極めあり、然るに今や兩法案は通過せるが故に、此際何分の決定をされ度しとの提議あり野村君は、最早審議の要なしと認むるを以て打切りたしとの動議あり、仍て波江君は其動議を徹回し、次の例會に於て提案せむことを述ぶ。

一、池田君、從來委員會の經過は毎月報告あり會則には例會に報告すとある通り且最も近き例會に報告され度しとの希望あり。

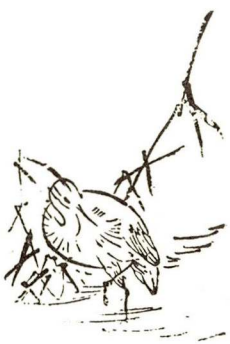
一、葛野君、委員會を開くに支障を來すは適當なる場所の無きに因る、委員會の勵行と同時に適當な會場を提供するよう取計はれ度しとの希望あり。

一、片岡理事長、曩に事務所に就ての希望ありしが、此際會館を作るか又は借り入るかの方法を講ずるの要あり、今迄は尙早と思はるゝならむかと思惟して斯の提議を控へ居りしが、此際是に就て研究しては奈何との提議あり、終に宿案と成る。

一、舟橋君、會館なき爲に委員會等の勵行を澁滯するは可ならず、相當便宜な方法に藉りて開會され度しとの希望あり。

一、是にて一先づ議事を了り、次いで、拍手の裡に波江君登壇『樣式の變轉に就て』なる題下に、講演あり。

一斯くて、約一時間に亘る講演を了り、更に出席員各自の懇談會に入りしが、談話湧發興趣類りにて、寔に會心なる例會にてありき。



編輯たより

▲古人が「春宵千金」と唄ひ、「芳雲髣髴」抔と語を遺せる彌生も、我等が花に背きて原稿紙に出頭沒頭する間に過ぎ去り、卯の花月の訪づるときとなりました。本誌も最早改題以來四度び號を重ねて、健全な育ひ立ちを遂げつゝあるのは會員各位と同慶に存ずる次第であります。玉稿も追々と數を增し質を層一層良くするようになりましたが、尙會員其他の寄稿は歡迎する次第でありますから、ざし〳〵御投寄されるようお願して置きます。

▲本號に在る福田工學士、阪谷博士、藤原都市協會幹事の說議は、曩に催されたる建築學會の講演に依りたもので、一々御校閲を請ふ筈でしたが、締切りの間に合ひませんだから其儘掲げました、仍て、文責は編輯部に在ることをお斷りして措きます。

▲本誌原稿は毎月五日を以て切つて居りますから、御寄稿被下方は右の期日までにお願ひ致します、尙原稿紙は御申越次第相呈します。

▲本誌購讀御希望の方は本會事務所宛に御申越を願ひます、購讀料の拂込は振替口座大阪三九九七五番を御利用なさるが便宜でありす。

役員及職員

理事長	片岡安
理事	宗兵藏（主計）
	野村一郎（編輯）
	設樂貞雄（編輯）
	日高胖（編輯）
	舟橋喜一（主記）
編輯補	松本禹象
	波江悌夫
	佐藤四郎
書記	江村郊邨
	小谷信藏
	山崎萬壽夫

會員	一七八	會員（地方）	三六
名譽贊助員	六五	終身贊助員	三九
特別贊助員	七	普通贊助員	二三〇
合計	五五八		

本誌及廣告料定價表

本誌			
冊數	定價	郵稅	
一冊	金參拾錢	貳錢	
十二冊	參圓六拾錢	貳拾四錢	

廣告料		
種別	金額	
半頁	八圓	
一頁	拾五圓	
特別頁	弐拾圓	
裏表紙表	貳拾五圓	

大正八年四月二十日印刷
大正八年四月廿五日發行　（每月壹回廿五日發行）

大阪市北區相生町一三四
電話（東一八八三番）

發行兼編輯人
兼印刷人　伊藤幸太郎
大阪市東區內淡路町一丁目三十一番地

印刷所　大阪活版所
大阪市東區今橋一丁目十一番地

發行所　日本建築協會
電話本局二二四一番
振替口座大阪三九、九七五

現行伯林建築條例

足場細則

扛上機細則



現行伯林建築條例足場細則

足場ノ使用及構造

第一條　公路所在地又ハ持主若クハ當該作業者以外ノ者カ出入シ得ベキ地ニ於テ鋪石及下水ノ改修堀割、材料積卸、足場建設物品扛上灰爐及廢物降下ノ爲メ時々其全部又ハ一部ヲ公然使用スル場合ハ各種ノ災害又ハ人畜物品ノ毀傷ヲ豫防センガ爲メ狀況如何ニ依リ墻壁警戒標又ハ燈火ヲ以テ其他ヲ分明ナラシメ公衆ニ警式ヲ與ヘ又ハ之ニ近付サラシムルヲ要ス

第二條　公路ヲ專用スル場合ニアリテハ堅牢密實ナル圍障（板塀小割板垣）ヲ以テ之ヲ現ハシ暗黑ノ時及夜中ハ常ニ燈火ヲ揭ゲ又圍障ノ入口ハ作業中堅ク之ヲ閉鎖ス可シ

第三條　公路ヲ專用セントスルトキハ豫ジメ警察署ノ認可ヲ乞フベシ之ニ對シテ警察ハ檢査ヲ行ヒ一定ノ場所及期限ヲ以テ之ヲ許ス防障ノ種類ニ關シテハ警察署之ヲ命令ス

第四條　公路ニ接シ又ハ其域內ニ堀又ハ起隆土アル場合ニ於テハ伯林建築令第九十八條規定ノ防禦以外通常往來ニ面シテ堅牢ナル墻垣ヲ設クベシ新築家屋及取毀家屋カ公路ニ接近シ又ハ其上ニアル場合亦同シ

第五條　紀念碑、井、街燈、格子、溝、橋、番地標等ノ如キ公設物ハ各種ノ建築修理又ハ掃除ノ際充分ニ之ヲ保護シ其毀損ヲ保証スヲシ建築又ハ修繕カ直接ニ排下水設備（割、溝渠等）ニ關係ナキ場合又ハ建築ノ爲メ之等設備ノ變更ヲ促スヲ要セザル場合ニアリテハ之等ノ溝渠ハ開通シ置クベキモノニシテ其排水ヲ阻止又ハ斷絶スベキ工事ヲ施ス事ヲ得ズ公路掃除人ハ何時ニテモ之等溝渠ニ入ルヿヲ妨ゲズ

第六條　公衆カ足場ノ下ヲ通行シ得ル樣足場ヲ公道ニ架ケ渡シタル場合ニアリテハ地上八呎以上ニ防盜ヲ設ケ材料灰櫃及ビ流動物ノ通路ニ落下スルヲ豫防スルヲ要ス防盖ハ足場ノ最大幅ヨリ二呎以上街路面ニ突出シ各方面ノ開キタル部ニハ高サ二呎ノ圍壁ヲ築キ四分ノ五吋厚サノ板ヲ以テ之ヲ覆ヒ下部板ノ合セ目カ上部板ニ於テ隱ルヽ樣櫛比セシムベシ

第七條　乾燥セル灰爐ハ建築令第九十七

條ニ依レバ如何ナル場合ニアリテモ街路面ニ投スルヲ得ザルモノニシテ之ヲ他所ニ運搬セルニ方リ散乱甚シク且路上通行人又ハ隣家ニ迷惑ヲ蒙ムラシムベキ場合ニアリテハ豫メ之ヲ濕潤セシムベシ

第八條 地盤ノ堀立、土壓ノ築造等ノ場合ニ於ケル隣地保護ニ關スル建築令第九十六條（千八百九十七年八月十五日附建築警察令第三十二條參照）ノ規定ハ現場工事長トシテ建築ヲ管理スル者ニ於テ之ガ準備ヲナスベシ之等ノ工事長在ラザル場合ニハ堀立ヲ企劃シ又ハ命ジタル者之ガ責ニ任ズ五呎以上ノ深ヲ有スル堀ニハ其深サ及周圍ノ地盤ニ適合セル傾向面ヲ作リ若クハ堅牢ニ板柵ヲ施シ地盤ノ墜落ヲ防グベシ之ニ同一原因ニ依リ堀ノ周圍ニハ其深サノ一倍半マデ重量物体ヲ置カザルヲ要ス

第九條 建築及修理用ニノミ認可スベキ足場左ノ如シ

1 連結式足場　2 桿式足場　3 臺式足場　4 浮游式足場　5 懸垂式足場

第十條（千八百九十八年五月廿九日附布告百五十頁參照）連結式足場トハ等邊正角ノ仕上ゲ木材ヲ以テ地盤ヨリ組上ゲタルモノヲ云フ此足場ハ大工ノ指揮ノ下ニ技術的ニ細工シ且ツ之ヲ連接シテ築造スルモノヲ云フ此足場ハ各種ノ建築ニ使用スルヲ得ルモノニシテ建築材料及其他ノ重量物体搬送用ノ杜上裝置ヲ設クルニハ此種足場ニ限ルモノトス

第十一條 桿式足場トハ繩又ハ針金ヲ以テ丸太ヲ連結シタルモノヲ云フ其建造及使用ニ關シテハ左ノ規定ニ注意スルヲ要ス

1 之ガ爲メニ使用スベキ縱橫桿材ハ其一端ニ於テ少クトモ四吋ノ直徑ヲ有スルヲ要ス

2 建地ハ足場ヲ架スベキ建物ノ高サニ比例シテ上端ヨリ下方ニ向テ其太サヲ增スベシ併シ三呎以上ノ深サニ埋入シ陷設ヲ防グ爲メニ其下端ニ堅牢ナル板ヲ敷キテ土石ヲ以テ堅ク搗堅メ置クベシ建地相互ノ距離及關係建物ヨリノ距離ハ十呎以上ナルヲ得ズ連結ニ依テ建地ヲ伸長（組立又ハ接合）セントスル場合ニアリテハ兩木ノ端末ヲ相方ヨリ六呎以上ヅヽ組合セ針金又ハ鐵帶ヲ以テ二箇所以上ヲ縛スベシ、上部建地ハ布丸太上ニアリテ堅牢ナル「クナツケン」ヲ以テ之ヲ支ヘ又ハ布丸太ヨリ他ノ布丸太ヲ經テ地上ニ達シ此處ニ堅牢ナル支柱ヲ設クベシ支柱ハ太キヲ要ス又下部ノ建地ト連結シテ或一方ニ曲ラザル樣ニナシ置クベシ

3 足場ヲ架スベキ建物ノ少クトモ每階目相互ノ距離十五呎ヲ越ヘザル程度ニ於テ建地ト建地トノ間ニ伸長接合ヲナスベシ右ニ付キ受ヲ有セザルトキハ板ヲ釘着スベク加重大ナルトキハ布丸太前項ニ揭グタル太サノ桿ヲ使用スベシ

之等ノ桿ハ十字繩ヲ以テ之ヲ建地ニ結付ケ上記2ニ示シタル如ク地盤ニ向テ支撐スベシ

三ケ月以上設ケ置クベキ足場ニアリテハ各三番目ノ十字繩ハ鐵索トナスベシ布丸太ノ長サガ總体ノ建地ヲ連結スルニ足ラザルガ爲メニ尙一本布

丸太ヲ接合スルノ要アル場合ニアリテハ其接合部ノ長サヲ三呎以上トナシ再ビ之ヲ一本ノ建地ニ結付クルヲ要スル而シテ結目ニ關シテハ布丸太互ノ分二ケ所建地ニ於ケル分一ケ所トナシ何レモ繩ヲ使用スベシ

4 腕木即チ布丸太ヲ建築物ニ連結シ且足場板ヲ置クノ用ニ供スベキ桿ハ相互間六呎以上ヲ隔ツベカラズ之ヲ布丸太又ハ建築物ノ内外ニアル臺上ニ取付クルニハ左右ニ移動セザル樣ニナスベシ

5 足場敷即チ各足場棚ノ床ヲ成セル足場板ハ一吋四分ノ一以上ノ厚ヲ有シ之ヲ腕木上ニ取付クルニハ板ヲシテ開キ又ハ摺動セシメザル樣ニナスベシ又其並置ノ方法ニ於テモ材料ノ墜落ヲ防ギ得ル樣ニナスベキモノトス

6 足場全体ノ側面的推移ニ付キテハ支柱ヲ斜角ニ置キテ之ヲ防グベシ

7 足場棚連絡用ノ梯子ニ丈夫ナル木ヲ以テ作リ異狀ナキ梯段ヲ之ニ備フベシ而ヒテ其据付方ニアリテモ下方ニ滑ベリ又ハ上部ニ於テ展開セザル樣ニナスベシ又之ニ支柱ヲ取付ケ其曲撓ヲ防グベキモノトス

桿式足場ハ各種ノ建築ニ使用スルヲ得ベキモ扛上機ヲ此上ニ設クルヲ得ズ

第十二條 臺式足場ハ高サ十五呎以下ノ工事ニ限リ之ヲ使用スルヲ得ベシ但工事ノ種類ニ付キテハ製限ナシ臺ニハ敷(板)ヲ固定シ臺足ニハ支柱ヲ設ケテ其推移ヲ防ギ何時ニテモ確實ニ重量ノ負擔ニ堪ヘ得ル樣構造スベシ敷板ノ厚サ並ニ臺相互ノ距離ニ關シテハ第十一條2及6項ヲ適用ス

第十三條 浮游式足場トハ建物ヨリ突出シ地上ノ支柱ヲ有セザル桿又ハ腕木上ニアリテ建物ニ接スル足場ヲ云フ腕木ハ假枠丸天井又ハ其他建物内部ノ堅牢ナル物体上ニ支撐點ヲ有シ且或一方ニ動搖セザルダケノ太サ及負擔力ヲ有スルモノナルヲ要ス此足場ニハ高サ三呎ノ手摺及第十一條3項ニ規定セル如ク構造並ニ取付方ノ數板ヲ設クベシ

此足場及掃除並ニ正面屋根及蛇腹ニ於ケル著大ナラザル工事ニ限リ使用スルコトヲ得而シテ材料ニ關シテハ工事ノ進行上已ムヲ得ザルモノニ限リ之ヲ載スルヿヲ得ルモノトス

第十四條 支撐ヲ有スル枕木及堅牢ナル敷板付横桁ヨリ成レル可動懸垂式足場即チ已ニ現存セル建物ヨリ突出セル桁ニ繩ヲ以テ(出棚)懸垂セル床ハ浮游式ト同一目的殊ニ家屋ノ掃除用トシテ浮游式ト同一條件ノ下ニ使用スルヲ得此床ヲ必要ニ從ヒ降上セシムルヿヲ得此足場ノ支桿ハ九吋以上ノ太サヲ有シ桿支相互ノ距離ハ十呎以下トナス

足場敷板ヲ載セベキ腕木ハ太サ四分ノ三吋以上ノ鐵環ヲ以テ支桿ヨリ垂ル、索繩ニ之ヲ結ビ付クベシ敷板ハ厚サ四分ノ五吋ヲ有スル板ヲ善ク接合シタルモノナルヲ要ス必要ナル手摺並ニ支桿ノ支撐法ニ關シテハ第十三條ノ手摺並ニ腕木ノ規定ヲ適用スルモノトス

第十五條 刑法ニ於テ重刑ヲ規定セザル限リ防護及治安規則ニ違反シタル場合ニ於テハ(建築主アルトキハ其者ニ對シ)主任以外ノ日傭人其工事ニ當ルト

キハ其命令者ニ對シ命令者不在ナルキハ建築主ニ對シテ千八百五十一年四月十四日附刑法第三百四十四條（現行帝國刑法第三百六十六條）ニ規定セル罰金二十マーレル以下ヲ課ス違犯者無產者ナルトキハ十四日以内ノ拘留ニ處ス

伯林千八百五十五年九月十四日

王國警察本部

千八百九十八年五月二十九日布告

高サ十米突以上ノ連結式足場ヲ建造センガ爲メ建築警察署ノ認可ヲ請求セントスルトキハ千八百九十八年四月六日附工部大臣ノ布告ニ從ヒ今後屢歷ニ對スル足場ノ抵抗力ヲ統計表ヲ以テ証明スベシ又提出スベキ圖面ニ於テハ必要ナル場合ニハ如何ナル方法ノ鉤束及支撐ヲ以テ足場ノ轉倒ヲ防ガベキヲ明瞭ナラシムルヲ要ス此連結式足場ニ關シテハ千八百五十五年九月十四日附警察令第十條（足場條令）ヲ適用スベキモノトス

伯林千八百九十八年五月二十九日

警察長

懸垂式足場

千八百八十二年八月十六日警察令千八百五十年三月十一日行政警察法第五條及第六條並ニ千八百八十年七月二十六日附普通行政機關法第七十九條第及ヒ八十條ニ基キ當警察本部ハ市長ノ協贊ヲ經テ千八百五十三年四月二十一日附伯林建築警察令第九十四條並ニ（千八百五十三年四月二十一日附建築警察令ハ已ニ廢止セリ）千八百五十五年九月十四日附警察令（千八百五十五年ポツダム官報四十號三百六十九頁）ノ追加及變更ヲ伯林市區ニ對シテ布告スルコト左ノ如シ

第一條 自已又ハ其雇傭者タルヲ問ハズ何人ト雖モ懸垂式足場ヲ設ケ又ハ使用スルモノハ每時警察署ノ認可書ヲ乞フベシ

第二條 前條建設者ハ此足場ノ取扱ニ熟セル技術者ヲ任用シ足場ノ取付及使用ニ付引續キ之ガ監守ヲナサシムベシ又建設者ハ足場並ニ其附屬品ガ第三條規定ノ構造ヲ有シ並ニ其足場ニ設ケタル手綱ハ作業者ガ其綱數ヲ一樣ニ使用スル樣準備スベキモノトス

第三條 懸垂足場並ニ其附屬物ハ頁好ニシテ充分ニ堅牢ナル材料ヲ以テ構造スベシ桁ノ外面高角部ヲ鐵張トナスベキ要アル足場ノ前後両側ニハ手摺ヲ設クベシ此等ノ各手摺ハ二枚ノ丈夫ナル小割板ヲ縁ニ取付ケタルモノニシテ二枚ノ内下部ノモノハ〇、五〇米、上部ノモノハ一米ダケ橋板上ニ之ヲ取付クベシ又小割板ノ外側面ニハ一條ヨリ成レル鍛鐵帶ヲ張ルベシ

各橋ニハ手綱ノ數ニ等キシ導索ヲ設ケ置クベシ導索ハ橋端ノ鐵眼ヲ通シ上部ハ本鴨居ニ下部ハ地盤ニ於テ確實ニ之ヲ固着スベシ

此足場ヲ懸ケルニハ突出物ヲ使用ス但瓦又ハ石盤葺屋根ナルトキハ所謂ベツケ（臺架）ヲ以テ補フ

第四條 第一條ニ從テ警察署ノ認可ヲ要スルモノハ該懸垂式足場ヲ使用スベキ地ノ警察區長ニ自已ガ足場ノ監守ヲ委任セル技術者ノ姓名ヲ届ケ出テ且其人ノ直接紹介ヲ得テ口頭ヲ以テ之ヲ請求スベシ

第五條 右ノ技術者ハ足場ノ取付及使用當時引續キ現場ニ在ルヲ要ス又其期限中ハ自已ノ姓名ヲ記入セル警察署ノ認

可証ヲ携帯シ居リ警察官ノ要求ニ依リテ之ヲ提示スベシ

右技術者ハ足場ノ取付及使用ガ斯道ニ叶ヒ且本令規定ニ適合スル様監守シ且足場並ニ其附属品ニ關スル規定構造ニ付キ責任ヲ有スルモノトス

第六條 何人ヲ問ハズ必要ナル認可ヲ受クルニアラズ又ハ第二條及第三條ノ規定ニ關セズシテ懸垂足場ヲ設ケ又ハ使用シ又ハ設置若クハ使用セシムルモノハ普通刑法ニ規定ナキ限リ三十マルク以下ノ罰金ヲ課ス犯者無資産ナル場合ニアリテハ之ニ準ズベキ拘留處分ヲ行フ

第五條 ニ依リ技術者タルベキ義務ヲ遵守セザルモノ亦同罰ニ處セラルベシ

第七條 本令ハ千八百八十二年八月十六日ヨリ施行ス

伯林千八百八十三年一月一日

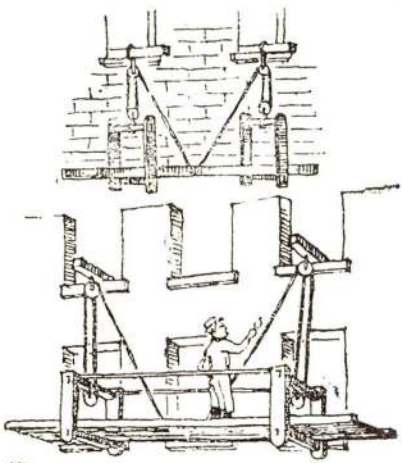
王國警視廳

足場設置ノ爲人道面ノ破碎ニ關スル告知、（六十七枚目）

足場設置ノ目的ニテアスファルト、木、碎石或ハコンクリート下敷ノ上ヘ設ケシ花崗石ノ道路面ハ今後之ヲ破碎スルヲ許サズ

伯林千八百八十四年十一月六日

王國警視廳



現行伯林建築條令
扛上機細則

第一章 扛上機ノ種類

第一條 扛上機ヲ分ケテ左ノ四種トナス

1 小形扛上機 本機ハ人体ヲ容ルベキモノニアラズ（食物書類工業上ノ小生産物等ノ用ニ供ス）シテ其運搬力ハ百基瓦以下竪穴断面ハ〇、七〇平方米ヨリ多カラズ本機ニ付テハ本令第二、三、四、五及二十條ニ掲ゲタル規定ノミヲ適用ス

2 貨物扛上機

3 人体及貨物扛上機

4 昇降機

前記2項ノ貨物扛上機ハ建物又ハ其他使用ノ建設物用ニノミ運轉スルモノナレバ該機ニアリテハ警察署ハ本令規定ノ全部又ハ分部ノ施行ヲ除外スルヲ得ベシ

第二章 扛上機ノ製作

建物内ノ運搬穴並ニ馳道

第二條 建物内部ノ各層樓ノ連絡用扛上機ハ通常必用ナル通行口（戸）及ビ明リ取リノミヲ有スル石壁ヲ以テ之ヲ圍ムベシ

此等ノ壁ニ依リテ成レル竪穴ニハ馳道及運轉器（綱索鎖分銅推進シリンドル等）ノ外其穴ノ断面ヲ精測シ梯鐵堅牢ナル梯子又ハ小階段ヲ設備スルヲ得但之等ハ單ニ檢査及修繕用ニノミ使用スルヲ得ル者トス、馳道ニ沿ヘル場室ハ

物品ノ貯藏又ハ積置用ニ供スルヲ得ズ

竪穴ハ其上端ヲ不燃性無蓋トナシ又ハ屋上少クトモ〇、二〇米ニ突出セシムベシ此場合ニアリテハ屋上面以上ノ竪穴ニハ通風口ヲ設クルヲ要ス小形扛上機(第一條ノ一)及其他ノ扛上機ニシテ火災ノ危險ナキ營業上ニ於テ直上階ト連絡スルノ用ニ供スベキモノニアリテハ建築警察署ハ石造竪穴ノ築設ヲ免スルヲ得

右例外ノ場合ニアリテモ竪穴ノ壁床及天井ハ不燃物質ヲ以テ之ヲ築造スベキモノトス

建物ノ内部ニ重サナレル廊ヲ連結シ又ハ階段室内ニ設置セル扛上機ニシテ馳道ガ十蜜米以下ノ針金網目ヲ以テ圍マレ其他一般ニ扛上機ノ各部ガ人体ニ害ヲ及ボスノ憂ナキ場合ニアリテハ厚壁ノ竪穴ヲ必要トセズ

石壁ニテ圍メル明リ取リノ庭内ニ扛上機ヲ設クルヲ得ル場合ハ之ガ爲メニ該庭規定最小ノ大サヲ縮少セサルトキニ限ル又扛上機ガ直接ニ明リ取リ庭ノ壁ニテ圍ハザル場合ニアリテハ十蜜米以下ノ網目針金格子ヲ以テ之ヲ圍ムヲ要ス個人ノ家屋内ニテ單ニ二個ノ階接ヲ連絡スルノ用ニ供スル食物扛上機ハ右ノ制限ヲ受クルヲナシ

建物ノ外部正面ニ於ケル馳道

建物ノ外部正面ニ於ケル扛上機ハ其下端ヲ高ク少クトモ、八米ニシテ十蜜米以内ノ網目格子ニテ之ヲ圍ムベシ

被蓋)運搬籠ノモノヲ除キ)並ニ防蓋及ビ其他建物ニ固着セル部分ハ不燃燒材料ヲ以テ之ヲ作ルベシ

馳道ノ穴壁及圍格子ニ於ケル孔口

第四條　片壁ニ於ケル明リ取リ口ハ外壁又ハ明リ取リ庭(明リ穴)ノ壁ニ於テノミ設クルヲ得而テ此口ニハ無資格者ノ開クヲ得ザル窓ヲ設クルヲ要ス

石造又ハ不然燒性穴壁ノ通口ニハ防火(例セバ木製ニシテ両面ニ鐵葉ヲ張レルモノ)戸ヲ設クベシ此等ノ戸ハ馳道圍格子内ノ戸ノ如ク内方ニ開クヲ得ズ而シテ其表面ニハ扛上機又ハ昇降機ト明瞭ニ記載スヲ可シ

運搬穴ノ外部ニ於ケル天井ノ貫通

分銅、綱索、操縦器等ヲ通スルノ目的ヲ以テ運搬穴又ハ馳道ノ外部ニ於テ天井ヲ貫通セントスルニハ之等ノ器具ガ百平方珊米以上ノ横斷面ヲ有シ各貫通部ノ間ニ層樓全部ノ高サヲ有スル耐火性閉鎖被覆ヲ施ス場合ニ限ル

竪穴ノ設備天井ノ貫通及階段室及外部正面ニ於ケル工事的設備ハ建築警察署ノ認可ヲ要スルモノトス

運搬籠

第六條　第一條2ノ貨物扛上機ニアリテハ馳道ハ全体ニ穴壁又ハ格子壁ヲ有スルヲナキモ其運搬籠ニハ壁又ハ格子ヲ取付ケ貨物ノ墜落ヲ防ケヲ要ス

人体貨物扛上機及昇降機ノ運搬籠ハ其四方ヲ壁又ハ十蜜米以下ノ網目針金格子ヲ以テ之ヲ圍ミ上部ハ安全無蓋ニシテ墜落物ヲ以テ籠中ニ收容セル人々ヲ傷害スルヲナキヲ要ス運搬籠ノ戸ハ外方ニ開クヲ得ズ又運搬中ハ之ヲ閉鎖シ置クベシ

人体貨物扛上機ニ於テ籠ノ入口ガ突起又ハ張出シヲ有セザル圍壁ニシテ籠ヨ

リ四珊米以上ノ隔リヲ有セザル穴壁ニ接シテ運轉セル場合ニアリテハ右ノ戸ヲ除クヲ得

指示器

第七條 第一條2及3ノ貨物扛上機ハ管轄警察署ノ見込ミニヨリ全体ノ狀況ニ順ミ必要ナル場合ニ限リ各階ニ於ケル籠ノ位置ヲ示スベキ裝置ヲ備フベシ

操縦器

第八條 運搬籠ノ最高及最低位置ハ之ヲ確定スベシ而シ此等ノ限界ニ達スル場合ニ於テ籠ヲシテ自働停止セナサシムベキ裝置ヲ備フルヲ要ス

第一條 2ノ貨物扛上機ニ於ケル運搬椅子ニ取付ケタル戸ヲシテ籠ガ目的トセル層棧ノ高サニ到達停止シタル場合ニ於テ該層棧ノ戸ヲ開カシムルノ用ヲナサシムベシ運搬籠ハ戸ガ運搬穴ニ向テ閉鎖セラルヽ以前ニ於テ其運轉ヲ開始スルヲ得ズ

第一條 ノ3及4ノ人体貨物扛上機及昇降機ニ於テ特別鎖栓等ニ依リ常ニ其開戸ヲ防ギタル場各（之等ノ場合ニ運搬籠ハ其戸前ニ停止セズ）及放置ニ依テ自働閉鎖ヲナスベキ戸ノ場合ニアリテハ運轉手所技ノ押棒ヲ以テ外部ヨリ堅穴ノ戸ヲ開クノミニテ足レリトス

搬送ノ速力

第九條 人体貨物扛上機及昇降器ノ搬送速力ハ一秒時一、五 米ヲ超ユベカラズ又運轉開始ノ場合ニ試驗スベキ裝置ヲ備エ之ニ依テ前記以上ノ速力增加ヲ防止スベシ

認可重量

第十條 認可重量ノ限度ハ各扛上機ニ付キ豫メ確定シ之ニ超過スルヲ許サズ

第一條 2ノ貨物扛上機ニアリテハ運搬籠ニ取付クベキ戸毎ニ認可重量ヲ明記スベシ

人体貨物扛上機ニアリテハ運搬籠ノ戸毎ニ運搬人員ヲ包括シタル認可重量ヲ表記スベシ

指定外ノ貨物扛上機ヲ以テ人体ヲ搬送スルヲ禁ズ

昇降器ニアリテハ運轉手以外同時ニ搬送セラルベキ認可ノ人數及人員ノ搬送ハ主任運轉手ノ同伴ニ於テノミ之ヲ扱フベキ旨ヲ規定シ運搬籠ノ各戸及籠中ニ明記スル可シ

捕機或ハ駆轉機ニ依ル下降搬

籠ノ保全

第十一條 運搬籠ヲ直接ニ荷フベキ支柱ヲ附セズシテ運轉セル扛上機ニハ完全ナル捕機又ハ駆轉機ヲ備フベシ此機ハ運轉開始ノ場合ニ於テ綱索又ハ其他ノ運轉器ヨリ運籠ヲ解キ最大認可重量及下降スル運搬ノ最大認可速力トヲ以テ試驗スベキモノトス此場合ニ於テ運搬椅子ガ〇、二十五米以内ノ深サニ達シタル後捕機ヲ以テ之ヲ把捉スルヲ要ス

速力駆轉付運搬椅子ハ一秒時一、五〇米以内ノ速力ヲ以テ下降スルヲ得ベシ

捕機ハ安全瓩條ヲ以テ之ヲ保全シ貨物ノ緊迫ニ依リ其作用ヲ無効ナラシメザルヲ要ス

革條運轉機付機械扛上機ニアリテハ運轉中革條ノ投下セラルヽ場合ニアリテモ搬籠ハ停止シ若クハ僅々認可速力ヲ以テ下降スベキモノトス

複滑車ヲ間接ニ挿入シテ運轉セル扛上機ニ於テ綱索（又ハ鎖革帶等）ガ直接ニ

「シリンドル」端ニテ解結シ之ガ爲メ降下運籠ニ綱索全部ノ重量ヲ負ハシムベキ場合ニアリテモ前項ニ準ズ

支柱ニ依テ荷ハルベキ搬籠又ハ水力扛上器ノ搬籠ノ保全

第十二條 直接支柱上ニアリテ運轉セラルベキ扛上機ニアリテハ支柱及搬籠ハ確實ニ連結セシメ如何ナル場合ニアリテモ分銅ノ取付ニ依リテ相互ニ離ルヽコトナカラシムルヲ要ス

此導管内圓頭シリンドルニ密接シテ一裝置ヲ取付ケ充備管ニ於ケル管ガ折斷シタル場合ニ於テ認可以上ノ速力ヲ以テ搬籠ノ降下スルヲ防グベシ運轉開始ノ際此裝置ノ作用ヲ檢セントスルニハ搬籠ヲ最高ノ規定位置ニ置キ認可限度ニ達スル重量ヲ積ミタル後一時ニ操縱機ノ全部ノ開放ヲ行フベシ

綱索鎖等ノ指定要件

第十三條 第一條2ノ貨物扛上機ニアリテハ搬籠ヲ吊下スベキ綱索（鎖、革帶等）ハ認可最大ノ全量ヲ其力ノ五分ノ一ヲ以テ安全ニ荷ヒ得ルヲ要ス

人体貨物扛上機及ビ昇降機ニ於ケル搬籠ハ少クトモ二條ノ綱索（鎖又ハ其種ノモノ）ニテ之ヲ吊下シ其索ノ各々ハ認可最大重量ニ對シ其力ノ十分一ヲ以テ安全ニ之ヲ荷ヒ得ルモノナルヲ要ス但綱索四條ナル場合ニアリテハ各索ハ五分一ノ力ヲ以テ足レリトス

分銅ノ扱方

第十四條 各種ノ分銅ハ之ヲ投出シ若クハ偶然ノ墜落ニ依リ人体又ハ搬籠ヲ毀損セザル樣取扱フ可シ

運搬椅子ノ照明

第十五條 第一條2 3及4ノ運搬椅子ノ前室及人体運搬用籠ハ其使用時間中ハ日光又ハ燈光ヲ以テ充分ニ照明スルヲ要ス

第三章 扛上機ノ運轉開始及運轉

第十六條 運轉開始 扛上機ノ機構部ハ豫メ認可ヲ要セザルモ新メナル扛上機ニアリテハ運轉開始前該扛上機機構設備ガ本令規定ニ該當スルヤ否ヤニ付鑑定人ノ技術的檢査ヲ經ベキモノトス

鑑定人ハ右檢査ノ成績ニ付キ証明書ヲ作ルベシ此書面ニハ設計者ニ於テ作製シ鑑定人ノ証明セル圖面明細書及ビ運搬力計算書ヲ添付スベシ

右書面付証明書ハ管轄警察署ニ之ヲ呈出シ其還付ヲ待テ本令印行本ト共ニ之ヲ檢査簿ニ綴リ込ミ之ヲ扛上機設備所ニ備付ケ何時ニテモ監視官ノ閱覽ニ供スルヲ得セシムベシ

扛上機ノ技術約檢査並ニ其成績証明書ノ作成ニ付キ資格ヲ有シ又ハ認可ヲ受ケタル鑑定人ハ住地及居所ヲ表示シ左記係官ニ於テ之ヲ廣告ス可シ

1伯林シャルロッテンブルヒニアリテハ伯林警察長

2右都市外ノ本令施行ニアリテハポツダム行政官長

多數著名ノ管定人中ヨリ撰定ヲ行フノ件ハ地主又ハ管轄警察署内ニ掲ケタル地主代理者ニ一任ス

運轉監視

第十七條 扛上機持主若クハ運轉管理ニ任スル其代理人並ニ運轉手ハ危險ノ虞レアル扛上機ヲ運轉セザル樣注意スルヲ要ス

運轉手ハ運轉間ニ於テ規定ノ如ク安全裝置ヲ使用シ且扛上機ニ故障ヲ生ジタ

ル場合ニアリテハ持主又ハ其代理人ニ對シテ即時之ヲ通知スルノ義務ヲ有ス

特別運轉手（同伴人）ノ資格及義務

第十八條　昇降機及人体貨物扛上機ハ特別運轉手ノ同乘スル時ニ限リ之ヲ使用スルヲ得特別運轉手ハ十八歲以上ニシテ扛上機ノ裝置及運轉ニ精通スルヲ要ス右ニ付鑑定人（第十六條）ガ作リタル資格証明書ハ之ヲ檢査簿中ニ記入スルモノトス昇降機ノ運轉手ニアリテハ右ノ外責任ヲ以テ扛上機ノ運轉ヲ擔當シタル旨ノ宣言書ヲ檢査簿中（第十六條）ニ記入スルヲ要ス

運搬椅子ガ專ハラ一定不變ノ人々ノ運搬ニ供シ又ハ單ニ兩階連絡用ナルトキ又ハ各階ニ監視ヲ司レル特別運轉手一名ヲ置ケル場合ニアリテハ本條運轉手ノ同乘ヲ免シ同人ノ監親ノミヲ以テ足レリトス

同一住居内ノ交通用ニノミ供スル電力扛上機ニアリテハ家長自ラガ運轉ヲ解スルモノナルヲ証明シ又運搬椅子ノ獨立使用ヲ家長ニ於テ許シタル人々ハ各自運轉ノ技ニ通ズルモノナルヲ家長ガ斷言シタル場合ニアリテハ例外トシテ本條運轉手ノ監親ヲ免スルヲ得

右ノ場合ニアリテ左ノ條件ニ從フヲ要ス

1　運搬椅子ハ第八條第三項ノ人体貨物扛上機ノ要件ヲ具備スベシ

2　運搬椅子鑑定人ガ行フベキ定期檢査ノ如何ニ拘ハラズ十二ケ月毎ニ信用アル本機製作人ニ乞ヒ本機ニ異狀アラザルヲ竝ニ該製作人ハ今後一年間其運轉力ヲ保証スル旨ノ証明ヲ受クベシ

3　各階適當ノ場所ニ「注意本機ハ充分ナル運轉心得ヲ有スル者ニ限リ使用スベシ」ト記セル標札ヲ揭グベシ

扛上機ノ定期檢査

第十九條　鑑定人（第十六條）ノ檢査ハ貨物扛上機（第一條2）ニアリテハ二年毎ニ之ヲ行ヒ人体貨物扛上機及昇降機ニアリテハ一ケ年以内ニ於テ之ヲ行フ

地主又ハ警察署ガ熟知セル地主代人ハ現定期間内ニ定期檢査ヲ受ケ且此場合ニ本令ニ違背セル欠點ヲ除却スル件ニ付キ責任ヲ有スル又地主又ハ其代人ハ常ニ檢査施行期ニ遲レザル樣鑑定人ノ來場ヲ乞フベシ

右ノ檢査ニ依リテ扛上機設備カ本令ノ規定全部ニ該當スルヤ否ヲ確定スベシ

鑑定人ハ檢査ノ成績ヲ檢査簿ニ記入シ檢査施行ニ付テハ之ヲ管轄警察署ニ屆出ツベキモノトス欠點ヲ發見シタル場合ニアリテハ鑑定人指定ノ期日内ニ之ヲ除去スベシ若其効果ヲ奏セザル場合ニテリテハ鑑定人ヨリ之ヲ管轄警察署ニ其旨屆出デラスベシ

扛上機ヲ直接危險ノ狀態アルモノト認メタル場合ニアリテハ鑑定人ハ即時其運轉中止ヲ命ジ其旨ヲ檢査簿中ニ記入シ直チニ之ヲ所轄警察署ニ屆出ツ可シ

第四章　施行猶豫規定

第二十條　本令ハ本年十月一日ヨリ施行ス同時ニ扛上機（運搬椅子）ノ設備及運轉ニ關スル千八百九十三年三月二十七日付警察令ヲ廢止ス

已ニ現在セル設備中小形扛上機（第一條ノ1）ニアリテハ變更ヲ要セザルモ其他ノモノニアリテハ（第一條2乃至

4）本令施行後二ケ年以内ニ其規定ニ從フベキモノトス此目的ヲ達センガ爲メ今後二年ヲ經初メノ三ケ月間ニ檢査ヲ行フ「シャルロッテンブルヒ」ニアリテハ所轄警察署ハ申立ニ依リ前記期間ノ延長ヲナシ並ニ現在又ハ新設備ノ場合ニ於テ本令各條ノ施行ヲ中止スルノ權ヲ有ス又所轄警察署ハ一定ノ職業團体ニ屬スル同種工業用運搬椅子ニ關シテハ原則トシテ本令各條ノ免除ヲ行フヲ得

下バルニーム及テルトー管區ニ屬スル町村ニアリテハ所轄警察署ハ期間延長以外ノ事件ニ於テ豫メ「ポツダム」行政官長ノ承認ヲ要スルモノトス

第五章　罰　則

第二十一條　本令違犯事項ニハ六十マルク以下ノ罰金ヲ課ス但普通刑法ニ從テ重刑ヲ加フルモノハ此限リニアラズ

千八百九十八年九月六日

ポツダム行政官首席

千八百九十九年二會十日附訓令

第一條　千八百九十八年九月六日付扛上機（運搬椅子）ノ設備及運轉ニ關スル警察令施行ニ付キテ左ノ規定ヲ設ク

第二條　1、第二項、不燃燒材料トシテ認可スベキモノ左ノ如シ

（イ）ナマコ又ハ堅牢ナル鐵葉

（ロ）モニール及ラビツツ塊

左記ノモノハ許可スベカラズ

兩面ブリキ張木造壁、兩面裝飾ノ板壁並ニギプス板床凹形ギプス板木粉ギプス板床セメント板床葦板マグネジット板キシロリット板人工火山灰石板並ニプロイン式壁ハイステル式特許乾燥壁ベーレンス式特許壁等其他アスベスト被覆木造壁及木製天井

2第四項第一節、本節記載ノ明リ穴（明取リ庭）トハ千八百九十七年八月十五日付建築警察令第十七條ニ揭ケタルモノヲ云フ本庭又ハ傍庭ノ庭ノ正面ニ設ケタル扛上機ハ本令第三條ニ之ヲ記セリ

3第四項末節「個人ノ家屋內ニテ單ニ兩階ニ通スベキ食物扛上機ニ付キテハ前記制限ナシ」ハ此末項ノミニ止マラズ第二條全部ニ通ズベキモノトス

第三條　4木庭及傍庭正面ニ於ケル扛上機ニ關シテハ本訓令第二項ヲ參照セヨ

第四條　5第二項、穴壁ニ於ケル戶ニハ面積ノ餘リ大ナラザル針金張ガラスノ窓ヲ堅固ニ取付クルヲ得此他堅牢ナルガラス（針金ヲ製セズ）ヲ以テ圍メル小形ノ覗キ穴ヲ設クルヲ得

第八條　（原書ニ五、六、七條ナク四條ノ次ニ八條トアリ）6第二項、貨物扛上機ノ兩扉戶ニ於テ多數積材ヲ以テスルモ兩扉共閉鎖スルヲ得サル場合ニアリテハ操縱機ト直接ノ關聯ヲ有スル扉ニハ此他ニ安全軌條ヲ裝スベシ該軌條ハ一方ノ扉ヲシテ閉鎖ノ機會ヲ失ハザラシムル ノ効力ヲ有シ且尙一方ノ扇ガ萬一外方ニ開キタル場合ニアリテモ操縱機ノ放擲ヲ防グニ足レル長サヲ有スルモノトス

7第三項、人体貨物扛上機及ビ昇降機ノ兩扉戶ニハ締メ付ケ裝置ヲ備フルヲ要ス次ニ運轉手ハ兩扉ガ實際閉鎖ノ機會ヲ逸セザル樣並ニ正シキ順序ヲ以テ全ク締切リヲナシ得ル樣常ニ注意シ且之ニ付責任ヲ有スル旨殊更ニ訓戒ヲ受クルモノトス

人体貨物扛上機ニ於テ第八條第二項ノ

條件ヲ具フル場合ニアリテハ第三項ノ要件ハ當然適用ヲ受クルコトナシ

第十一條（原書ニ九、十條ナク八條ノ次ニ十一條トアリ）8第一項、綱索又ハ鎖ヲ搬送貨物ヨリ放チタル場合ニ於テハ之ヲ以テ已ニ本項規定ヲ解釋シタルモノト見ルヲ得ベシ

第十三條（原書ニ十二條ナク十一條ノ次ニ十三條トアリ）9第二項、四條以上ノ綱索ヲ使用シタル場合ニアリテ各索ノ牽引力減少程度ニ關シテハ警察本部第三課ノ判定ヲ乞フベキモノトス

第十五條（原書ニ十四條ナク十三條ノ次ニ十五條トアリ）10運搬椅子全部ニ關スル次回ノ定期檢査ノ場合ニ於テハ第十五條規定10ノ遵奉如何ヲ檢スベシ

旅帶燈ノミヲ使用セル場合ニアリテハ運轉手ハ運搬椅子使用中該燈ノ明滅並ニ異狀ノ有無ニ付キ責任ヲ有ス

●第二集 第四号 掲載広告一覧（掲載順）

ホーン
池田稔事務所
出浦建築事務所
新海工務所
大阪工務所
渡辺建築事務所
片岡建築事務所
横河工務所
宗建築事務所
長野宇平治事務所
保岡勝也事務所
真水工務所
真水三橋建築事務所
間島建築事務所
古橋建築事務所
遠藤於菟
木子建築事務所

設楽建築工務所
茂、野村建築事務所
田中タイリング商会
清水工務所
石井定七
加佳美石商会
濱恒次郎本店
矢橋商店
池田勘蔵
大倉土木組大阪出張所
橋本料左衛門
大林組
竹中工務店
久保田工務所
長瀬兵馬
山本鑑之進工務所
山中工務店

鴻池忠三郎
松村組
小西組
安藤組大阪出張所
木村組
清水福太郎
清水組大阪支店
銭高組
村井工業所
銀座建築用品店
高石商会
横河橋梁製作所
日本コルク
内外土木建築材料
浅野スレート大阪出張所
大野正営業所
浅海商店

高田商会
明正社
コルク工業
大阪鉄筋混凝土工務所
大阪煖房商会
大阪電気商会
松尾和助本店
河津商店
巣鴨製作所大阪支店
大阪窯業
須賀商会
東京電気
共同建材製作所
米国貿易会社
宇野沢組スティンド硝子製作所
北木島石材大阪製作所
原安商会
日本石綿盤製造
東松工作所